Endeavor

NJ2050

ユーザーズ マニュアル

ご使用の前に
設置・準備 1
基本操作 2
装置の増設 3
BIOS設定 4
再インストール 5
困ったときに 6
付録

Windows Vista

ご使用の前に

- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警 告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 注 意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。

障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。

警 告	
	交流100V以外の電源は、使用しないでください。 交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。
	ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。
	雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。 感電の原因となります。
	電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。 ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。 ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。 ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。 電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。
	電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。 家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
	破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。 ・電源コードを加工しない。 ・無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。 ・電源コードの上に重いものを載せない。 ・発熱器具の近くに配線しない。 電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート･サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。
	本機から異臭や異音がする、発煙するなど、異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災のおそれがあります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを本機から取り外して、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。 お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
	通風孔など開口部から、本機内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。

⚠警告	
	水などの液体や異物が本機内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを本機から取り外して、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』(別冊)をご覧ください。
	本機の分解・改造や、マニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。 けが・感電・火災の原因となります。
	メモリの増設・交換をするときは、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリパックを取り外してください。 感電や火傷の原因となります。
	バッテリパックを、指定以外の方法で充電しないでください。 発熱や発火、液漏れによる被害の原因となります。
	本体や付属のバッテリパックなどを火中に入れたり、加熱したりしないでください。 破裂などで火傷の原因となります。
	バッテリパックの端子をショートさせないでください。 火傷の原因となります。
	付属のACアダプタやバッテリパックを、分解・改造しないでください。 また、本機には、指定以外のACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。 感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。 当社指定以外のACアダプタやバッテリパック、または分解・改造したACアダプタやバッテリパック(当社での修理対応は除く)での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。
	小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。 なめたりすると、火傷や化学物質による被害の原因となります。
	バッテリパックには、落下など、強い衝撃を与えないでください。 破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。
	無線LAN機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。 電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。 また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。

警告

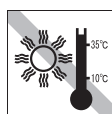
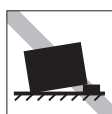
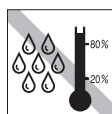
	無線LAN機能が搭載されている場合、医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。 ・手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。 ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。 ・病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。 ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。 ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
	植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、無線LAN機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。 電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。 満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
	無線LAN機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。 電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

		注 意
		小さなお子様の手の届くところに設置、保管しないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
		不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
		湿気やホコリの多い場所に置かないでください。 感電・火災の危険があります。
		本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。 設置する際は、次の点を守ってください。 ・押し入れや本箱など風通しの悪いところには設置しない。 ・じゅうたんや布団の上には設置しない。 ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。
		各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。 配線を誤ると、火災の危険があります。
		ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。 ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。
		パームレストやキーボードに長時間手を置かないでください。 パームレストやキーボードが熱くなることがあり、低温火傷のおそれがあります。
		ひざの上で長時間使用しないでください。 本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。
		付属のACアダプタやバッテリパックは、本機以外には使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。
		破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。
		ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。 火傷・火災の危険があります。

⚠ 注 意	
	ACアダプタの温度の高い部分に、長時間直接触れないでください。 低温火傷の原因になります。
	メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。 火傷の危険があります。 作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
	液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。 火傷や化学物質による被害の原因となります。 万一、液体が皮膚に付着したり、目に入ったりした場合は流水で十分に洗い、医師に相談してください。
	光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。 内部で飛び散って故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。
	長時間または不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。 肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。
	本機を移動する場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。
	連休や旅行などで本機を長期間使用しないときは、安全のため、電源プラグをコンセントから抜いて、本機からバッテリパックを取り外してください。
	本機を廃棄する場合は、法律に従って正しく処理してください。 液晶ディスプレイに使用している蛍光管（バックライト）には、水銀が含まれています。

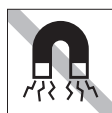
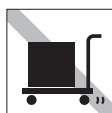
製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

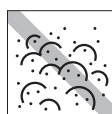
コンピュータ（本機）は精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本機を正しく取り扱ってください。
次の注意事項は、特に指定のない限り、本体およびACアダプタやバッテリパックなどの同梱品に適用されます。

温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。

不安定な所には設置しないでください。落下したり、振動したり、倒れたりすると、本機が壊れ、故障することがあります。

湿度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。適切な湿度の目安は20％～80％です。

LCD画面の表面を先のとがったもので引っかいたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。

直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。
また、直射日光などの紫外線は、変色の原因になります。

本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。本機の誤動作が生じたり、データが破壊されることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。

遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。
衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。

電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。バッテリパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。

本機を長期間使わないときは、バッテリパックを本機に装着したままにしないでください。
液もれを起こすことがあります。

ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。

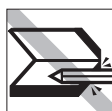
本機の上に重い物を載せたり、強く押さえ付けないでください。
LCDやバックライトが破損したり、表示異常となることがあります。

他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。

本機を落としたり、ぶつけるなど、ショックを与えないでください。持ち運ぶときは、バッグに入れるなどしてショックから守るようにしてください。

ACアダプタはコードを持って抜き差ししないでください。
コードの断線や接触不良の原因となります。

ACアダプタの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破壊しないでください。

本機のLCDユニット（液晶ディスプレイ部）を開けた状態で、LCDユニットを持って移動しないでください。

キーボードの上などに、物（ボールペンなど）をはさんだまま、LCDユニット（液晶ディスプレイ部）を閉じないでください。

▶記録メディア

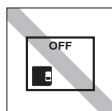
次のような取り扱いをすると、次の記録メディアに収録されたデータが破壊されるおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

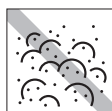
CD	光ディスクメディア
MC	メモリカード

次の注意事項は、特に記録メディアの種類に指定のない限り、すべての記録メディアに適用されます。

直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。

アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。

上に物を載せないでください。

使用後は、本機にセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。
専用のケースに入れて保管してください。

キズを付けないでください。

ゴミやホコリの多いところでは使用しないでください。また、そのような場所に記録メディアを保管しないでください。

クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。

磁性面や金属端子にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。

MC

信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD

信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD

レコードのように回転させて拭かないでください。
内側から外側に向かって拭いてください。

CD

温度差の激しい場所に置かないでください。結露する場合があります。

CD

テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

MC

レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。

CD

光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。

CD

シールを貼らないでください。

CD

無線LAN使用時における セキュリティに関する注意（無線LAN搭載時のみ）

お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。無線LANを使用する前に、必ずお読みください。

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANや無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関するすべての設定をマニュアルに従って行ってください。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

※ セキュリティ対策を施さず、または、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

目　次

製品保護上の注意 8
使用・保管時の注意 8
記録メディア 9
無線LAN使用時における
セキュリティに関する注意（無線LAN搭載時のみ）... 11

はじめに

マニュアル中の表記 18
本製品の仕様とカスタマイズ 22

使い始めるまでの準備

ご使用の前に 24
コンピュータを使い始めるまでの手順 24
ご使用前の確認事項 25
添付されているソフトウェア 26
本機でできること 28
各部の名称と働き 29
正面・左側面 29
右側面 32
背面 32
底面 33
コンピュータの設置 34
電源の入れ方とWindowsのセットアップ 39
Windowsが使用できるようになるまでの作業 ... 39
電源を入れる前に 39
電源の入れ方とWindowsの起動 41
Windowsのセットアップ 42
セットアップ完了後の作業 44
Windows使用時の確認事項 45
音量の調節 45
インフォメーションメニューを使う 45
Windowsの修復 47
復元ポイントを作成する 47
セキュリティ対策を行う 47
画面表示が消えたときは（省電力機能）... 48
コントロールパネルの表示 48
フォルダメニューの表示 49
ユーザーアカウントを作る 49
ユーザーアカウント制御画面 50
本機の終了方法 51
通常の終了（スリープ）........ 52
電源を切る（シャットダウン）........ 53
再起動 54
ハングアップしたときは 55

コンピュータの基本操作

ACアダプタ/バッテリパックを使う 58
使用時の注意 58
バッテリの使用可能時間 60
バッテリの充電 60
バッテリ残量の確認 61
バッテリ残量が少なくなったら 61
バッテリの交換 63
バッテリの寿命を延ばすには 64
バッテリ保管上の注意 65
使用済みバッテリの取り扱い 65
タッチパッドを使う 66
タッチパッドの操作 66
タッチパッド機能をOFFにする 68
タッチパッドユーティリティを使う 68
USBマウス（オプション）の接続 68
キーボードを使う 69
キーの種類と役割 69
文字を入力するには 70
日本語を入力するには 70
数値やアルファベットの入力 71
Fnキーと組み合わせて使うキー 72
入力キーの機能の入れ替え 73
インスタントキー 74
HDDを使う 75
データのバックアップ 75
購入時のHDD領域 75
HDDを分割して使用する 76
光ディスクドライブを使う 77
ドライブの機能と使える
光ディスクメディア 77
光ディスクメディアのセットと取り出し ... 78
強制的な光ディスクメディアの取り出し ... 81
CDメディアの読み込み・再生 82
DVDメディアの読み込み・再生 82
光ディスクメディアへの書き込み 83
Nero 7 Essentialsの使い方 84
USB機器を使う 86
USB機器の接続と取り外し 86
PCカードを使う 88
PCカードのセットと取り外し 89
メモリカードを使う 93
本機で使用できるメモリカード 93
メモリカードのセットと取り外し 94

画面表示をする ... 97
LCDユニットの仕様 ... 97
LCDユニットの調整 ... 98
表示できる解像度と表示色 ... 99
画面サイズを切り替える ... 100
外付けディスプレイに表示する ... 104
ディスプレイの接続 ... 104
表示できるモードの種類 ... 105
モードを切り替えるには ... 106
外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色 ... 110
サウンド機能を使う ... 111
マイクなどの接続 ... 112
音声の再生・録音 ... 113
サウンドユーティリティを使う ... 114
ネットワーク（有線LAN）を使う ... 115
ネットワークの構築 ... 115
インターネットへの接続 ... 115
主な機能 ... 116
無線LANを使う（オプション） ... 117
無線LANの概要 ... 117
無線LAN機能をお使いの前に ... 118
無線LANのセキュリティ対策 ... 120
無線LANのON/OFF切替 ... 122
無線LAN接続の作業の流れ ... 123
無線LANで接続する ... 123
手動でプロファイルを作成して接続する ... 126
無線LANを使用する ... 127
インターネットに接続するには ... 128
接続するまでの流れ ... 128
接続方法の選択とプロバイダとの契約 ... 128
インターネットに接続する ... 129
インターネットを使う上での注意 ... 130
インターネットや電子メールを利用する ... 130
インターネットを使用する際のセキュリティ対策 ... 133
Windows Update ... 133
セキュリティソフトウェア ... 135
ファイアウォール ... 136
Windows Defender ... 137
フィッシング詐欺検出機能 ... 138
電源設定を行う（省電力機能を使う） ... 139
電源プランの設定 ... 139
本機を省電力状態にする ... 140
省電力状態に移行する方法 ... 142
そのほかの機能 ... 145
IEEE1394コネクタ ... 145
スピードステップ機能 ... 145
セキュリティロックスロット ... 146

システムの拡張

拡張できる装置 ... 148
メモリの装着 ... 149
メモリの仕様 ... 149
作業時の注意 ... 150
メモリの増設・交換 ... 151
メモリの増設・交換後の作業 ... 155
外付け可能な周辺機器 ... 156

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に ... 158
BIOS Setupユーティリティの操作 ... 159
BIOS Setupユーティリティの起動 ... 159
BIOS Setupユーティリティの操作 ... 160
BIOS Setupユーティリティの終了 ... 163
設定値を元に戻す ... 163
Passwordを設定する ... 164
起動（Boot）デバイスの順番を変更する ... 168
BIOS Setupユーティリティの設定項目 ... 170
Mainメニュー画面 ... 170
Advancedメニュー画面 ... 171
Securityメニュー画面 ... 172
Bootメニュー画面 ... 174
Exitメニュー画面 ... 174
BIOS Setupユーティリティの設定値 ... 175

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください ... 178
再インストールが必要な場合 ... 178
重要事項 ... 178
ソフトウェアの再インストールを行う ... 179
必要なメディア ... 179
再インストールの概要 ... 179
インストールの順番 ... 180
インストール作業における確認事項 ... 181
Windowsのインストール ... 182
Windows Vistaをインストールする ... 183
リカバリツールのインストール ... 186
本体ドライバのインストール ... 186
Adobe Readerのインストール ... 188

セキュリティソフトウェアのインストール ... 189
マニュアルびゅーわのインストール 189
Nero 7 Essentialsのインストール 190
WinDVDのインストール 190
JWord Pluginのインストール 191
gooスティックのインストール 191
そのほかのインストール 191
再インストール後の作業 192

こんなときは

トラブルが発生したら 194
困ったときに 195
コンピュータ本体の不具合（起動時）... 196
コンピュータ本体の不具合 203
メモリの不具合 206
記憶装置の不具合 207
入力装置の不具合 211
表示装置の不具合 213
サウンドの不具合 214
ソフトウェアの不具合 214
ネットワーク、インターネットの不具合 ... 217
システム診断ツールを使う 218
システム診断を実行する 218
トラブル時に役立つ機能 219
セーフモードでの起動 219
システムの復元 219
Windows回復環境（Windows RE）を使う ... 221
警告メッセージ/警告音 224

付録

お手入れ 226
本機のお手入れ 226
データのバックアップ 227
バックアップ方法 227
バックアップCDの作成 228
バックアップCDの作成方法 228
バックアップCDからインストールを行うには ... 229
電子マニュアルのダウンロード 230
ダウンロードできるそのほかのデータ .. 230
セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化 ... 231
HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成 232
HDD領域を分割して使用する（概要）... 232
Cドライブを分割・変更する 233
Cドライブ以外のドライブを作成・変更する ... 236
Cドライブ以外のドライブを削除する 239
リチウム電池の交換 240
コンピュータを廃棄するときは 241
HDDのデータを消去する 241
機能仕様一覧 243
索引 245

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

「マニュアル中の表記」.......... 18
「本製品の仕様とカスタマイズ」.......... 22

マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号

	制限事項です。 機能または操作上の制限事項を記載しています。
	参考事項です。 覚えておくと便利なことを記載しています。
『　』	本書とは別のマニュアルを示します。 例）『梱包品の確認』：本機に添付の『梱包品の確認』を示します。
	参照ページを示します。
1 2	操作手順です。 ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。
Ctrl	□で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。 ↵はEnterキーを表します。また、Nは N みのことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。
Ctrl + Z	＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。 この例では、Ctrlを押したままZを押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリカード	メモリースティック、マルチメディアカード、SDメモリーカードの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

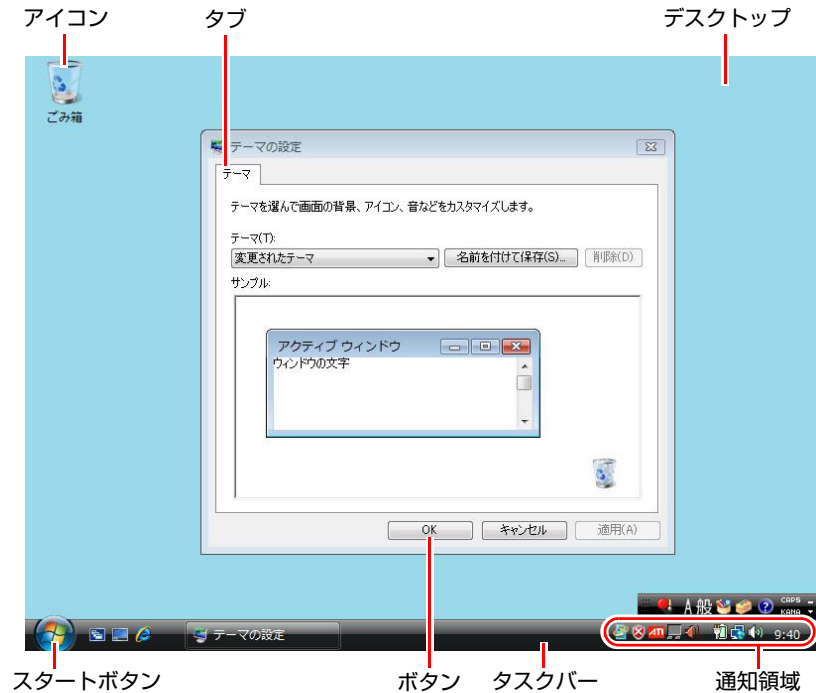
Windows Vista	Windows Vista™ Ultimate Windows Vista™ Business Windows Vista™ Home Premium Windows Vista™ Home Basic

HDD容量の記述

本書では、HDD容量を1KB（キロバイト）＝1000Byteとして記載しています。

Windows Vistaの画面表示に関する記載方法

デスクトップ画面

本書では、Windows Vistaの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

ボタン

ボタンは［　］で囲んで記載します。

例） OK ：［OK］

スタートメニュー

［スタート］を押すと表示されるスタートメニューのボタン類は、次のように記載します。

画面操作

本書では、Windows Vistaの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

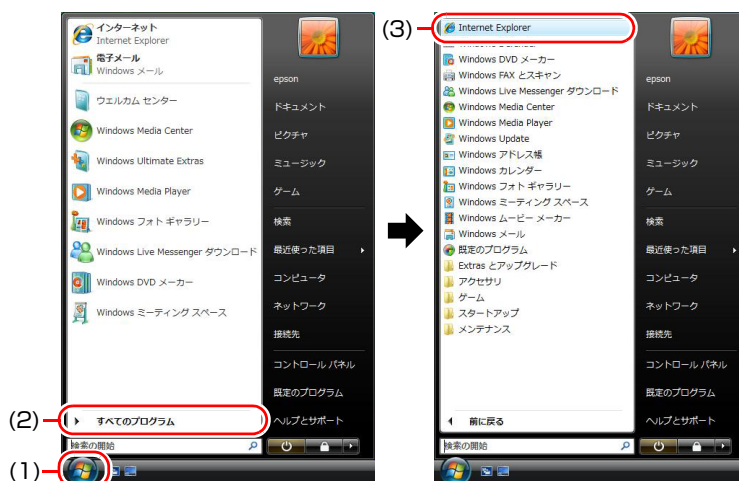
- 記載例

  [スタート] –「すべてのプログラム」–「Internet Explorer」をクリックします。

- 実際の操作

  (1) [スタート] をクリックします。

  (2) 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

  (3) 表示されたメニューから「Internet Explorer」をクリックします。

※表示される項目は、システム構成によって異なります。

本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPUの種類・メモリ容量・光ディスクドライブなど、選択した仕様にあわせて、お客様 オリジナルのコンピュータとして組み立て、納品されています。

仕様によって必要なマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、ユーザーズマニュアル （本書）とは別に添付されている場合があります。
お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で添付されていますので、確認してください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROMなどに収録されている電子マニュアル（PDFファイルなど）
- コンピュータに収録されている電子マニュアル（「マニュアルびゅーわ」から閲覧）

第1章 使い始めるまでの準備

本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

「ご使用の前に」 24
「添付されているソフトウェア」 26
「本機でできること」 28
「各部の名称と働き」 29
「コンピュータの設置」 34
「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」 39
「Windows使用時の確認事項」 45
「本機の終了方法」 51

ご使用の前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後にはじめて本機を使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。

梱包品に不足や不良がないかを確認する

『梱包品の確認』（別冊）

本機を使用する前に必要な情報を確認する

p.2 「安全にお使いいただくために」
p.8 「製品保護上の注意」
p.18 「マニュアル中の表記」
p.22 「本製品の仕様とカスタマイズ」
p.24 「ご使用の前に」
p.26 「添付されているソフトウェア」
p.28 「本機でできること」
p.29 「各部の名称と働き」

コンピュータを設置し、各機器の接続を行う

p.34 「コンピュータの設置」

電源を入れ、Windowsをセットアップする

p.39 「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」

使用開始！

ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機には、製品情報が記載された次のラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

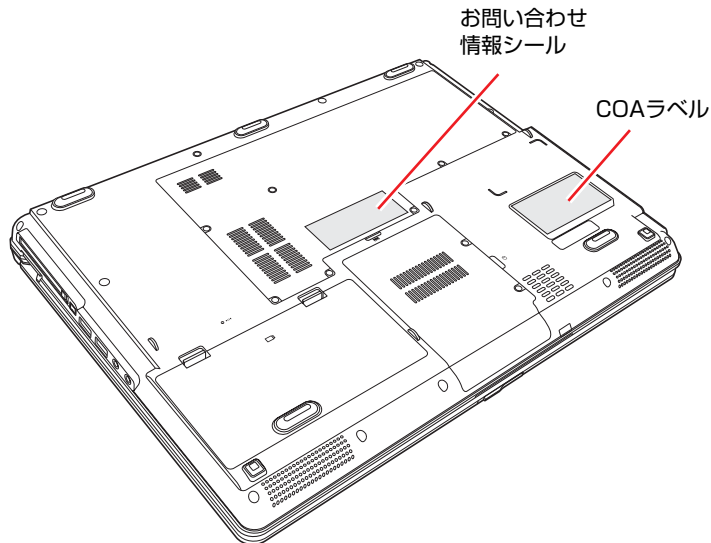
- お問い合わせ情報シール

  お問い合わせ情報シールには、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

  お問い合わせ情報シールに記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）の表紙に書き写しておいてください。

- COAラベル

  COAラベル（Windows Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

  万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。

サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

添付されているソフトウェア

購入時、本機にインストールされているソフトウェアと、購入後、必要に応じてインストールが必要なソフトウェアは次のとおりです。

表中記号の見方

	ソフトウェアは添付のDVDまたはCDに収録されています。
	ソフトウェアはHDDの「消去禁止領域」に収録されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。「消去禁止領域」は、絶対に削除しないでください。 p.76 「消去禁止領域とは」

本機にインストールされているソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● Windows Vista 本機のオペレーティングシステム（OS）です。	Windows VistaリカバリDVD
● リカバリツール HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのプログラムです。	リカバリツールCD
● ビデオドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。	消去禁止領域
● サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。	
● タッチパッドドライバ タッチパッドを使用するためのドライバです。	
● ネットワークドライバ ネットワーク機能（有線LAN）を使用するためのドライバです。	
● 無線LANドライバ（無線LAN搭載時のみ） 無線LANを使用するためのドライバです。	
● メモリカードドライバ メモリカードスロットを使用するためのドライバです。	
● インスタントキードライバ Fn と組み合わせて使用する機能キーや、インスタントキーを使用するためのドライバです。	
● インスタントキーユーティリティ インスタントキーを使用するためのユーティリティです。	
● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。	
● インフォメーションメニュー 本機に添付のマニュアルやサポートページを閲覧するためのユーティリティです。	
● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。	

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● Adobe Reader PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。	消去禁止領域
● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。	
● マニュアルびゅーわ 本機に添付されているマニュアルやお知らせを見るためのソフトウェアです。	
● Nero 7 Essentials（書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ） 光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。	
● WinDVD（DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ） DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。	

必要に応じてインストールが必要なソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。

p.44 「セットアップ完了後の作業」

本機にインストールされていないソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● Norton Internet Security 90日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺対策機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。	消去禁止領域
● セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップ（TPM）の設定を行うためのユーティリティです。	

そのほかのソフトウェア

次のソフトウェアは、CDから起動して実行します。インストールは必要ありません。

p.218 「システム診断ツールを使う」

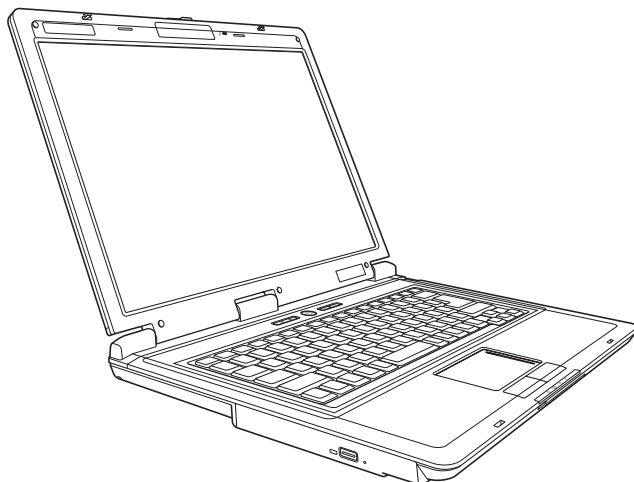
そのほかのソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● システム診断ツール コンピュータの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD内のデータを消去することもできます。	リカバリツールCD

消去禁止領域に収録されているソフトウェアのバックアップ

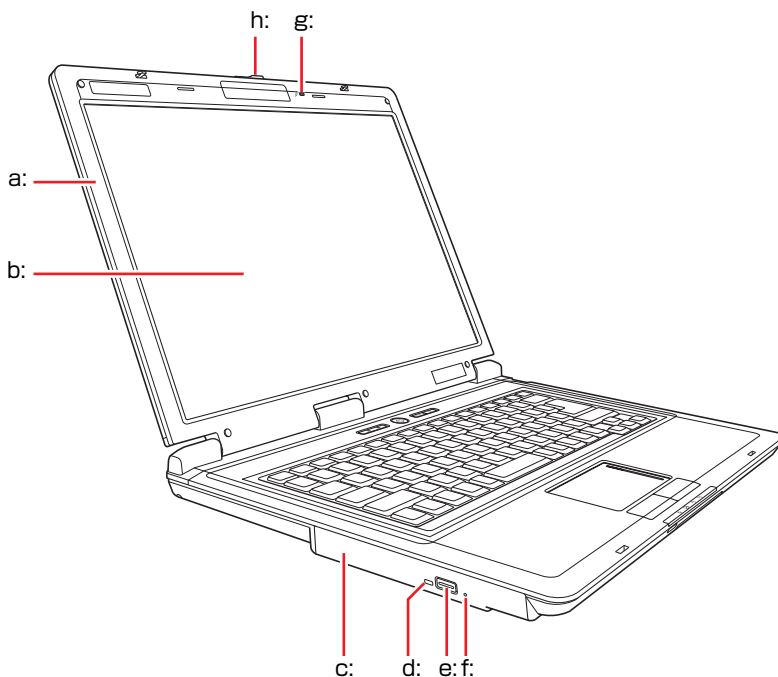
書き込み機能のある光ディスクドライブを搭載している場合、HDDの「消去禁止領域」に収録されているソフトウェアを、CDにバックアップすることができます。

p.228 「バックアップCDの作成方法」

本機でできること

本機は15.4型ワイド液晶ディスプレイ搭載のノート型コンピュータです。
本機では、主に次のようなことができます。

インターネットやメールを利用する p.130	光ディスクを再生する 光ディスクにデータを保存する （オプション） p.77
ネットワークに接続する p.115	無線LANを使う（オプション） p.117
USB機器を接続して使う p.86	IEEE1394機器を接続して使う p.145
PCカードやメモリカード（メモリースティックなど）を使う p.88 p.93	音声の入力・出力をする p.111
画面表示を調節する p.97	外付けディスプレイに表示する p.104
省電力機能を使う p.139	メモリを増設・交換する p.149

各部の名称と働き

▶正面・左側面

a: LCDユニット
LCD画面やLCDラッチを含めた画面部分の総称です。

b: LCD画面
入力した文字や、作業内容を表示します。

c: 光ディスクドライブ
CD-ROMなどの光ディスクメディアの読み込みや書き込みなどを行います。

d: 光ディスクドライブアクセスランプ*
メディアへのアクセス中に点灯・点滅します。

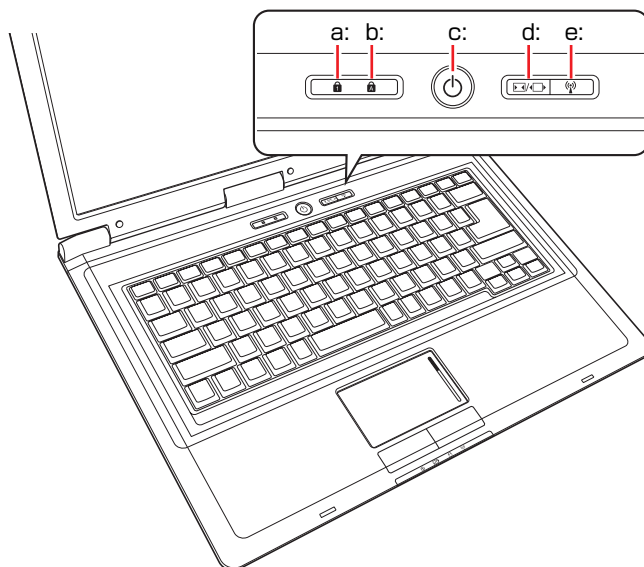
e: イジェクトボタン*
光ディスクドライブのディスクトレイを開けるときに押します。

f: イジェクトホール*
光ディスクドライブのディスクトレイが開かなくなった場合に使用します。

g: 内蔵マイク
音声をコンピュータに取り込みます。

h: LCDラッチ
LCDユニットを開くときにスライドします。

* 位置はお使いの光ディスクドライブによって異なります。光ディスクドライブのPDFマニュアルをご覧ください。
PDFマニュアルは、「マニュアルびゅーわ」からご覧になれます。
p.45 「インフォメーションメニューを使う」

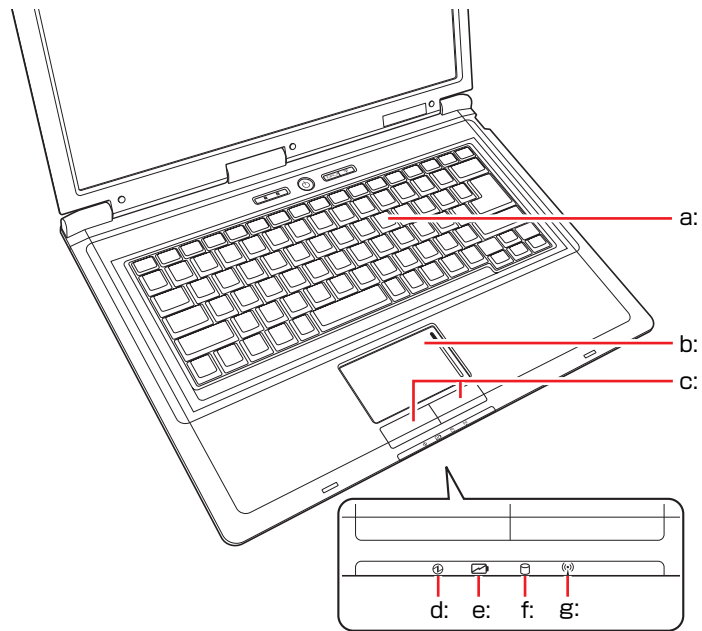
電源スイッチ／ステータス表示ランプ／インスタントキー

a: NumLockランプ
NumLockキーの設定状態を表示します。青色に点灯しているときは、数値キーモードに設定されています。

b: Caps Lockランプ
Caps Lockキーの設定状態を表示します。青色に点灯しているときは、アルファベットの大文字を入力することができます。

c: 電源スイッチ
本機の電源の入/切を行います。また、スリープ状態や休止状態からの復帰にも使用します。

d: 画面サイズ切り替えキー /
キーを押すたびに、画面のサイズを切り替えます。

e: 無線LANキー
＜無線LAN搭載時のみ機能＞
本機の無線LANのON/OFFを切り替えます。

タッチパッド／キーボード／ステータス表示ランプ

a: キーボード
文字の入力やソフトウェアの操作などを行います。

b: タッチパッド
指を軽く乗せて操作することにより、画面上のポインタを操作します。

c: クリックボタン
マウスの左右ボタンに相当します。

d: 電源ランプ
電源状態を示します。
青点灯：通常
青点滅：スリープ状態
消　灯：電源切断時または休止状態

e: バッテリ充電ランプ
バッテリの充電状態を示します。
オレンジ色点灯：充電中
消　灯：満充電

f: アクセスランプ
HDDアクセス中に青色に点灯します。

g: 無線LAN状態ランプ
<無線LAN搭載時のみ機能>
無線LANがONのときに点灯します。

アクセスランプが点灯しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

▶右側面

a: ヘッドフォン出力コネクタ
スピーカ、ヘッドフォンなどを接続します。

b: マイク入力コネクタ
マイクを接続します。

c: USBコネクタ 2.0
USB対応機器を接続します。

d: IEEE1394コネクタ 1394
IEEE1394 機器を接続します（4 ピン）。

e: PCカードイジェクトボタン
PCカードを取り出すときに押します。

f: PCカードスロット
PC Card Standard 規格準拠のPCカードをセットします。

g: メモリカードスロット MMC.SD.MS/PRO
メモリカードの読み込みや書き込みなどを行います。

▶背面

a: VGAコネクタ
外付けディスプレイ（アナログタイプ）を接続します。

b: USBコネクタ 2.0
USB対応機器を接続します。

c: LANコネクタ
ネットワークと接続します。

d: ACアダプタコネクタ DCIN
付属のACアダプタを接続します。

e: セキュリティロックスロット
市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を接続します（ケンジントン社製セキュリティロックに対応しています）。

f: 通風孔
コンピュータ内部で発生する熱を逃がします。

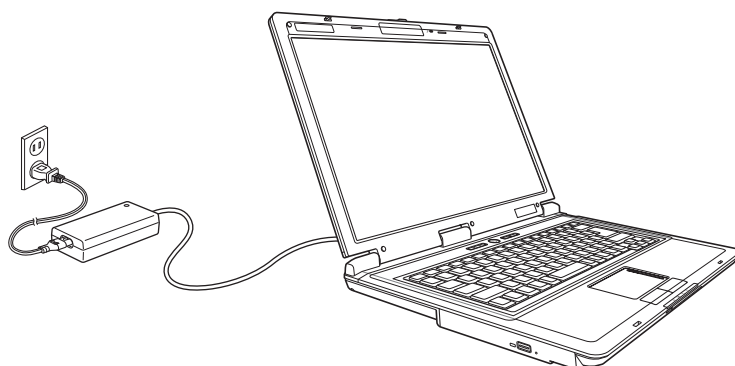
▶底面

a: リセットホール▶O◀
　コンピュータを強制終了させるときに使用します。

b: バッテリパック
　付属のバッテリパックを装着します。

c: 内蔵ステレオスピーカ
　警告音（ビープ音）や音声などを鳴らします。

コンピュータの設置

本機を使用できる状態にするために、バッテリパックを装着したり、ACアダプタを接続したりする手順を説明します。
プリンタなどの周辺機器を接続する場合は、Windowsのセットアップ完了後に周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。

設置における注意

注意

- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置の際は次の点を守ってください。
  - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところには設置しない。
  - ・じゅうたんや布団の上には設置しない。
  - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。
- ひざの上で長時間使用しないでください。本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。

各種コードやバッテリパック装着時の注意

警告

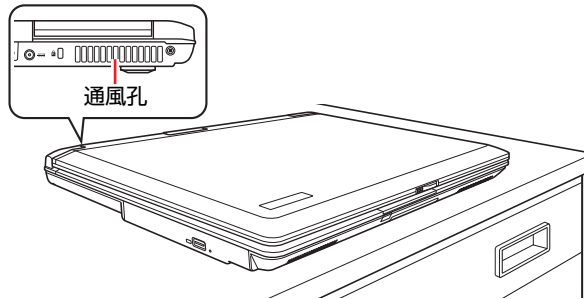
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
  - ・電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  - ・電源プラグは刃の先まで確実に差し込む。

注意

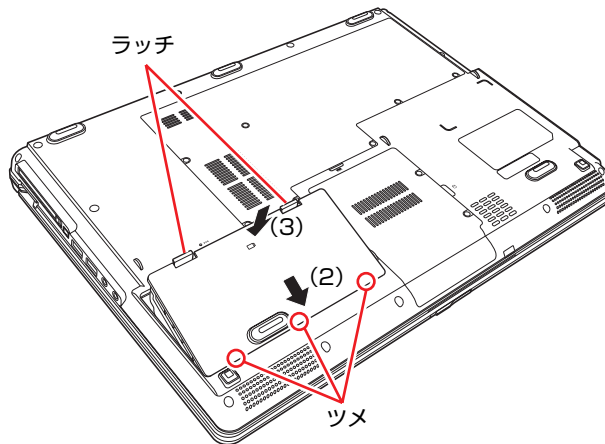
各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

設置する

1 **本機を設置場所（机などの丈夫で水平な台の上）に置きます。**

背面の通風孔をふさがないようにしてください。

バッテリパックを取り付ける

2 **バッテリパックを取り付けます。**

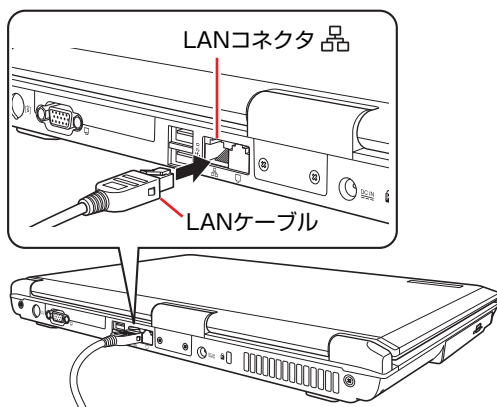
(1) 本機の底面部を上にして置きます。
(2) バッテリパックのツメ（3箇所）を本体の正面側と合わせます。
(3) ラッチ側を押し込みます。
正しくセットされると、「カチッ」と音がします。

出荷時にバッテリパックは満充電状態ではありません。バッテリパックだけで使用する場合は、使用前に充電が必要です。

p.58 「ACアダプタ/バッテリパックを使う」

ネットワークへ接続する

3　ネットワーク（有線LAN）を使用する場合は、市販のLANケーブルを本機背面のLANコネクタ（ 品 ）に接続します。

LANケーブルが抜けないように、しっかり差し込んでください。

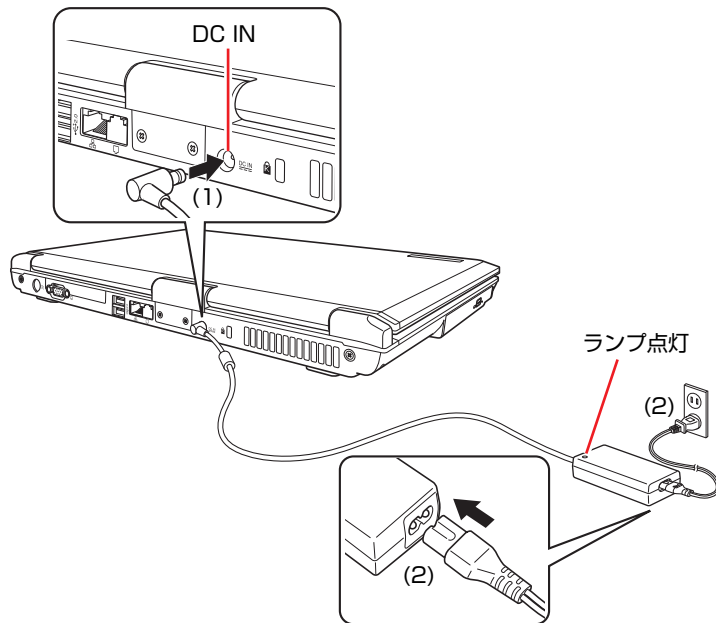
インターネットへの接続作業はWindowsのセットアップ後に行います。接続方法は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。

ACアダプタを接続する

本機を持ち運ぶ必要がない場合は、通常ACアダプタを接続して使用します。

4 **ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。**

(1) ACアダプタのプラグ部を本機背面のACアダプタコネクタ（DC IN）に接続します。

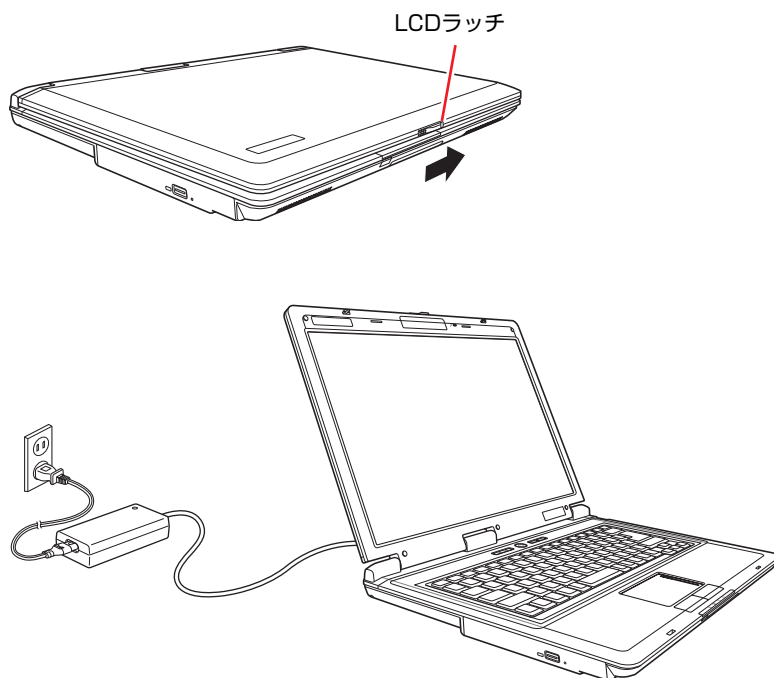
プラグ端子部が見えなくなり、「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込みます。

(2) 電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。

AC アダプタを接続して使用するときも、バッテリパックは必ずセットしてください。

1

LCDユニットを開ける

5　前面のLCDラッチを右側にスライドさせて、LCDユニットを開きます。

LCDユニットは、見やすい角度に調節してください。

これでコンピュータの設置は完了です。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

ここでは、本機にはじめて電源を入れて、Windowsを使用できる状態にするまでの作業について説明します。

Windowsが使用できるようになるまでの作業

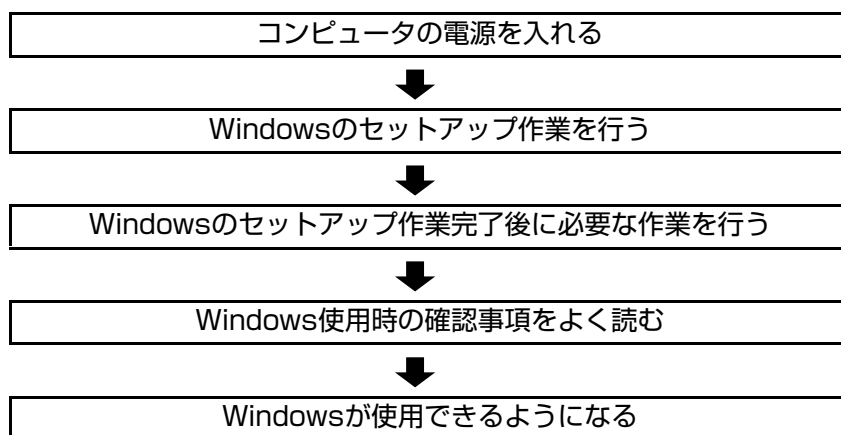
作業の流れは、次のとおりです。p.39 「電源を入れる前に」以降の手順に従って作業を行ってください。

コンピュータの電源を入れる

Windowsのセットアップ作業を行う

Windowsのセットアップ作業完了後に必要な作業を行う

Windows使用時の確認事項をよく読む

Windowsが使用できるようになる

電源を入れる前に

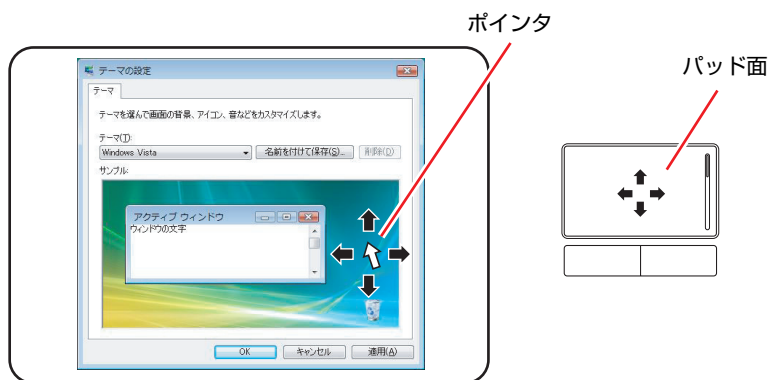
Windowsのセットアップとは

「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って、セットアップを簡単に行うことができます。

タッチパッドの使い方

Windowsのセットアップは、タッチパッドの操作で行います。セットアップで必要なタッチパッドの基本操作は、次のとおりです。

● ポインタを動かす

人差し指をタッチパッドのパッド面に触れたまま前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているポインタも指と同じ動きをします。

● ボタンをクリックする

(1) 指を動かして、ポインタを画面のボタンの上に重ねます。

(2) 左クリックボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

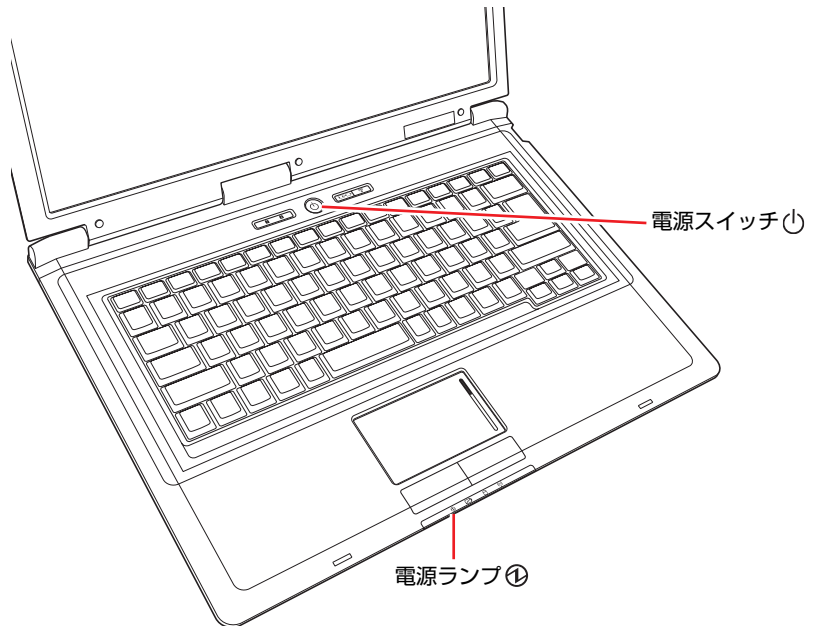
この動作を「クリック」と言います。

画面のボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。

▶電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

1　電源スイッチ（⏻）を押して、本機の電源を入れます。

電源ランプ（⏻）が点灯します。
電源を入れたときに電源ランプが点灯しない場合は、ACアダプタやバッテリパックが正しく接続されているか確認してください。

2　黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

画面の角度や明るさを調節して画面を見やすくします。

- **角度**
  LCDユニットの角度を調節します。
- **画面の明るさ**
  Fn＋F5（☀）：暗くなります。
  Fn＋F6（☼）：明るくなります。

続いてWindowsのセットアップを行います。

☞ p.42 「Windowsのセットアップ」

Windowsのセットアップ

電源を入れたあと、しばらくすると自動的に「Windows Vistaセットアップ」が実行されます。画面の指示に従ってセットアップを行ってください。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。

Windowsのセットアップ

次のように表示されていることを確認し、［次へ］をクリックします。
国または地域：日本
時刻と通貨の形式：日本語（日本）
キーボードレイアウト：Microsoft IME

ライセンス条項をお読みになってください

画面に表示された条項を確認し、「ライセンス条項に同意します」にチェックを付けて、［次へ］をクリックします。

ユーザー名と画像の選択

ユーザー名、パスワードを入力し、画像を選択したら、［次へ］をクリックします。
※「パスワード」は必要に応じて入力してください。
　パスワードを設定すると、設定したユーザー名（アカウント）でログオン時にパスワードの入力が要求されます。パスワードを設定した場合は、絶対に忘れないようにしてください。

コンピュータ名を入力してデスクトップの背景を選択してください

コンピュータ名を入力し、背景を選択したら、［次へ］をクリックします。
※「コンピュータ名」は、本機をネットワーク（家庭内LANや社内LAN）に接続して使用する場合などに必要です。

- ネットワークに接続しない場合は、セットアップ時にコンピュータ名を変更する必要はありません。
- ネットワークに接続する場合は、ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を変更してください。

Windowsを自動的に保護するよう設定してください

保護の設定をクリックして選択します。
「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。
※「推奨設定を使用します」を選択すると、Windows Updateが自動で行われるようになります。

p.133 「Windows Update」

1

時刻と日付の設定の確認

「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定して、［次へ］をクリックします。

お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください

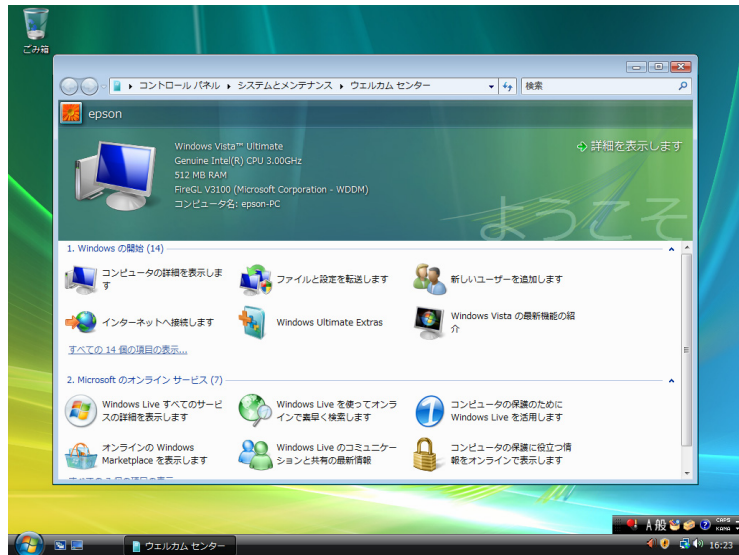
ネットワークに接続している場合、表示されます。
使用する場所を選択します。

ありがとうございます

［開始］をクリックします。デスクトップ画面が表示されるまで、約5分かかります。

デスクトップ画面の表示

Windows Vistaのデスクトップ画面が表示されます。

※パスワードを設定した場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力すると、デスクトップ画面が表示されます。

＜壁紙は予告なく変更する場合があります＞

これでWindows Vistaのセットアップは完了です。
続けて、 p.44「セットアップ完了後の作業」を行います。

参考

ライセンス認証について

購入時に本機にインストールされているWindows Vistaや、「Windows Vistaリカバリ DVD」から再インストールを行ったWindows Vistaは、ライセンス認証を行う必要はありません。

▶セットアップ完了後の作業

Windows のセットアップが完了したら、次の作業を行います。

初期設定ツール

Windowsのセットアップが完了すると、「初期設定ツール」が自動的に起動します。初期設定ツールは、本機を使用する前に必要な設定を行うためのツールです。画面に従って設定を行ってください。

セキュリティソフトウェアのインストール

購入時、本機にセキュリティソフトウェアはインストールされていません。初期設定ツールの「セキュリティ設定」画面の指示に従ってインストールしてください。

＜通常の場合＞

通常は、本機に標準添付の「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。インストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』(別冊)をご覧ください。

＜セキュリティソフトウェアをオプション購入された場合＞

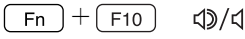
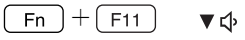
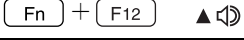
本機購入時にオプション選択でセキュリティソフトウェアの製品版を購入された場合は、「セキュリティ設定」画面で製品版を選択してインストールしてください。

セキュリティソフトウェアによっては、初期設定ツールからインストールができない場合があります。初期設定ツールの終了後、セキュリティソフトウェアに添付のCDからインストールを行ってください。

ネットワークに接続する

ネットワーク機能(有線LAN)や、無線LAN機能(オプション)を使用する場合は、ネットワーク接続に関する情報が必要です。お使いのネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

p.115 「ネットワーク(有線LAN)を使う」
p.117 「無線LANを使う(オプション)」

Windows使用時の確認事項

「セットアップ完了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項を確認してください。
Windowsの使用方法は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が大きすぎたり小さすぎたりする場合には、音量を調節します。
次のキーを操作してください。

キー操作	状　態
Fn ＋ F10 🔊/🔇	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除される。
Fn ＋ F11 ▼🔈	音量が小さくなる。
Fn ＋ F12 ▲🔊	音量が大きくなる。

インフォメーションメニューを使う

本機には、本機に添付されているマニュアルを見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

起動方法

インフォメーションメニューの起動方法は次のとおりです。

- Fn ＋ F4（💬）を押す
  p.72 「Fnキーと組み合わせて使うキー」
- デスクトップ上の「インフォメーションメニュー」アイコンをダブルクリックする

- スタートメニューから起動する

インフォメーションメニューが起動すると、次の画面が表示されます。

インフォメーションメニューの項目

インフォメーションメニューの各項目の内容は、次のとおりです。

● マニュアルびゅーわ

本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。ユーザーズマニュアル（本書）のHTMLマニュアルや光ディスクドライブのPDFマニュアル、「Nero 7 Essentials」や「WinDVD」などのソフトウェアに添付されているマニュアルを見ることができます。

「警告」が表示された場合は

電子マニュアルを閲覧しようとすると、情報バーと呼ばれるInternet Explorerのアドレスバーの下方に「セキュリティ保護のため、このコンピュータにアクセスする可能性のあるスクリプトやActiveXコントロールを実行しないよう・・・」と警告が表示される場合があります。
この場合は、情報バーをクリックし、「ブロックされているコンテンツを許可」をクリックしてください。

● PCお役立ち情報

コンピュータに関する便利で役立つ情報や用語集を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピュータを使用する際の参考にしてください。

● とらぶる解決ナビ

技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。

p.194 「トラブルが発生したら」

● ユーザーサポートページ（Web）

技術的な情報、トラブルの解決方法や保証サービスのご案内などを掲載しています。マニュアルやドライバ、BIOSの最新バージョンもダウンロードできます。

p.230 「電子マニュアルのダウンロード」

「ユーザーサポートページ」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

● サポート情報検索（Web）

「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。とらぶる解決ナビで本機の不具合が解決できなかった場合にご覧ください。

「サポート情報検索」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

● トラブルが解決しなかったら

技術的なご質問や修理依頼などの問い合わせ先、メールサポートの方法などを掲載しています。マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合にご覧ください。

Windowsの修復

本機のHDDには「Windows回復環境」が設定されています。これは、Windowsが起動できないなどの不具合を修復する機能です。

Windowsが起動できないときなどは実行してみてください。

p.221 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

復元ポイントを作成する

Windowsの「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくと、本機の動作が不安定になった場合、システムの復元機能を使用して、作成しておいた復元ポイントまでシステムの状態を戻すことができます。

復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

p.220 「復元ポイントを手動で作成する」

セキュリティ対策を行う

本機には、コンピュータを外部と接続することで高まる危険から守るためのセキュリティ機能が搭載されています。

インターネットに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。

p.133 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

▶画面表示が消えたときは（省電力機能）

本機は、一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるように設定されています。画面表示が消えて、本機の電源ランプが点滅している場合は、スリープ状態になっています（購入時の設定）。この場合は、電源スイッチを押すか、キーボードを操作すると元に戻ります。

p.144 「省電力状態からの復帰方法」

▶コントロールパネルの表示

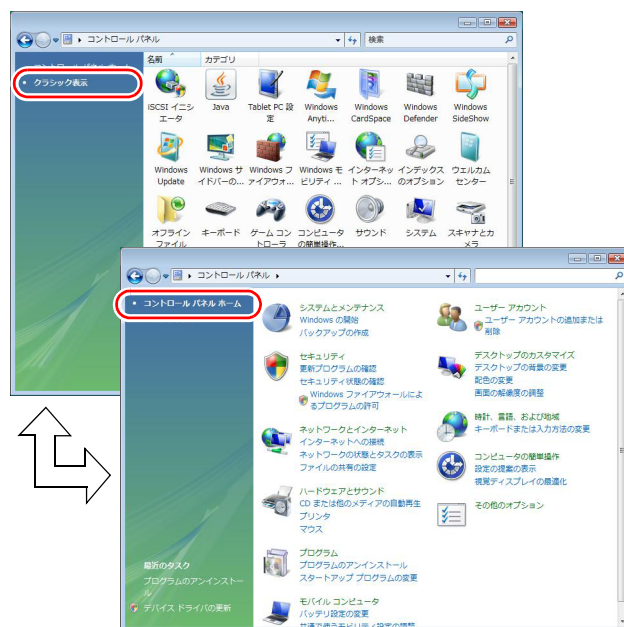
コントロールパネルの表示には、次の2種類があります。

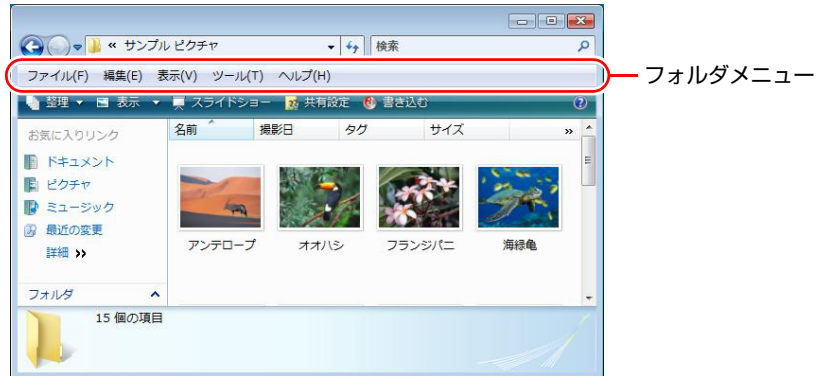
- **カテゴリの表示（コントロールパネルホーム）**
  項目をカテゴリごとにまとめて表示します（初期設定）。
- **クラシック表示**
  項目をすべて表示します。

表示の切り替えは、画面左側にある、「クラシック表示」、「コントロールパネルホーム」をクリックして行います。
本書では、「カテゴリの表示」形式を前提に記載しています。

＜クラシック表示＞

＜カテゴリの表示＞

1

▶フォルダメニューの表示

Windows Vistaでは、「ファイル」や「ツール」などのフォルダメニューが標準では表示されません。
フォルダメニューを表示したい場合は、Alt を押します。もう一度 Alt を押すと、フォルダメニューは表示されなくなります。

常にフォルダメニューを表示する

常にフォルダメニューを表示したい場合は、次の設定を行ってください。

1　**［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップのカスタマイズ」－「フォルダオプション」－「表示」タブ－「常にメニューを表示する」にチェックを付けます。**

▶ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成します。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windowsをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「ユーザーアカウント」－「ユーザーアカウント」－「別のアカウントの管理」－「新しいアカウントの作成」

ユーザーアカウントの種類（権限）は、ユーザーに応じて設定してください。

ユーザーアカウントの種類

ユーザーアカウントの種類（権限）には、次の2種類あります。

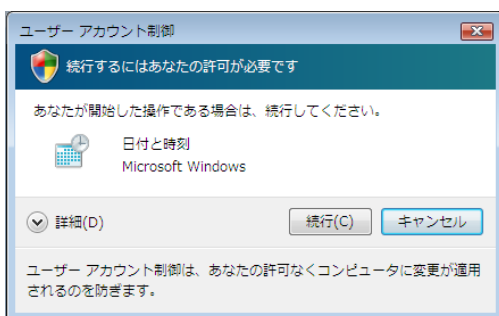
● **管理者**

すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバ、ソフトウェアのインストールをすることができます。
購入時やリカバリ時のWindowsのセットアップで入力したユーザー名（アカウント）は、「管理者」になります。

● **標準ユーザー**

一部のシステム項目の変更や、ドライバ、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

▶ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどで が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたり、ドライバやソフトウェアのインストールをしようとすると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。

表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、ユーザーアカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントでWindowsにログオンした状態を前提に記載しています。

本機の終了方法

ここでは、本機の終了方法や再起動方法について説明します。
本機の終了方法には次の2つがあります。

● 通常の終了（スリープ）

通常は、本機を「スリープ状態」にして終了します。

p.52「通常の終了（スリープ）」

スリープ状態にすると、作業内容がメモリに保存され、画面表示が消えて本機は低電力の状態になります。スリープ状態からは、数秒で通常の状態に復帰することができます。

スリープ状態についての詳しい説明は、p.141「省電力状態の種類」をご覧ください。

本機を使用するときは、必ずバッテリパックを装着してください。スリープ時、落雷などで電源が切れると、保存されていないデータは失われます。

● 電源を切る（シャットダウン）

次のような場合は、本機の電源を切って終了します。

p.53「電源を切る（シャットダウン）」

- 完全に電源を切りたいとき
- 数日使用しないとき
- 周辺機器、バッテリなどの取り付け、取り外しをするとき
- バッテリ残量が少なくなったとき

▶通常の終了（スリープ）

本機をスリープ状態にして終了する方法とスリープ状態から復帰させる方法について説明します。

終了方法

本機をスリープ状態にして終了する方法は、次のとおりです。

1 [スタート]（ ）－［⏻］をクリックします。

本機が「スリープ状態」になります。画面表示が消え、電源ランプが点滅します。

ほかの方法でスリープ状態にする

次の方法でも、本機をスリープ状態にすることができます。

- ［スタート］－［▶］－「スリープ」をクリックする
- 電源スイッチ（⏻）を押す
- Fn + F1（ ）を押す
- LCDユニットを閉じる

復帰方法

本機をスリープ状態から復帰させる方法は、次のとおりです。

復帰の際、周辺機器はスリープ状態に入る前と同じ状態にしてください。
スリープ中に周辺機器を取り外すなどして状態が異なると、正常に復帰できない場合があります。

1 電源スイッチ（⏻）を押します。

本機が通常状態に復帰します。
キーボードを操作しても復帰できます。

▶電源を切る（シャットダウン）

本機の電源の切り方と入れ方について説明します。

電源の切り方

本機の電源を切る（シャットダウンする）方法は、次のとおりです。

- 電源を入れなおす場合は、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- HDDなどのアクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っていても、バッテリパックが装着されていたり電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜き、バッテリパックを取り外してください。

1　**［スタート］ －［▶］ －「シャットダウン」をクリックします。**

Windowsが終了し、自動的に電源が切れます。

2　**接続している周辺機器の電源を切ります。**

シャットダウン時の注意

Windowsを複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、ログオンしているすべてのユーザーをログオフしてからシャットダウンしてください。

電源の入れ方

シャットダウン状態から本機の電源を入れる方法は、次のとおりです。

- 周辺機器の電源をいつ入れるかは、周辺機器に添付のマニュアルで確認してください。
  電源を入れるタイミングがコンピュータより先か後かは、周辺機器により決まっています。
- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどを接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置は、Windows起動後に接続してください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
  p.168 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」
- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

1　電源スイッチ（⏻）を押します。

本機の電源が入り、Windowsが起動します。

▶再起動

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」といいます。

再起動方法

本機の再起動方法は、次のとおりです。

1　［スタート］－［▶］－「再起動」をクリックします。

次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れなおしてみてください。

ハングアップしたときは

ソフトウェアやWindowsがキーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態をハングアップと言います。
ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。ソフトウェアの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

1 **Ctrl＋Alt＋Deleteを押します。**

2 **表示された項目から「タスクマネージャの起動」をクリックします。**
「Windowsタスクマネージャ」が起動します。

3 **「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して［タスクの終了］をクリックします。**

4 **「プログラムの終了」画面が表示されたら、［すぐに終了］をクリックします。**

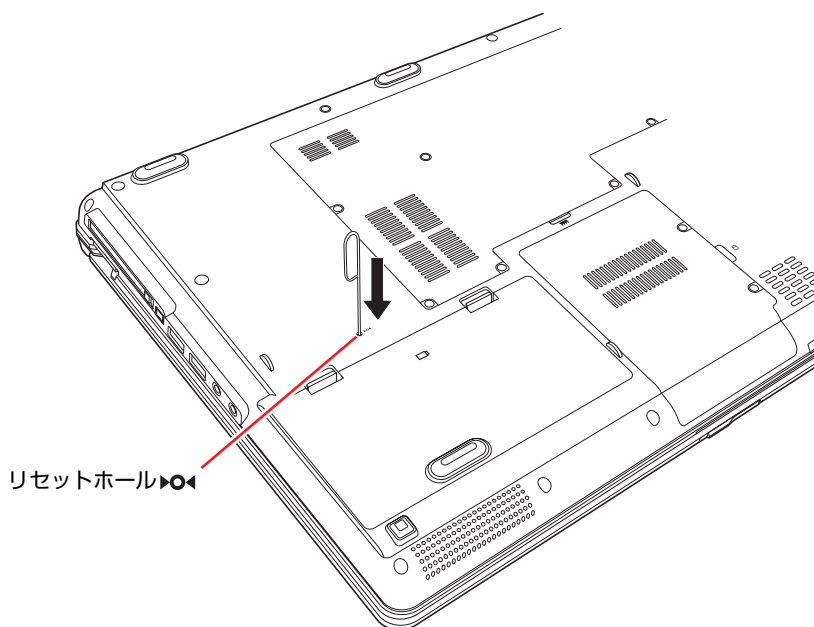
強制的に電源を切る

Ctrl＋Alt＋Deleteを押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源スイッチ（⏻）を5秒以上押し続けます。**
本機の電源が切れます。

リセットホールで強制的に電源を切る

本機底面にあるリセットホールを使用して、本機を強制終了することもできます。リセットホールは、電源スイッチを5秒以上押しても終了できない場合に使用してください。

1 **本機底面にあるリセットホールの位置を確認し、リセットホール（▸O◂）に先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。**

第2章
コンピュータの基本操作

キーボードやタッチパッド、光ディスクドライブの使用方法など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

「ACアダプタ/バッテリパックを使う」 58
「タッチパッドを使う」 66
「キーボードを使う」 69
「HDDを使う」 75
「光ディスクドライブを使う」 77
「USB機器を使う」 86
「PCカードを使う」 88
「メモリカードを使う」 93
「画面表示をする」 97
「外付けディスプレイに表示する」 104
「サウンド機能を使う」 111
「ネットワーク（有線LAN）を使う」 115
「無線LANを使う（オプション）」 117
「インターネットに接続するには」 128
「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」 133
「電源設定を行う（省電力機能を使う）」 139
「そのほかの機能」 145

ACアダプタ/バッテリパックを使う

本機はACアダプタまたはバッテリパックで使用することができます。
ACアダプタの接続方法は、p.37 「ACアダプタを接続する」をご覧ください。
バッテリパック（以降、バッテリ）は着脱可能な充電式の電池です。バッテリをセットすれば、電源コンセントのない場所や、停電時にも本機を使用することができます。本機では、リチウムイオン（Li-ion）バッテリを使用しています。

複数のバッテリを交互に使用したい場合などは、オプションのバッテリを購入できます。
p.63 「バッテリの交換」

▶使用時の注意

- バッテリパックを、指定以外の方法で充電しないでください。
  発熱や発火、液漏れによる被害の原因となります。
- 本体や付属のバッテリパックなどを火中に入れたり、加熱したりしないでください。
  破裂などで火傷の原因となります。
- バッテリパックの端子をショートさせないでください。火傷の原因となります。
- 付属のACアダプタやバッテリパックを、分解・改造しないでください。
  また､本機には、指定以外のACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。
  感電や火傷、化学物質による被害の原因となります。
  当社指定以外のACアダプタやバッテリパック、または分解・改造したACアダプタやバッテリパック（当社での修理対応は除く）での本機の使用は、安全性や製品に関する保証ができません。
- 小さなお子様の手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。
  なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。
- バッテリパックには、落下など、強い衝撃を与えないでください。
  破裂や液漏れにより、火傷や化学物質による被害の原因となります。

- 付属の AC アダプタやバッテリパックは本機以外には使用しないでください。
  火傷・火災の危険があります。
- ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。
- 破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- ひざの上で長時間使用しないでください。バッテリパックの熱で本機底面が熱くなり、低温火傷の原因となります。

ACアダプタやバッテリを使用する際は、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

● ACアダプタを使用するとき

- ACアダプタを使用するときも、必ずバッテリを装着してください。スリープ時、落雷などで電源が切れると、保存されていないデータは失われます。

  p.141 「省電力状態の種類」

- ACアダプタを長時間接続して使用すると、ACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。
- ACアダプタは頻繁に抜き差ししないでください。

● バッテリを取り付けて使用するとき

- 省電力状態のまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気をつけてください。省電力状態になっているときも電力が消費されています。

  p.139 「電源設定を行う（省電力機能を使う）」

- バッテリだけで使用しているときに、動画再生時にコマ落ちしたり、ソフトウェアの動作が遅くなったりする可能性があります。このような場合には、省電力状態に移行しないように設定してください。

  p.142 「省電力状態に移行する方法」

● バッテリを長期間使用しないとき

- 長期間使用していない場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。バッテリだけで本機を使用するときは必ず充電してから使用してください。
- バッテリを長期間充電しないと、過放電になる可能性があります。予防のために充電をしてください。

  p.65 「バッテリ保管上の注意」

低温環境でのバッテリ性能

低温の環境では、バッテリの性能が低下します。これは一時的なものであり、常温の環境に戻すと性能が回復します。

バッテリの使用可能時間

バッテリだけで本機を使用できる時間は次のとおりです。ただし本機の使用環境や状態などによって変化します。

バッテリの使用可能時間*（満充電の場合）	
Core 2 Duoプロセッサ搭載時	連続約2.9時間
Core Duoプロセッサ搭載時	連続約3.3時間
Core Soloプロセッサ搭載時	連続約3.5時間
Celeron Mプロセッサ搭載時	連続約2.8時間

*JEITA（電子情報技術産業協会）の測定方法Ver1.0に基づいています。

本機をバッテリだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力の設定を行うと、電力消費を抑えて使用可能時間を延ばすことができます。

p.139 「電源設定を行う（省電力機能を使う）」

バッテリの充電

バッテリの充電は、ACアダプタが接続されているときは、本機の電源が入/切どちらの状態でも自動的に行われます。

バッテリ充電ランプの表示

バッテリ充電ランプ（）の表示は、次のとおりです。

充電状態	ランプの表示
残量少	点滅（オレンジ色）
充電中	点灯（オレンジ色）
満充電	消灯

充電時間

低バッテリ状態からバッテリの充電完了までの時間は、約2.5時間です。
電源が入っている状態では、コンピュータの使用状況により差があります。

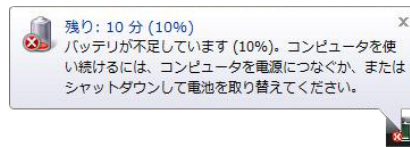
温度条件について
バッテリは、化学反応を利用した電池です。このため、温度条件によっては正常な充電ができない場合があります。

▶バッテリ残量の確認

通知領域の「バッテリ」アイコンの上にポインタをあわせると、バッテリ残量を確認することができます。

▶バッテリ残量が少なくなったら

バッテリ低下の通知

バッテリ残量が少なくなり、「バッテリ低下」の状態になると、本機は次のように通知（警告）します。

対処方法

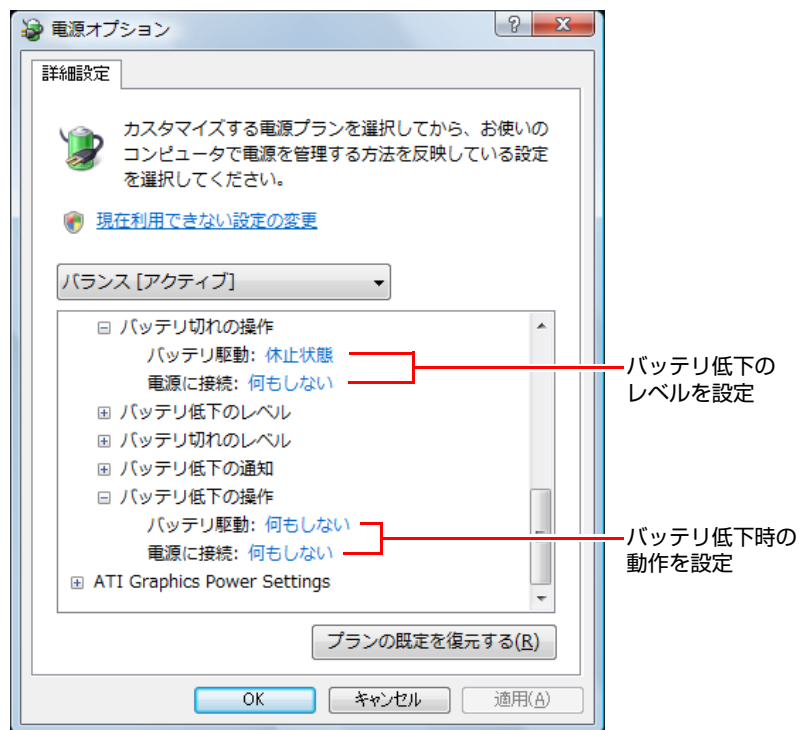
バッテリ低下が通知されたら、すぐに次のどちらかの処置を行ってください。完全放電してシャットダウン（電源切断）してしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

- **ACアダプタを接続する**
  電源が入ったままの状態で、ACアダプタを接続します。
- **電源を切る**
  作業中のデータをHDDなどに保存して､実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。
  交換用のバッテリがある場合も､必ず電源を切ってからバッテリを交換してください。

ACアダプタを接続しない場合は、すぐに作業中のデータを保存してください。コンピュータがシャットダウンしてしまうと､保存していないデータはすべて失われます。

バッテリ低下時の設定変更

バッテリ低下のレベルやバッテリ低下時の本機の動作は、変更することができます。変更は次の場所で行います。

通知領域の「バッテリ」アイコンを右クリック－「電源オプション」－選択している電源プランの「プラン設定の変更」－「詳細な電源設定の変更」－「バッテリ」

バッテリ低下のレベル設定

バッテリ残量が何%になったら「バッテリ低下」の通知をするかは、「バッテリ低下のレベル」で設定できます。初期値は10%に設定されています。

バッテリ低下時の動作設定

「バッテリ低下」になったときの本機の動作は、「バッテリ低下の操作」で設定できます。初期値は「何もしない」に設定されています。

バッテリの容量がすぐに低下するときは

バッテリは、消耗品です。満充電にしても、バッテリ容量がすぐに低下する場合は、バッテリの寿命が考えられます。当社純正の新しいバッテリに交換してください。

バッテリの交換

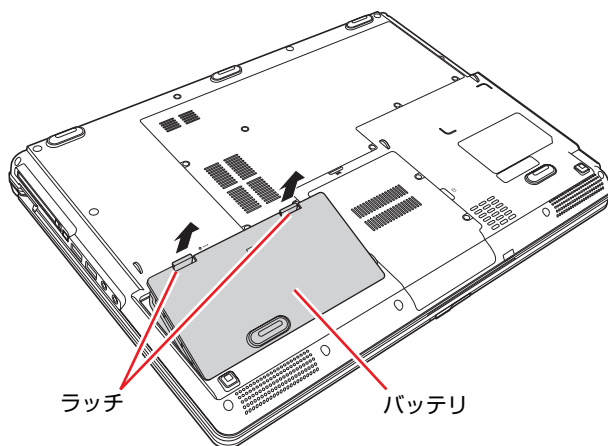
複数のバッテリを交互に使用する場合や、バッテリが寿命に達した場合は、バッテリを交換します。
交換用のバッテリについては、当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。
http://epsondirect.jp/

バッテリの交換方法

バッテリの交換方法は次のとおりです。

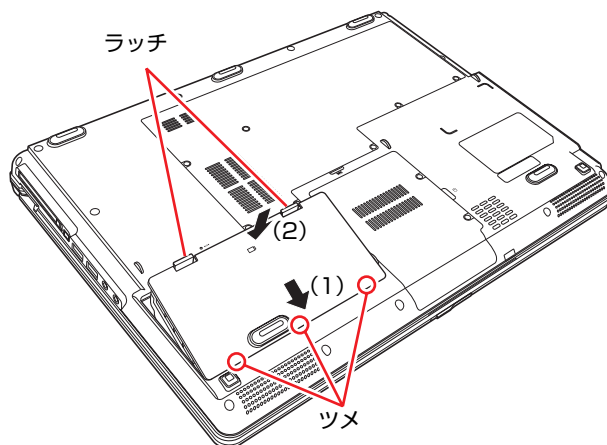
1 **本機の電源を切ります。ACアダプタが接続されている場合は外します。**

2 **本機の底面部を上にして置きます。**

3 **ラッチ（2箇所）を押さえたまま、バッテリを手前に持ち上げて取り外します。**

4 **新しいバッテリを取り付けます。**

(1) バッテリのツメ（3箇所）を本体の正面側と合わせます。

(2) ラッチ側を押し込みます。

正しくセットされると「カチッ」と音がします。

▶バッテリの寿命を延ばすには

バッテリは消耗品です。バッテリの寿命は、使い方や使用環境によって大きく変わります。
バッテリの劣化を抑え、使用可能時間や寿命を延ばすため、次の事項に注意してください。

- 高温の環境では、バッテリの劣化が早まります。本機やバッテリを、炎天下の自動車の中や暖房機の近くなどで使用したり、放置したりしないでください。
- 本機を使用する、使用しないにかかわらず、常時AC アダプタを接続していると、バッテリの劣化が早まります。1ヶ月に1 回程度は本機からACアダプタを外して、バッテリの残量が10%程度になるまで使用することをおすすめします。
- 1ヶ月以上本機を使用しないときは、本機からバッテリを取り外して保管してください。

p.65 「バッテリ保管上の注意」

バッテリ保管上の注意

小さなお子様の手の届く場所にバッテリを保管しないでください。
なめたりすると、火傷や化学物質による被害の原因となります。

バッテリを保管するときは、次の事項を守ってください。

- 液漏れや端子部の腐食を防ぐため、必ずコンピュータ本体から取り外してください。
- 端子部のショートを防ぐため、布やビニールなどの絶縁物に包んでください。
- 高温環境での保管は劣化を早めます。乾燥した冷暗所で保管してください。
- 満充電状態での保管は劣化を早めます。バッテリ残量は50%程度にして保管してください。
- バッテリは、使用していなくても、自己放電により蓄えられた電気は徐々になくなります。バッテリの残量がなくなり過放電状態になると、コンピュータに装着しても充電できなくなることがあります。
  自己放電による過放電を防ぐため、定期的（半年に1回程度）にバッテリ残量を50%程度まで充電することをおすすめします。

使用済みバッテリの取り扱い

使用済みのリチウムイオン（Li-ion）バッテリは、再利用可能な貴重な資源です。有効資源のリサイクルにご協力ください。

バッテリリサイクル時の注意

使用済みのバッテリは、ショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れて、リサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。

バッテリは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

タッチパッドを使う

本機には、タッチパッドが搭載されています。タッチパッドは、マウスと同じようにポインタなどを操作したりクリックしたりするための装置です。

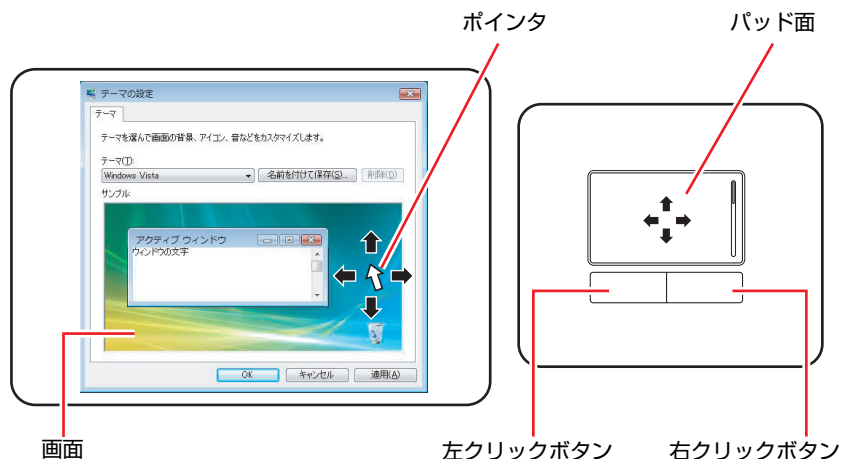
▶タッチパッドの操作

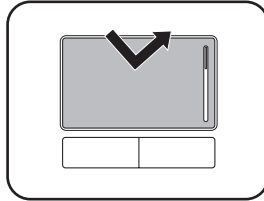
タッチパッド使用時の注意

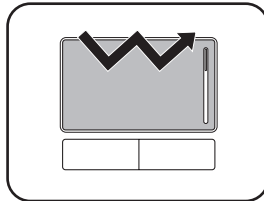
タッチパッドを使用する際は、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

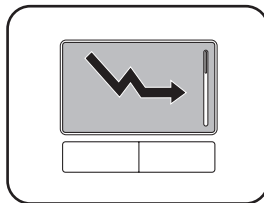
- パッド面には指で触れてください。ペンなどで触れると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。
- パッド面は、1 本の指で操作してください。一度に 2 本以上の指で操作すると、ポインタが正常に動作しません。
- 手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。
- キーボードを操作しているときにパッド面に手が触れると、ポインタが移動してしまうことがあります。
- 起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れなおしてみてください。
- 電源を入れたまま LCD ユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、正常に動作しない場合があります。この場合は、電源を一度切って入れなおしてみてください。

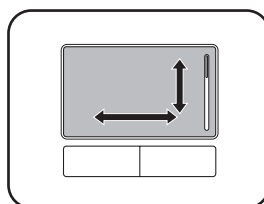
ポインタの移動

タッチパッドは、パッド面とクリックボタンから構成されています。人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。

クリック

ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く1回たたきます。
左クリックボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。

ダブルクリック

ポインタを画面上の対象にあわせて、パッド面を軽く2回たたきます。
左クリックボタンを「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。

ドラッグアンドドロップ

ポインタを画面上の対象にあわせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させます。
左クリックボタンを押したままの状態でポインタを移動し、離すのと同じ操作です。

スクロール

上下のスクロールは、パッドの右端に指を触れて前後に動かします。左右のスクロールは、パッドの下部に指を触れて左右に動かします。

▶タッチパッド機能をOFFにする

本機では、タッチパッドの機能をOFFにすることができます。
キーボード入力を行うときに、手がタッチパッドにあたってマウスポインタが動いてしまい、入力がしにくい場合があります。このような場合は、タッチパッド機能を一時的にOFFにすると便利です。
タッチパッド機能のON/OFFの切り替えは、次のキー操作で行います。

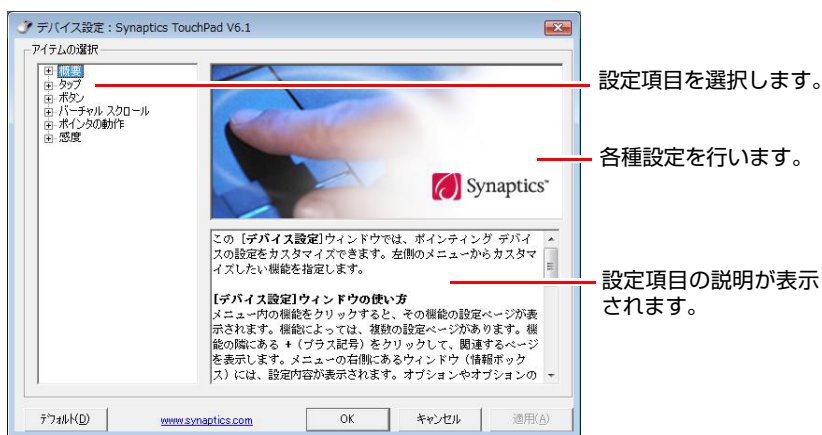
Fn ＋ F9 （⊟/×）

p.72 「Fnキーと組み合わせて使うキー」

▶タッチパッドユーティリティを使う

タッチパッドユーティリティで各種設定を行うと、タッチパッドがより操作しやすくなります。
タッチパッドユーティリティの各種設定は、次の場所から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「ハードウェアとサウンド」－「マウス」

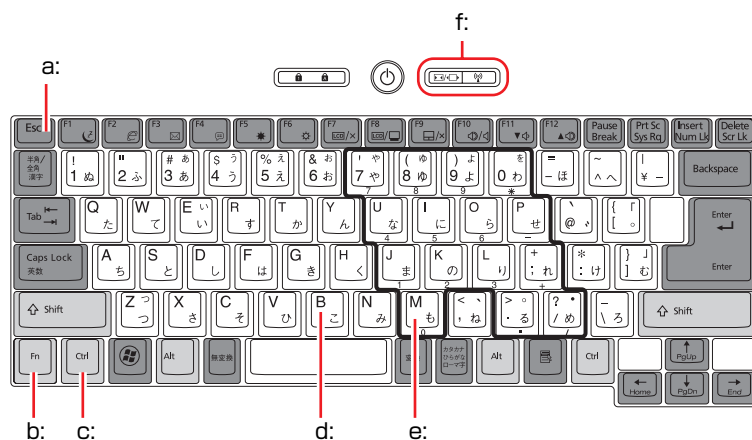
「マウスのプロパティ」画面の「デバイス設定」タブをクリックして、［設定］をクリックすると、次の画面が表示されます。

▶USBマウス（オプション）の接続

本機右側面または背面のUSBコネクタ（2.0）に、オプションのUSBマウスを接続して使うことができます。詳しくは、マウスに添付のマニュアルをご覧ください。

キーボードを使う

本機には、日本語対応87キーボードと2個のインスタントキーが搭載されています。

▶キーの種類と役割

各キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

a: 機能キー

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。

b: Fnキー

制御キーの1つです。

キートップ（キーの上面）に青色で印字されている機能キーと組み合わせて使用します。

p.72「Fnキーと組み合わせて使うキー」

c: 制御キー

文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

d: 文字キー

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して、漢字やひらがななどの日本語を入力します。

e: 数値キー

文字キーの一部を数値キーとして使用し、数字、演算子などを入力します。［Fn］＋［NumLk］を押すと数値キーと文字キーが切り替わります。

f: インスタントキー

p.74「インスタントキー」

文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字されている文字が入力されます。
入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

半角/全角を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは次のとおりです。
ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。

a: 入力モード
　入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ
　MS-IMEの詳細な説明を見ることができます。

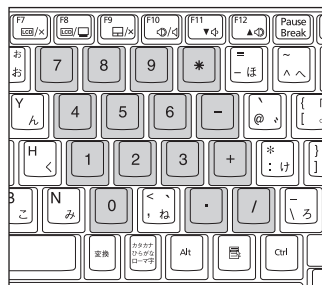
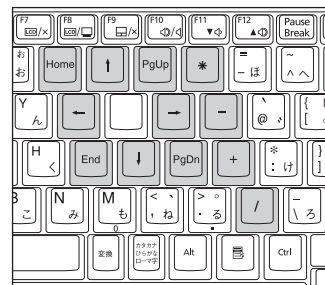
c: かなキーロック
　日本語入力モードの切り替えを行います。
　ボタンが押されていない状態 ：ローマ字入力
　ボタンが押されている状態　 ：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶数値やアルファベットの入力

数値キー入力モード

[Fn]＋[NumLk]を押すと、NumLock ランプ（🔒）が点灯して、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。さらに[Shift]を押しながら数値キーを押すと、矢印キーなどとして使用できます。

数値キーモード

[Shift]を押したとき

アルファベット入力モード

アルファベットの入力を大文字または小文字に固定することができます。固定する文字の切り替えは、次のキー操作で行います。

[Shift]+[Caps Lock]

大文字に固定した状態のまま小文字を入力するには、[Shift]を押しながら文字を入力します。
固定する文字を切り替える場合は、[Shift]を押した状態でもう一度[Caps Lock]を押します。

▶Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに青色で印字されている機能キーは Fn と組み合わせて実行します。

キーの組み合わせ	機　能
Fn ＋ F1	省電力状態に移行します。（初期値：スリープ状態） p.140 「本機を省電力状態にする」
Fn ＋ F2	Internet Explorerを起動します。
Fn ＋ F3	Windowsメールを起動します。
Fn ＋ F4	インフォメーションメニューを起動します。 p.45 「インフォメーションメニューを使う」
Fn ＋ F5	LCD画面を暗くします。 p.98 「LCDユニットの調整」
Fn ＋ F6	LCD画面を明るくします。 p.98 「LCDユニットの調整」
Fn ＋ F7 LCD/×	LCD画面のバックライトの入/切を切り替えます。 p.98 「バックライトの消灯」
Fn ＋ F8 LCD/	外付けの表示装置に接続している場合に、表示装置を切り替えます。 p.105 「表示できるモードの種類」
Fn ＋ F9 /×	タッチパッドのON/OFFを切り替えます。 p.68 「タッチパッド機能をOFFにする」
Fn ＋ F10	スピーカのミュート（消音）の入/切を切り替えます。 p.111 「音量の調節」
Fn ＋ F11 ▼	スピーカの音量を小さくします。 p.111 「音量の調節」
Fn ＋ F12 ▲	スピーカの音量を大きくします。 p.111 「音量の調節」
Fn ＋ NumLk	数値キー入力モードに切り替えます。 p.71 「数値キー入力モード」
Fn ＋ ScrLk	ソフトウェアによって機能が異なります。詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

キーの組み合わせ	機　能
Fn ＋ Home	行の最初に移動します。＊
Fn ＋ End	行の最後に移動します。＊
Fn ＋ PgUp	前のページに移動します。＊
Fn ＋ PgDn	次のページに移動します。＊

＊ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

2

▶入力キーの機能の入れ替え

次の入力キーの機能を入れ替えることができます。

(1) キーボード左下にある Fn とその隣の Ctrl
(2) キーボード右下にある Alt とその隣の （アプリケーションキー）

キーの機能を入れ替える場合は「BIOS Setupユーティリティ」の「Advanced」メニュー画面で次の項目を変更してください。

- 「Exchange Fn & L-Ctrl key」（ Fn と Ctrl の入れ替え）
- 「Exchange R-Alt & Win App key」（ Alt と の入れ替え）

キーの機能の入れ替え	BIOSの設定値
機能を入れ替える場合	Enabled（有効）
機能を入れ替えない場合	Disabled（無効）

購入時は、どちらも「Disabled」に設定されています。

p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」

インスタントキー

本機には、2個のインスタントキーが搭載されています。インスタントキーを押すと、各キーに割り当てられた機能を実行します。
各インスタントキーの機能は、次のとおりです。

インスタントキー	機　能
画面サイズ切り替えキー ▶◀/◀□▶	画面サイズを切り替えます。キーを押すたびに、画面サイズをワイド表示とノーマル表示に切り替えます。 p.100 「画面サイズを切り替える」
無線LANキー	キーを押すたびに、無線LAN機能のON/OFFを切り替えます。 p.117 「無線LANを使う（オプション）」

HDDを使う

本機にはSerial ATA（S-ATA）仕様のHDD（ハードディスクドライブ）が搭載されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

- HDDのアクセスランプ点灯中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは専用バッグに入れるなどして、保護するようにしてください。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、CDメディアや外付けHDDなどにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップ方法は、p.227「データのバックアップ」をご覧ください。

購入時のHDD領域

購入時のHDDは、お客様の選択により次のように設定されています。

＜通常＞

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約3GB*
Cドライブ	残り

＜HDD設定変更サービスを選択された場合＞

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約3GB*
Cドライブ	購入時に選択された容量
Dドライブ	残り

*消去禁止領域の容量は、コンピュータの製品仕様により異なります。

すべてのドライブは、NTFSファイルシステムでフォーマットされています。

HDD設定変更サービス

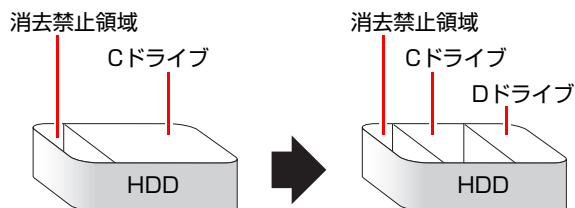
HDD設定変更サービスとは、購入時にあらかじめHDDの領域をCドライブ、Dドライブに分割した状態でコンピュータをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

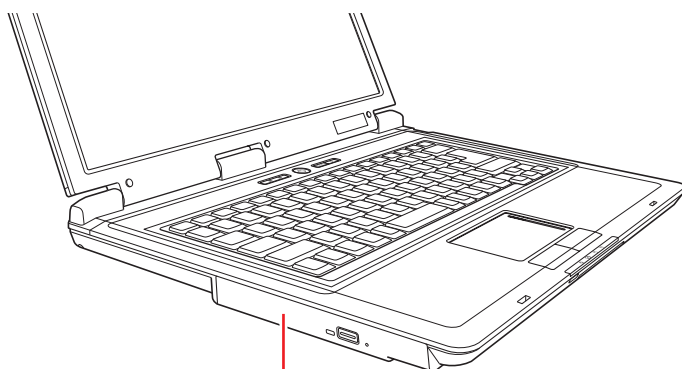
「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアのインストール用データや、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。
この領域は、絶対に削除しないでください。
削除してしまうと、本体ドライバやソフトウェアのインストールができなくなります。
「消去禁止領域」内の本体ドライバやソフトウェアのインストール用データは、CDにコピー（バックアップ）することもできます。
p.228 「バックアップCDの作成」
Windows REの詳細は、p.221 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」をご覧ください。

HDDを分割して使用する

1台のHDDは、いくつかに分割してそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。

＜1台のHDDを分割する＞
例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。

CドライブをHDD分割する場合はWindowsの再インストールが必要です。詳しくは、p.233 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

光ディスクドライブを使う

本機左側面には購入時に選択された光ディスクドライブが搭載されています。光ディスクドライブは、CD-ROMなどの光ディスクメディアを使用するための機器です。
ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。

本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクは、動作保証はしていません。本機で動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

▶ドライブの機能と使える光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みやDVDの再生など、使える機能が異なります。
お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「光ディスクドライブPDFマニュアル」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

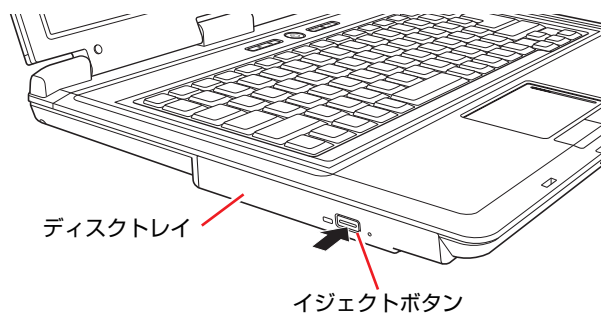
光ディスクメディアのセットと取り出し

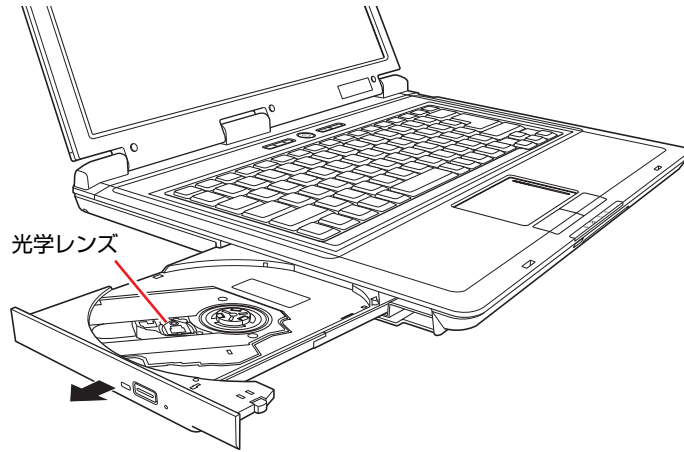
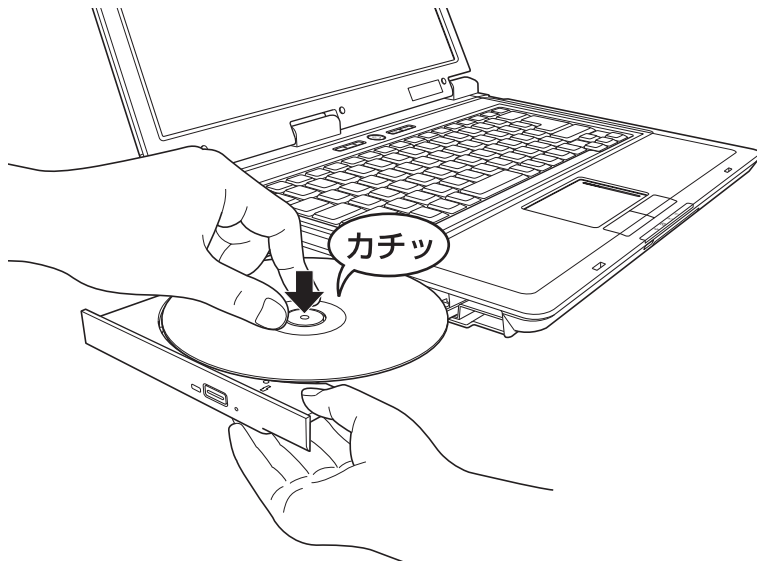
光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。

- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、再起動したりしないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。メディアのデータが読めなくなります。
- 必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機では、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

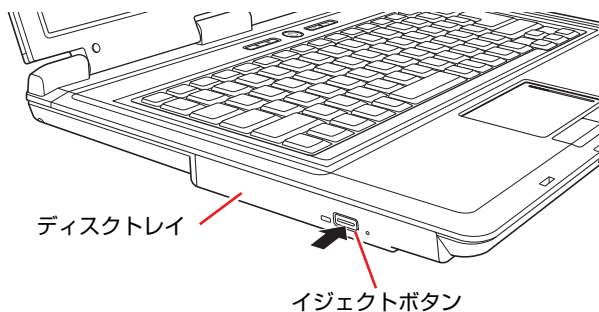
セット方法

1 イジェクトボタンを押します。

ディスクトレイが少し飛び出します。

2 **ディスクトレイを静かに引き出します。**

光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。
メディアのデータを読めなくなります。

3 **印刷面を上にしてメディアをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまではめ込みます。**

4 **ディスクトレイを静かに閉じます。**

取り出し方法

1 アクセスランプが点灯・点滅していないことを確認して、イジェクトボタンを押します。

2 ディスクトレイが少し飛び出したらそのまままっすぐ引き出します。

3 メディアをディスクトレイから取り出します。

4 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合

ソフトウェアによっては独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶強制的な光ディスクメディアの取り出し

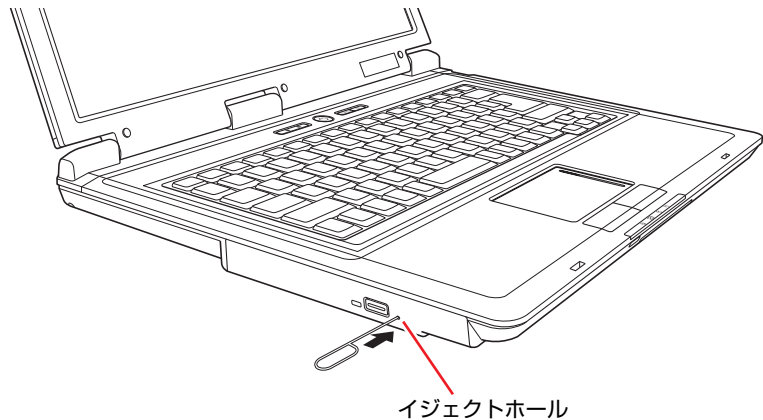
次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

- 光ディスクドライブの動作が不安定になったり、故障したりして、光ディスクメディアが取り出せない場合
- 光ディスクメディアをセットしたまま、本機の電源を切ってしまった場合

強制的な光ディスクメディアの取り出し方法は次のとおりです。

1　本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。

p.53「電源を切る（シャットダウン）」

2　イジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。

3　ディスクトレイが少し飛び出したら、そのまま手でまっすぐ引き出します。

▶CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CDやビデオCD、フォトCDなどの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

▶DVDメディアの読み込み・再生

<DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時>

DVD再生機能のある光ディスクドライブでは、データが収録されたDVDメディアを読み込めるほかに、DVD VIDEOなどの再生ができます。DVD VIDEOの再生には、専用のソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

DVD VIDEOの再生には「WinDVD」を使用します。
WinDVDは、次の場所から起動します。

[スタート] －「すべてのプログラム」－「Inter Video WinDVD」－「Inter Video WinDVD for EPSON」

WinDVDの詳しい使用方法は、WinDVDのヘルプをご覧ください。

DVD VIDEO再生時の制限

「WinDVD」でDVD VIDEOの再生をすると、次のような不具合が発生することがあります。

- 解像度や色数の設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数を下げてみてください。
  p.103 「解像度や表示色の変更方法」

- 外付けディスプレイを接続して、クローンモードで表示をしていると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEOの再生が中断されます。このような場合は、クローンモードの表示を1つのディスプレイモードに切り替えてください。
  p.106 「モードを切り替えるには」

▶光ディスクメディアへの書き込み

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。
書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。光ディスクドライブで書き込み可能なメディアは、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「光ディスクドライブPDFマニュアル」

2

作成した DVD VIDEO は、市販の DVD プレイヤーで再生できますが、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされています。

p.84 「Nero 7 Essentialsの使い方」

書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

- **省電力機能を無効にする**

  メディアへの書き込み時に、Windowsが省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。
  書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

  p.142 「省電力状態に移行する方法」

  省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

- **速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ**

  書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。
  光ディスクドライブの書き込み速度は、次をご覧ください。

  「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「光ディスクドライブPDFマニュアル」

▶Nero 7 Essentialsの使い方

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

ライティングソフト「Nero 7 Essentials」を使用すると、CDメディアやDVDメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。

「Nero 7 Essentials」と Windows Vista 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

Nero 7 Essentialsの起動方法は次のとおりです。

1 デスクトップ上の次の「Nero」アイコンをダブルクリックします。

<Neroアイコン>

2 Nero 7 Essentials画面が表示されます。

Nero 7 Essentialsの詳しい使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「Neroユーザーガイド」

InCD

メディアをパケットライトソフト「InCD」でフォーマットすると、ドラッグアンドドロップするだけでデータの書き込みを行うことができます。
パケットライトでメディアに書き込むには、InCDでメディアをフォーマットする必要があります。
InCDの詳しい使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「InCDユーザーマニュアル」

- InCDで使用できる光ディスクメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
- InCDでフォーマットしたメディアは Nero 7 Essentials で書き込みを行うことはできません。書き込みを行う場合は、Nero 7 Essentialsで「ディスクの消去」を行ってください。

有償アップグレード

本機にインストールされているNero 7 Essentialsは、Nero製品版「Nero 7 Premium」に特別優待価格でアップグレードすることができます。アップグレードをご希望の方は、デスクトップ上の「Neroオンラインアップグレード」から申し込みを行ってください。

USB機器を使う

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが右側面に2個、背面に2個、合計4個搭載されています。
USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。4個のコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。

- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどを接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置は、Windows起動後に接続してください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
  p.168 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

USB2.0の転送速度

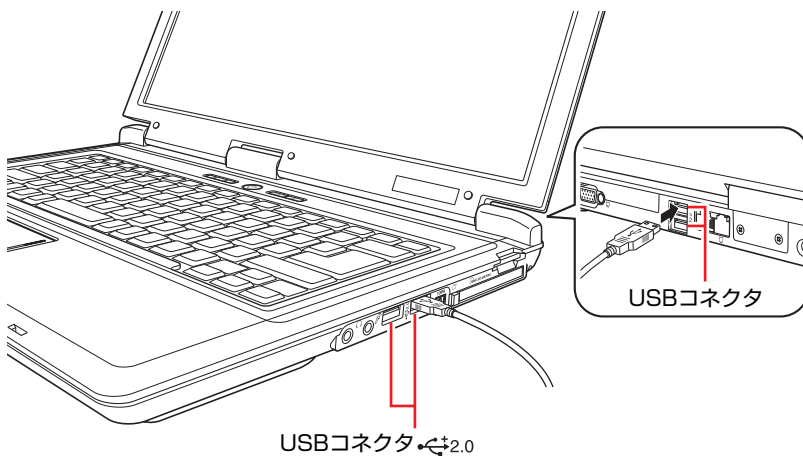
USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コネクタに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

▶USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

USB機器の接続

USB機器の接続方法は次のとおりです。

1 USB機器のUSBコネクタを、本機のUSBコネクタ（2.0）に接続します。

2　**USB機器によっては、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。**

＜取り外しアイコン＞

接続するUSB機器によっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、USB機器に添付のマニュアルをご覧ください。

接続したUSB機器の確認

接続したUSB機器を確認するには、「取り外し」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの安全な取り外し」画面で［プロパティ］をクリックします。

2

USB機器の取り外し

USB機器の取り外しは、コンピュータの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

- **そのまま取り外す**

  「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。
- **USB機器の終了処理をして取り外す**

  「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB機器の終了処理の方法は次のとおりです。

1　**開いているファイルを閉じます。**

ファイルを閉じないと、終了処理ができません。

2　**通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。**

3　**表示されたメニューから「（取り外したいUSB機器）－・・・を安全に取り外します」を選択します。**

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

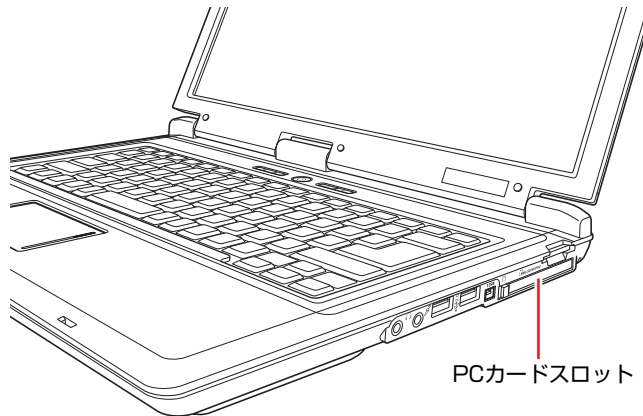
USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (E:) を安全に取り外します

4　**「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、［OK］をクリックし、USB機器を本機から取り外します。**

PCカードを使う

本機の右側面には、PCカードスロットが搭載されています。本機では、PC Card Standardに準拠した次のカードを装着することができます。

装着可能なサイズ	仕様
TypeII	1スロット CardBus対応

PCカードの形状によっては装着できないカードがあります。

- FAX モデムカードや、ネットワークカードなどは、使用途中に電源の供給が停止されると、不具合が発生する可能性があります。これらのカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.142 「省電力状態に移行する方法」
- PCカードスロットにFAXモデムカードを取り付けて使用する場合には、回線の呼び出し音が鳴らないFAXモデムカードもあります。これは、CardBusの仕様によるもので故障ではありません。

▶PCカードのセットと取り外し

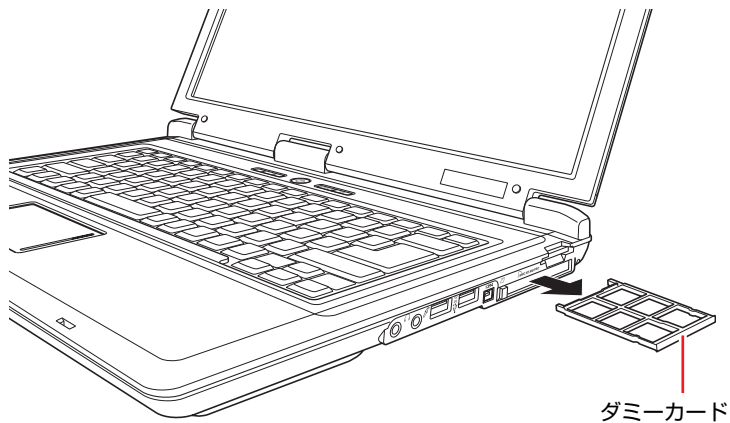
- PCカードを取り扱うときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れると、故障することがあります。
- PCカードは、本機の電源が入っている状態で抜き差しすることができます。ただし、スリープ状態や休止状態など、省電力状態ではPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

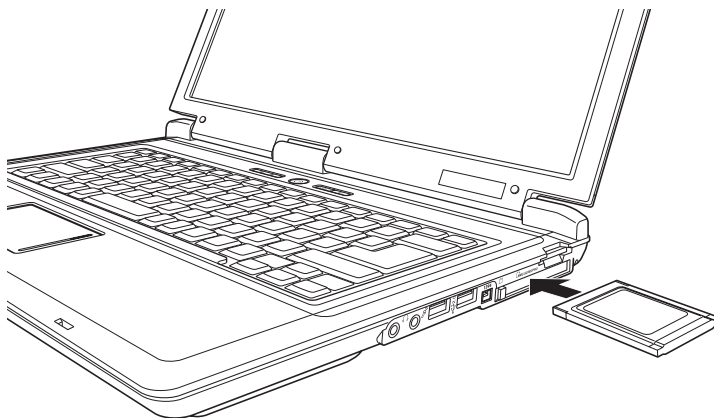
PCカードのセット

PCカードのセット方法は次のとおりです。

1　PCカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、取り外します。

p.91 「PCカードの取り外し」－手順2～4

ダミーカードはPCカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。

2　PCカードをPCカードスロットに挿入します。

PCカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。

3　コンピュータの電源が切れている場合は、電源を入れます。

4　認識されるとPCカードが使用できます。

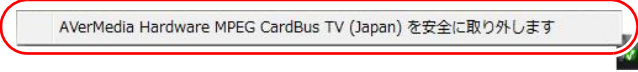
正しくPCカードがセットされると認識音が鳴り、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。

<取り外しアイコン>

PCカードによっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

PCカードの取り外し

PCカードの取り外し方法は、次のとおりです。

本機にセットされていた PC カードは、高温になっている可能性があります。取り外す際は注意してください。

1　PCカードの終了処理を行うか、または本機の電源を切ります。

PCカードの終了処理の手順は、次のとおりです。

(1) 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

(2) 表示されたメニューから「(取り外したいPCカード) ー・・・を安全に取り外します」を選択します。

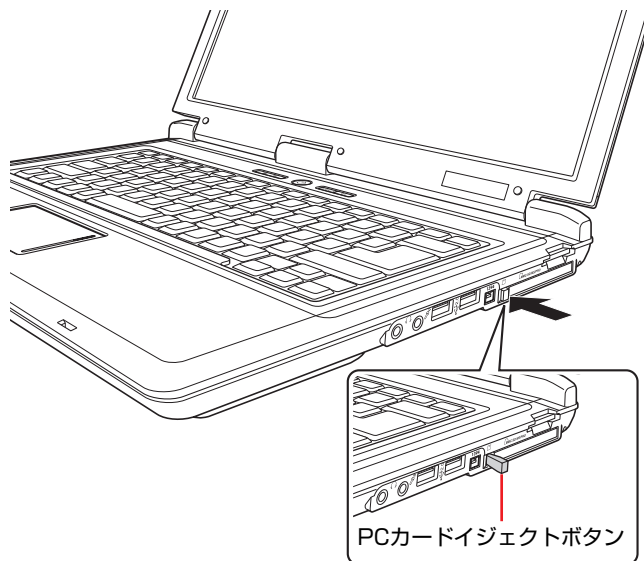
複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう、注意してください。

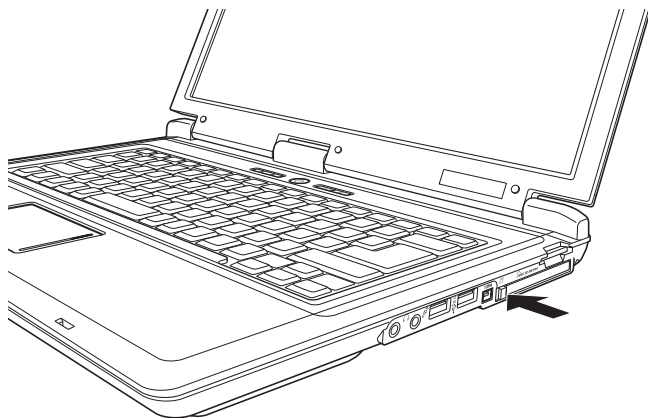
AVerMedia Hardware MPEG CardBus TV (Japan) を安全に取り外します

(3)「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

これでPCカードの終了処理は完了です。

2　PCカードイジェクトボタンを「カチッ」と音がするまで押します。

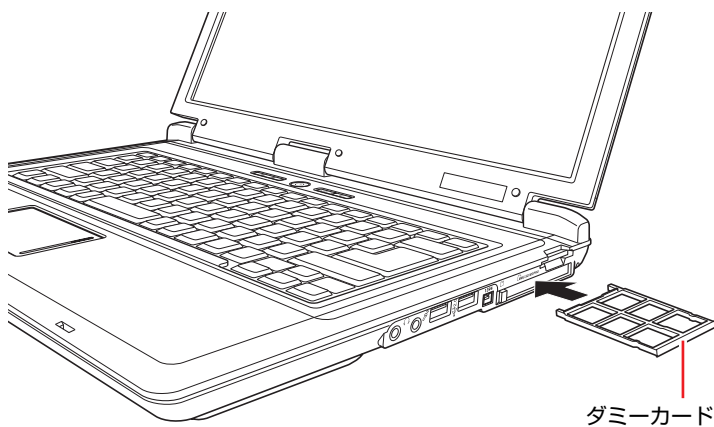
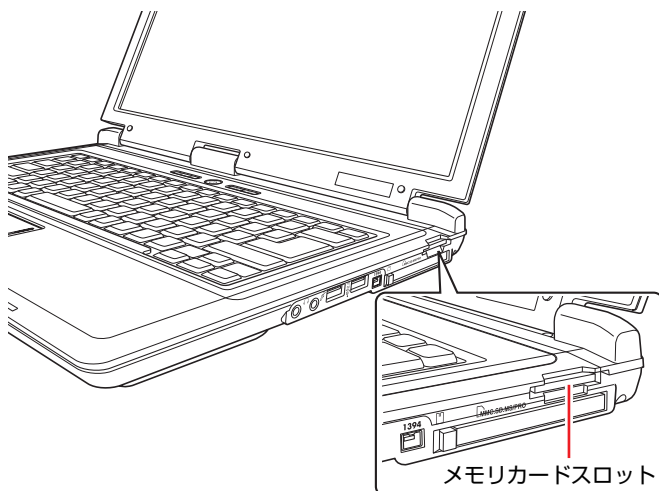
イジェクトボタンが出てきます。

3　出てきたPCカードイジェクトボタンを再び押し込みます。

PCカードが出ます。

4　出てきたPCカードをまっすぐに引き抜きます。

取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

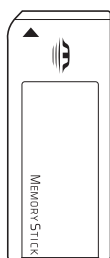
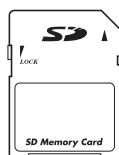
5　ダミーカードをPCカードスロットにセットします。

コンピュータ内部にホコリが入らないように、必ずダミーカードをセットしておいてください。

メモリカードを使う

本機右側面にはメモリカードスロットが装備されています。メモリカードは、デジタルカメラなどで使用するメディアで、コンピュータとのデータ交換に使われます。本機では、3種類のメモリカードを使用することができます。

▶本機で使用できるメモリカード

本機で使用できるメモリカードは、メモリースティック（Pro対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカードの3種類です。イラストは、各メモリカード表面のイメージです。

<メモリースティック>　<マルチメディアカード>

<SDメモリーカード>

- メモリースティック、SDメモリーカードの著作権保護機能には対応していません。
- メモリースティックやメモリースティックProの高速転送、セキュリティ機能には対応していません。

メモリカード使用時の注意

メモリカードを使用する際は、次の注意事項を確認して正しくお使いください。

- メモリカードにアクセス中は、本機の電源を切ったり、メモリカードを抜いたりしないでください。カードのデータが破損するおそれがあります。
- メモリカードは、データの書き込み中に電源の供給が停止すると不具合が発生する可能性があります。メモリカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.142 「省電力状態に移行する方法」
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

メモリカードのフォーマット

メモリカードのフォーマットは、必ずメモリカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリカードが認識されなくなる場合があります。
フォーマットの方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

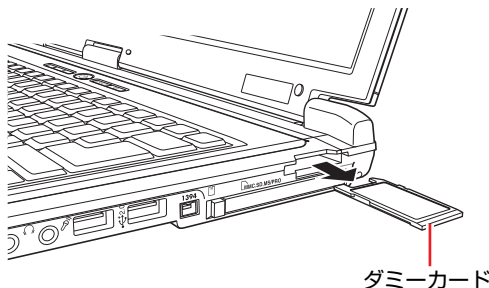
メモリカードのセットと取り外し

メモリカードを使用する前に、必ず p.94「メモリカード使用時の注意」をお読みください。

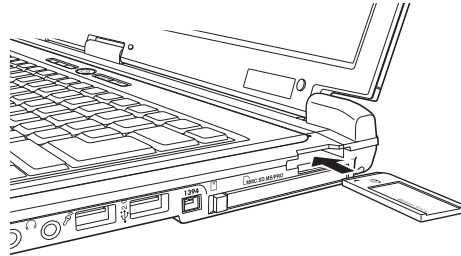
メモリカードのセット

メモリカードのセット方法は、次のとおりです。

1 メモリカードスロットにダミーカードがセットされている場合は、取り外します。

(1) ダミーカードを「カチッ」と音がするまで押します。
(2) 少し出てきたダミーカードをまっすぐに引き抜きます。
ダミーカードはメモリカードを使用しないときに、スロットにセットしておきます。

2 **メモリカードの表面を上にしてメモリカードスロットに挿入します。**

奥までしっかりと押し込みます。

メモリカードの表面は、p.93「本機で使用できるメモリカード」で確認してください。

3 **認識されると、メモリカードが使用できます。**

正しくセットされると、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。

<取り外しアイコン>

メモリカードの取り外し

メモリカードの取り外し方法は、次のとおりです。

1 **メモリカードの終了処理を行うか、または本機の電源を切ります。**

メモリカードの終了処理の手順は、次のとおりです。

(1) 開いているファイルを閉じます。
ファイルを閉じないと、終了処理ができません。

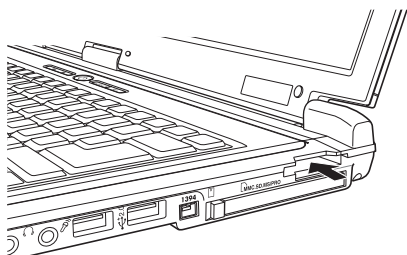
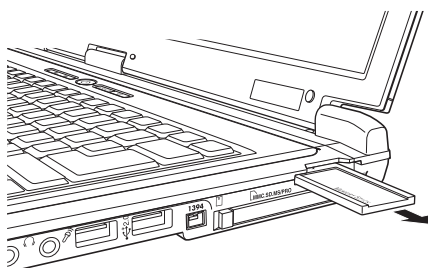
(2) 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

(3) 表示されたメニューから、「(取り外したいメモリカード) ─・・・を安全に取り外します」を選択します。
複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう、注意してください。

MMC Memory Card - ドライブ (E:) を安全に取り外します

(4)「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。
これでメモリカードの終了処理は完了です。

2 **メモリカードを「カチッ」と音がするまで押すと、メモリカードが少し出ます。**

強く押すと、メモリカードが飛び出すことがあるので注意してください。

3 **メモリカードをまっすぐに引き抜きます。**

取り出したメモリカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。メモリカードをセットしない場合は、ダミーカードをセットしておきます。

画面表示をする

ここでは、本機のLCDユニットでの画面表示について説明します。
本機では、LCDユニットのほかに外付けの表示装置を接続することもできます。

p.104「外付けディスプレイに表示する」

▶LCDユニットの仕様

本機では次のどちらかのLCD（液晶ディスプレイ）を搭載しています。

- 15.4型　WXGA　　最大解像度　1280×800
- 15.4型　WXGA+　最大解像度　1440×900

LCDの表示中に、次の現象が起きることがあります。これは、カラーLCDの特性で起きるもので故障ではありません。

- LCDは、高精度な技術を駆使して230万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯または常時消灯する画素が存在することがあります。
- 色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。
- Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついて見えることがあります。この現象は、背景の模様が市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景の色が中間色の場合に発生しやすくなります。

LCDのドット抜け基準値

本機LCDのドット*抜け基準値は、8個以下です。これは、WXGAの場合で全ドットの0.00026%以下に、WXGA+の場合で全ドットの0.00021%以下に相当します。

*「ドット」は副画素（サブピクセル）を指します。LCDでは、1個の画素が3個の副画素で構成されています。本書に記載しているドット抜け基準値は、ISO13406-2に従って、副画素単位で計算しています。

本機の副画素数

WXGAの場合　　3,072,000個
WXGA+の場合　3,888,000個

▶LCDユニットの調整

画面の明るさの調整は次のキーで行います。

キー操作	状　態
Fn ＋ F5 ☀	暗くなります
Fn ＋ F6 ☼	明るくなります

次の場所で調整することもできます。

[スタート] －「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」－「ディスプレイの輝度を調整」

バックライトの消灯

本機を使用していない間、バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯方法は、次のとおりです。

キー操作	状態
Fn ＋ F7 LCD/×	本機が起動している状態で押すとバックライトが消灯します。もう一度押すとバックライトが点灯します。

LCDユニットを閉じたときの動作

LCDユニットを閉じると、本機は「スリープ状態」になります。

☞ p.141 「省電力状態の種類」

LCDユニットを閉じたときの動作は、変更することができます。

☞ p.142 「省電力状態に移行する方法」

▶表示できる解像度と表示色

本機のLCDユニットで表示可能な解像度は次のとおりです。表示色は中（16ビット）と最高（32ビット）が選択できます。

解像度	15.4型WXGA	15.4型WXGA+
800×600	○	○
1024×768	○	○
1280×768*	○	○
1280×800*	○	−
1440×900*	−	○

* ワイド表示

ワイド表示以外の解像度を設定すると、画面が縦伸びまたは横伸びしたように見えます。この場合は、画面サイズを切り替えてください。

 p.100「画面サイズを切り替える」

参考

動画が正常に再生できない場合は

解像度や表示色が高いと、「WinDVD」でDVD VIDEOを再生するときなどに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

▶画面サイズを切り替える

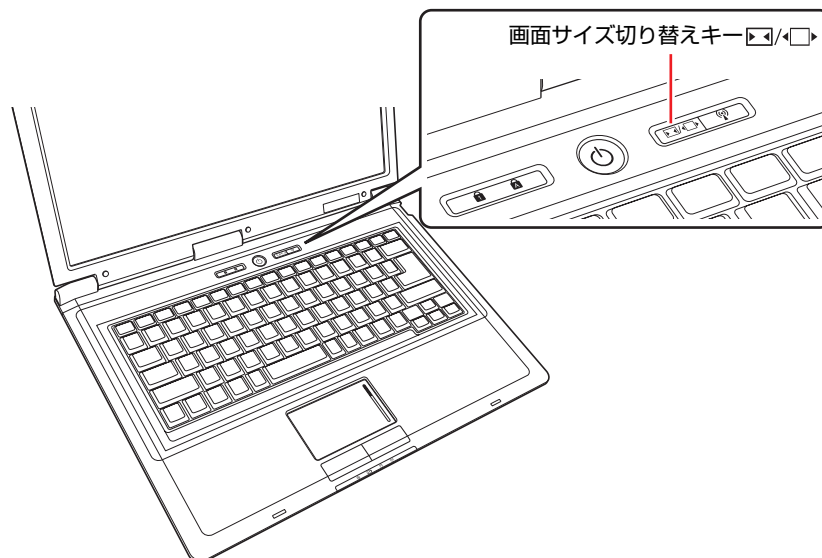
本機はワイド液晶ディスプレイを搭載しているため、ワイド表示以外の解像度を設定すると、画面が縦伸びまたは横伸びしたように見えます。この場合は、次の方法で画面表示を切り替えることができます。

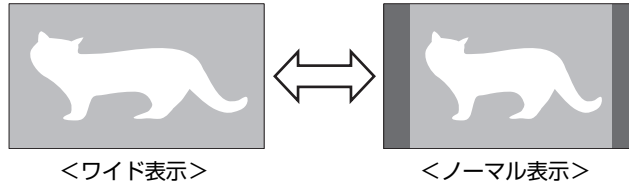
外付けディスプレイを接続している場合は、画面サイズの切り替えができないことがあります。

● 画面サイズ切り替えキーで切り替える
ワンタッチで簡単に画面サイズを切り替えます。

● ユーティリティで切り替える
解像度ごとに表示設定を行いたい場合は、ユーティリティで画面サイズを切り替えます。

画面サイズ切り替えキーで切り替える

画面サイズ切り替えキーを使用すると、簡単に画面サイズを切り替えることができます。

画面サイズ切り替えキーを押すたびに、ワイド表示とノーマル表示に切り替わります。購入時は、ワイド表示に設定されています。

<ワイド表示>　　<ノーマル表示>

画面サイズを切り替えると、自動的に解像度が次のとおり切り替わります。

画面表示	解像度	
	15.4型WXGA	15.4型WXGA+
ワイド	1280×800	1440×900
ノーマル（縦横比4：3）	1024×768	1024×768

制限

- 画面サイズ切り替えキーで画面サイズを切り替えた後、上記の表以外の解像度に変更したいときは、手動で設定を変更してください。
  p.103「解像度や表示色の変更方法」
- Windowsを複数のユーザーで使用している場合、ユーザーごとに画面表示の設定（ワイド/ノーマル）を保存することはできません。

ユーティリティで切り替える

ユーティリティでは、解像度ごとに画面サイズを設定できます。
ユーティリティで画面サイズを切り替える方法は、次のとおりです。

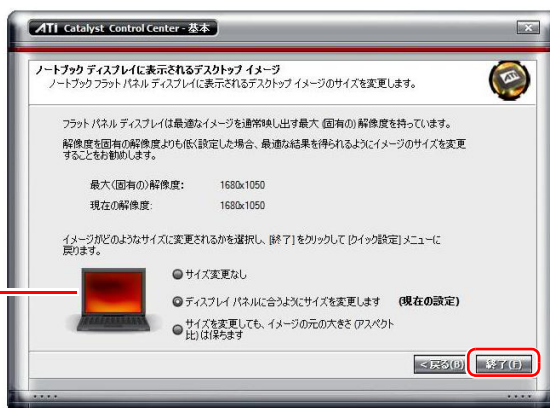
1　通知領域の「Catalyst Control Center」アイコンを右クリックし、「Catalyst Control Center...」を選択します。

<Catalyst Control Centerアイコン>

「ATI Catalyst Control Center」画面が表示された場合は、画面左下の［基本...］をクリックし、次の画面で［はい］をクリックします。

2　「ATI Catalyst Control Centerへようこそ」と表示されたら、「基本の[簡単設定ウィザードとクイック設定]」を選択し、[次へ]をクリックします。

3　「実行する操作」と表示されたら、「クイック設定」タブをクリックし、「ノートブックパネルプロパティ」を選択して、［移動する］をクリックします。

4 **「ノートブックディスプレイに表示されるデスクトップイメージ」と表示されたら、デスクトップ画面をどのように表示させるか選択し、[終了]をクリックします。**

画面サイズを切り替えて、次の設定で表示することができます。

- **サイズ変更なし**
  設定した解像度のまま表示します。
- **ディスプレイパネルに合うようにサイズを変更します（購入時の設定）**
  設定した解像度を、ディスプレイパネルに合わせて表示します。
- **サイズを変更しても、イメージの元の大きさ（アスペクト比）は保ちます**
  元の解像度のアスペクト比*を固定したまま画面サイズを変更します。

  * アスペクト比
  画面や画像の縦横比のこと。通常のディスプレイはアスペクト比4:3です。

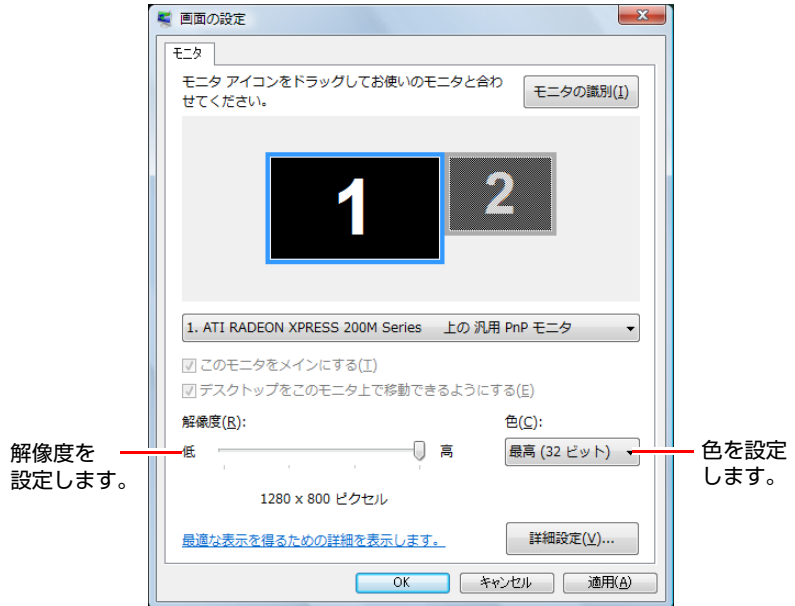
5 **「実行する操作」と表示された画面で、[終了]をクリックします。**

これで、画面サイズの切り替えは完了です。

解像度や表示色の変更方法

解像度と表示色の変更方法は次のとおりです。

1 ［スタート］－「コントロールパネル」－「デスクトップのカスタマイズ」－「個人設定」－「画面の設定」をクリックします。

2 「解像度」、「色」などの項目を設定したい内容に変更します。

3 項目を変更したら、［適用］をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

参考

セーフモードでの起動

本機のLCD画面で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

p.219「セーフモードでの起動」

外付けディスプレイに表示する

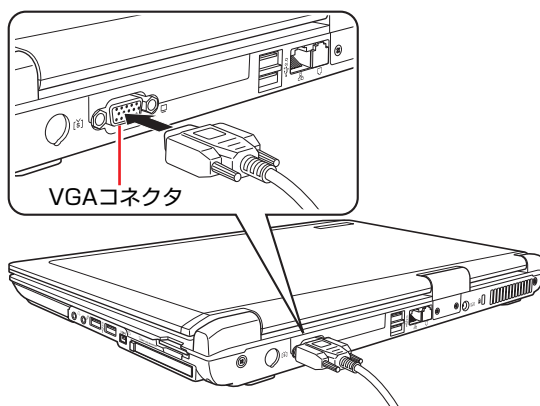
本機に外付けディスプレイ（アナログ）表示装置を接続して、画面を表示することができます。

▶ディスプレイの接続

ディスプレイの接続

本機では、外付けディスプレイ（アナログ）を接続することができます。
ディスプレイの接続は、次の手順で行います。

1 **本機と外付けディスプレイの電源を切ります。**

2 **外付けディスプレイの接続ケーブルを本機背面のVGAコネクタ（□）に接続します。**

3 **外付けディスプレイと本機の電源を入れます。**

Fn＋F8（LCD/□）を押すと、表示装置の切り替えができます。
「画面の外観を選択してください」と表示された場合は、表示方法を選択し、［OK］をクリックします。

外付けディスプレイへの表示を終了する
外付けディスプレイへの表示が終了したら、Windowsを終了後に必ず接続ケーブルを取り外してください。外付けディスプレイの電源が入っていなくても、ケーブルを接続しているだけで自動認識されます。

ビデオプロジェクタへの接続

ビデオプロジェクタも外付けディスプレイと同様に、本機のVGAコネクタに接続します。
詳しくはプロジェクタに添付のマニュアルをご覧ください。

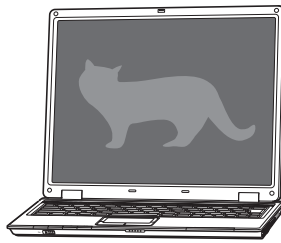
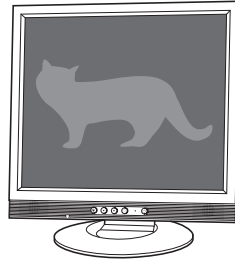
▶表示できるモードの種類

画面に表示できるモードは、次の3種類があります。

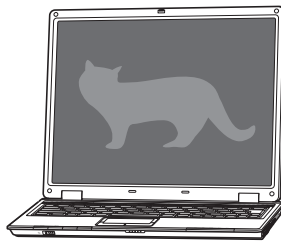
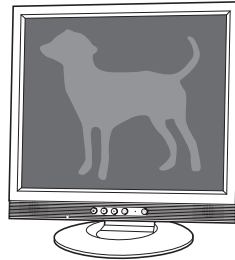
● 1つのディスプレイモード

1つのディスプレイ（LCDユニットのみまたは外付けディスプレイのみ）に表示します。外付けディスプレイが接続されていてもLCDのみで表示できます。

● クローンモード

2つのディスプレイに同じ画面を表示します。プレゼンテーションを行う場合などに便利です。

＜LCD画面＞　＜外付けディスプレイ＞

● 拡張デスクトップモード

それぞれのディスプレイに対して、個別に表示設定をすることができます。複数の画面をコンピュータ上に表示する場合に便利です。

＜LCD画面＞　＜外付けディスプレイ＞

▶モードを切り替えるには

画面のモードの切り替え方法には、次の2つがあります。

- キーボードで操作する
  キーボードで簡単に「1つのディスプレイモード」と「クローンモード」に切り替えができます。
- ユーティリティから操作する
  すべてのモードの切り替えが可能です。

キーボードで操作する場合

Fn ＋ F8（LCD/□）を押して、表示装置を切り替えます。
本機で表示できる組み合わせは次のとおりです。接続している表示装置を自動的に認識して切り替えます。

組み合わせ	表示内容
LCD Only	LCD画面のみに表示
CRT Only	外付けディスプレイのみに表示
LCD+CRT	LCD画面と外付けディスプレイに同じ画面を表示（クローンモード）

- 解像度の異なる２つの表示装置を選択した場合、低い方の解像度で表示されます。
- 「拡張デスクトップモード」で表示をしている場合、キーボードでの切り替えはできません。
- 動画の再生中やゲームソフトの起動時には、キーボードで表示装置の切り替えができないことがあります。

ユーティリティから操作する場合

ユーティリティでは、表示装置の切り替えや、表示モードの設定などができます。

1 **本機に外付けディスプレイが接続されていることを確認し、通知領域の「Catalyst Control Center」アイコンを右クリックし、「Catalyst Control Center...」を選択します。**

＜Catalyst Control Centerアイコン＞

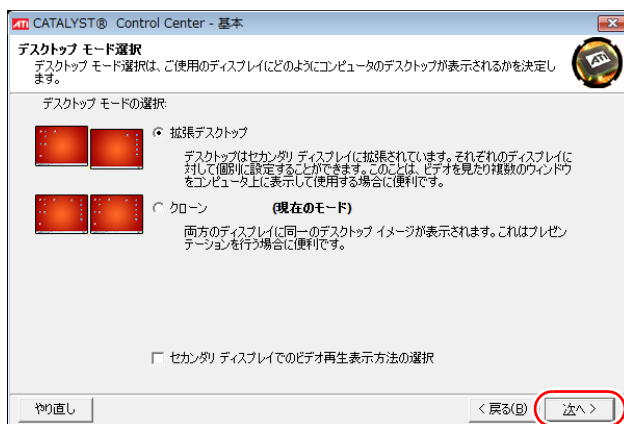
「ATI Catalyst Control Center」画面が表示された場合は、画面左下の［基本...］をクリックし、次の画面で［はい］をクリックします。

2 **「ATI Catalyst Control Center へようこそ」と表示されたら、「基本の[簡単設定ウィザードとクイック設定]」を選択し、[次へ]をクリックします。**

3 **「実行する操作」と表示されたら、「ディスプレイ設定を設定します」が選択されているのを確認して、［移動する］をクリックします。**

4 **「利用可能なディスプレイ　デバイス」と表示されたら、「メインディスプレイ」を選択し、［次へ］をクリックします。**

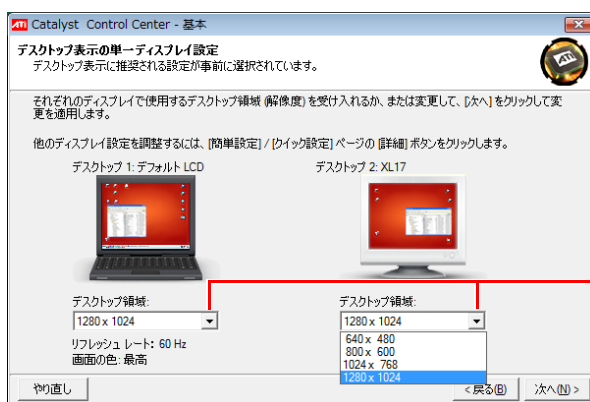
拡張デスクトップモードの場合、「メインディスプレイ」側に［スタート］メニュー（画面左側）が表示されます。

5 **「デスクトップモード選択」と表示されたら、モードを選択し、[次へ] をクリックします。**

6 **「ATI ディスプレイマネージャー通知」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。**

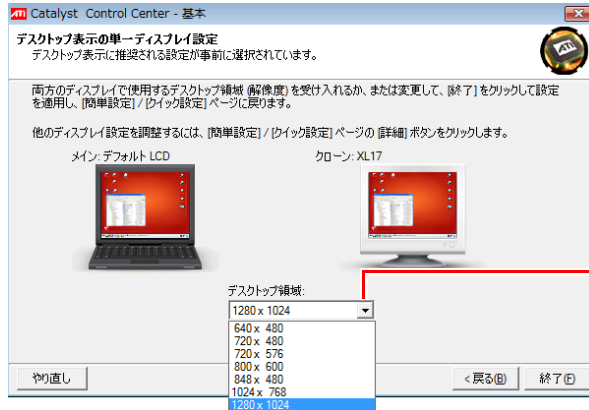
表示されて15秒以内に [はい] をクリックしないと、設定は反映されません。

7 **デスクトップの設定をします。**

<拡張デスクトップモードを選択した場合>

(1)「デスクトップ表示の単一ディスプレイ設定」と表示された画面で、解像度を変更する場合は変更し、[次へ] をクリックします。

(2)「拡張デスクトップ ディスプレイ構成」と表示された画面で、ディスプレイ上の配置を設定する場合は、画面メッセージに従い設定し、[終了] をクリックします。

＜クローンモードを選択した場合＞

(1)「デスクトップ表示の単一ディスプレイ設定」と表示された画面で、解像度を変更する場合は変更し、［終了］をクリックします。

8　**「実行する操作」と表示されたら、［終了］をクリックします。**

これで、設定は完了です。

▶外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色

解像度や表示色が高いと、「WinDVD」で DVD VIDEO を再生するときなどに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

外付けディスプレイで表示できる解像度と表示色は、次のとおりです。
実際に表示できる解像度は、表示モードや接続しているディスプレイによって異なります。

- **解像度**　ピクセル（横×縦）
  800×600
  1024×768
  1280×1024
  1400×1050
  1600×1200
- **表示色**
  中（16ビット）/ 最高（32ビット）

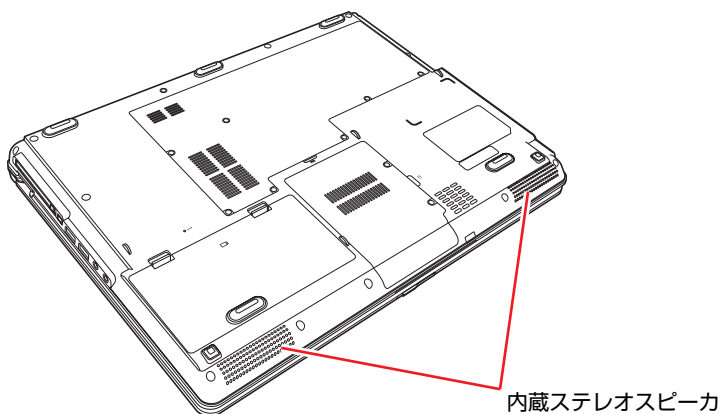
表示できる解像度
実際に表示できる最大解像度はコンピュータ側の最大解像度と接続するディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。ディスプレイに添付のマニュアルで確認してください。

サウンド機能を使う

本機には、サウンド機能が搭載されています。

ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

内蔵ステレオスピーカ

本機は、内蔵ステレオスピーカを搭載し、音源からの音声を出力することができます。

音量の調節

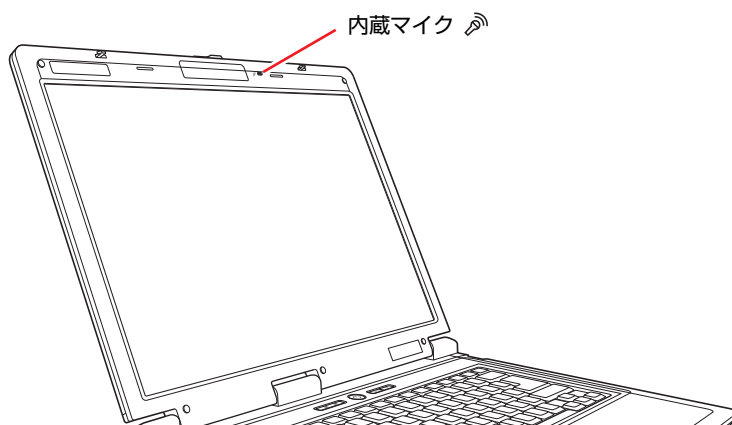
スピーカの音量は次のキーを押して調整します。

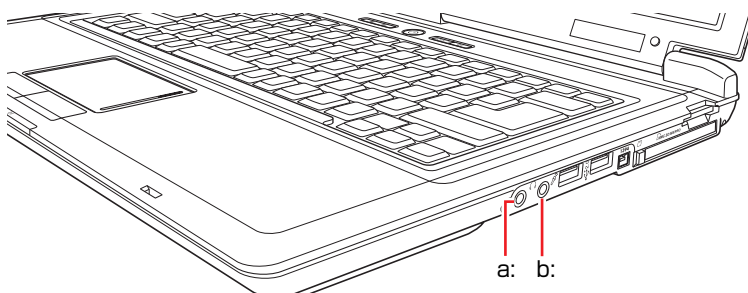
キー操作	状 態
Fn ＋ F10 🔊/🔈	一度押すとミュート（消音）になり、もう一度押すとミュートが解除されます。
Fn ＋ F11 ▼🔈	音量が小さくなります。
Fn ＋ F12 ▲🔊	音量が大きくなります。

PC カードやソフトウェアによっては、キー操作で音量調節ができないものがあります。詳しくは、PC カードやソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

内蔵マイク

本機には、マイク（モノラル）が内蔵されています。この内蔵マイクを使って、音声を録音することができます。

p.113「音声の再生・録音」

▶マイクなどの接続

本機右側面には、スピーカやヘッドフォン、マイクを接続するためのコネクタが標準で搭載されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。

a: ヘッドフォン出力コネクタ
スピーカやヘッドフォンと接続します（ステレオ）。音声を出力します。

b: マイク入力コネクタ
マイクと接続して、音声を本機に入力します。入力した音声は、本機のサウンド機能により録音、再生を行うことができます。

ヘッドフォンやマイクの接続

ヘッドフォンやマイクを接続すると内蔵スピーカや内蔵マイクの機能は自動的に無効になります。

▶音声の再生・録音

Windows標準のサウンドユーティリティを使うと、音声の再生・録音をすることができます。

音声の再生

音声の再生は、「Windows Media Player」を使用します。Windows Media Playerは、次の場所から実行します。

[スタート]－「すべてのプログラム」－「Windows Media Player」

2

音声の録音

音声の録音は、Windows標準の「サウンドレコーダー」を使用します。
サウンドレコーダーは次の場所から実行します。

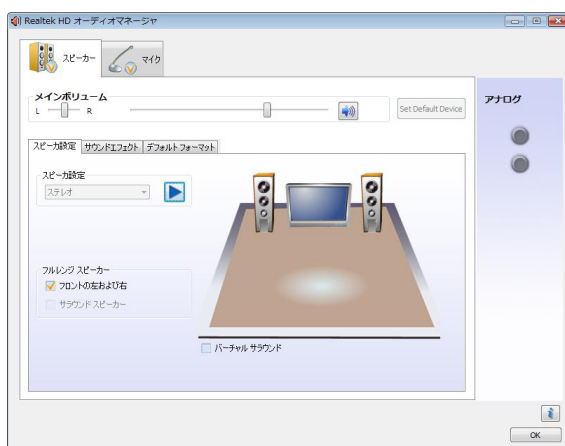
[スタート]－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「サウンドレコーダー」

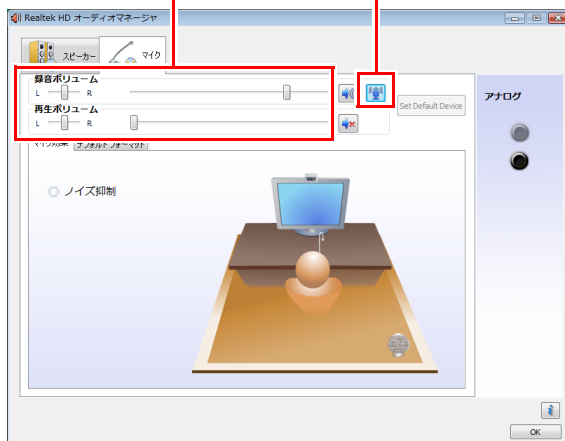
本機にマイクを接続して音声を録音する場合、音量の調節方法はp.114「マイク使用時の音量調節」をご覧ください。

▶サウンドユーティリティを使う

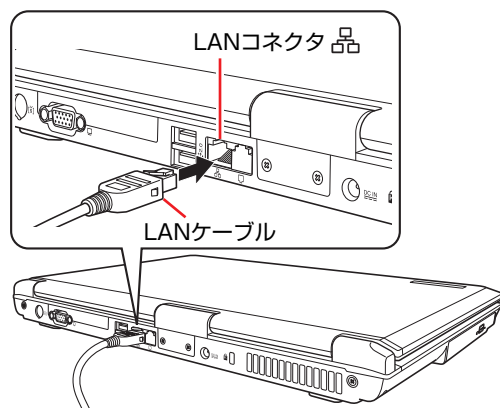
サウンドユーティリティを使用すると、スピーカの設定やマイク音量の設定、音響効果の設定などができます。
サウンドユーティリティを起動するには、通知領域の「サウンドユーティリティ」アイコンをダブルクリックします。

<サウンドユーティリティアイコン>

次の画面が表示されます。

マイク使用時の音量調節

本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。

録音時に音量を調節しても音が小さいときは、をクリックしてマイクブーストのつまみを右へスライドさせて、音量を上げてください。

ネットワーク（有線LAN）を使う

本機には、100Base-TX/10Base-Tに対応したネットワーク機能（有線LAN）が搭載されています。ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。
ネットワーク（有線LAN）を使用する場合は、本機背面のLANコネクタに市販のLANケーブルを接続します。

▶ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバ）などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。
ネットワークの構築方法は、お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のどちらかの方法をとってください。
  ・再起動する
  ・省電力状態に移行しないように設定する
  p.142 「省電力状態に移行する方法」
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常の状態へ復帰できない場合があります。

▶インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、p.128 「インターネットに接続するには」をご覧ください。

主な機能

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次のような機能を使用できます。

Wakeup On LAN

Wakeup On LANを使用すると、電源切断時やスタンバイ、休止状態のときにネットワークからの信号により本機を復帰させることができます。この機能を使用するときは、必ずACアダプタを接続してください。また、電源切断状態からの復帰は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。

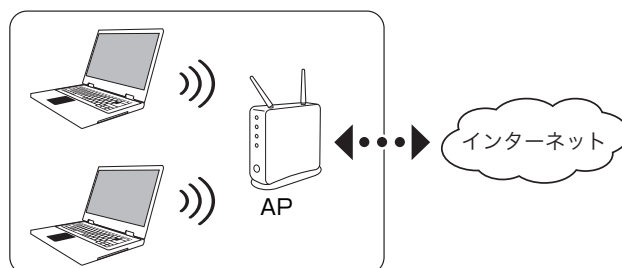
リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバ上からWindowsをインストールすることができます。

無線LANを使う（オプション）

本機には、IEEE802.11bとIEEE802.11gの2つの規格に準拠した無線LAN機能が搭載されています。
無線LANとは、電波を利用して通信を行うネットワークのことです。

無線LANの概要

無線LANでは、電波を送受信する無線LANアクセスポイント（以降、AP）を介して通信します。

インターネットへの接続

AP機能を内蔵したブロードバンドルータを使用すると、インターネットに接続することもできます。詳しくは、ブロードバンドルータに添付のマニュアルをご覧ください。

対応規格

本機の無線LANは次の規格に対応しています。

- IEEE802.11b
  従来より広く使用されている通信規格で、2.4GHzの周波数帯域を使用します。
- IEEE802.11g
  2.4GHzの周波数帯域を使用し、IEEE802.11bより高速な通信が可能です。

▶無線LAN機能をお使いの前に

- 無線LAN機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
  また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
- 無線LAN機能が搭載されている場合、医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。
  - ・手術室・集中治療室（ICU）・冠状動脈疾患監視室（CCU）には、本機を持ち込まない。
  - ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - ・病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。
  - ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
  - ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、無線LAN機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。
  電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。
  満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
- 無線LAN機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
  電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
  - ・再起動する
  - ・省電力状態に移行しないように設定する
    p.142 「省電力状態に移行する方法」
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常モードへ復帰できない場合があります。
- 本機の無線LAN機能は、Wakeup On LANとリモートブートに対応していません。

電波に関する注意事項

無線LANを使用する際は、次の電波に関する注意事項を確認して正しくお使いください。

- 本機の無線LAN機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機の無線LAN機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。なお、日本国内でのみ使用できます。

- 本機の無線LAN機能は、技術基準適合証明を受けていますので、次の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - 本機を分解/改造する
  - 本機の裏面に貼ってある無線LAN注意ラベルをはがす

- IEEE802.11b/gを使用して2.4GHz付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください(環境により電波が届かない場合があります)。

- 本機の無線LAN機能の使用する無線チャンネルが出荷時設定以外の場合は、次の機器や無線局と電波干渉するおそれがあります。
  - 産業・科学・医療用機器
  - 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    1　構内無線局（免許を要する無線局）
    2　特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

  万一、本機の無線LAN機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止（電波の発信を停止）してください。

2

▶無線LANのセキュリティ対策

無線LANは、電波を使用して通信するため、ネットワークに不正に侵入されたり通信データを盗み読みされたりする可能性があります。

p.11「無線LAN使用時における セキュリティに関する注意（無線LAN搭載時のみ）」

ここでは、無線LANで通信する際に必要なセキュリティの概要について説明します。不正アクセスを防ぐため、次のセキュリティ設定を必ず行ってください。

設定は、まずAPで行います。設定方法は、APに添付のマニュアルで確認してください。

本機の設定はp.123「無線LANで接続する」で行います。

SSID

SSIDとは、無線LANの名前です。他の無線LANと識別するために、AP側で任意のSSIDを設定します。

SSIDは、第三者でも簡単に読み取ることができるため、APにSSIDの非通知機能が搭載されている場合は、非通知にすることをおすすめします。

MACアドレスフィルタリング

ネットワーク製品には、MACアドレス（処理アドレス）という固有の番号がそれぞれ割り当てられています。MACアドレスフィルタリングとは、AP側に無線LANのMACアドレスを登録することで、それ以外のMACアドレスからのアクセスをAP側が拒否する機能です。

情報の暗号化（WEP/WPA/WPA2）

無線LAN通信をする場合、通信データを暗号化してデータが読み取られないようにします。まず、APで暗号化の設定を行い、コンピュータ側で同じ暗号化設定を行います。

暗号化には次のような方法があります。

● WEP

APとコンピュータに同じ文字列をWEPキーとして設定します。WEPキーはパスワードの代わりです。WEPキーを設定すると、データが暗号化されるため情報が傍受されにくくなります。WEPキーは従来から使用されている暗号化の規格です。

● WPA/WPA2

WPA/WPA2は、WEPの機能をさらに強化した方式です。

WPA-PSKでは、暗号鍵を一定時間ごとに自動更新するため、WEPより安全です。AP側がWPA-PSKに対応している場合は、WPA-PSKを使用することをおすすめします。

無線LAN機器に関する用語一覧

無線LAN機器のマニュアルによって設定項目の呼び方が異なる場合があります。本書での記述と無線LAN機器のマニュアルが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
無線LAN	ワイヤレスLAN
無線LANアクセスポイント（AP）	ワイヤレスLANステーションアクセスポイント、親機、各社の製品名称
インフラストラクチャ通信	アクセスポイント通信、 アクセスポイント経由通信
SSID	ESS-ID、ESSID、ネットワーク名、 サービスセット識別子
SSID非通知	SSIDの隠ぺい、SSIDを見せない設定、 SSIDマスクビーコン、SSIDステルス
WEPキー	WEP暗号化キー、暗号化キー
MACアドレスフィルタリング	MACアドレスによる制限
キーインデックス	WEPキー番号、キー番号

2

▶無線LANのON/OFF切替

無線LANのON/OFFの切替方法について説明します。

警告

無線 LAN 機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
電波が電子機器や医用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。

制限

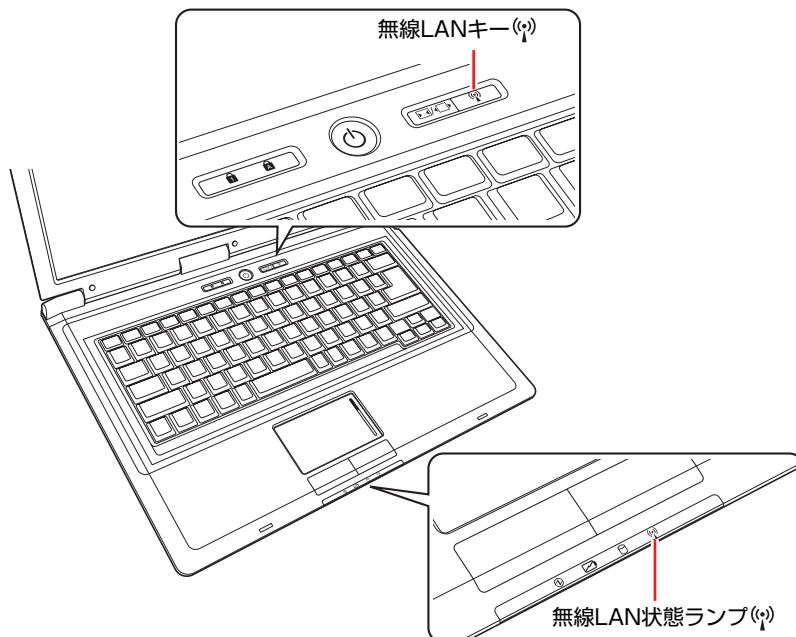
次のような場合は、無線 LAN 機能を OFF にしてください。
- 航空機や病院など、使用を禁止された区域に持ち込む場合
- ネットワーク（有線LAN）に戻して使用する場合

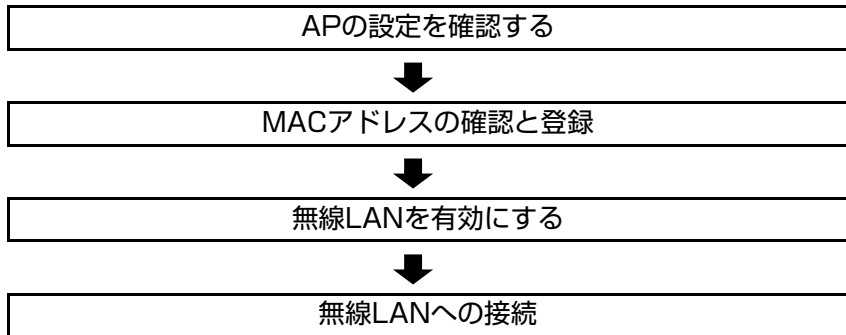
無線LAN機能をONにする

無線LANキー（(ꞏ)）を押して、無線LAN機能をONにします。もう一度押すとOFFになります。購入時には、無線LAN機能はOFFに設定されています。

無線LAN状態ランプ

無線LANの状態は、無線LAN状態ランプ（(ꞏ)）で確認してください。

無線LANの状態	無線LAN状態ランプ
ON	点　灯
OFF	消　灯

▶無線LAN接続の作業の流れ

無線LANでAPに接続するための作業の流れは次のとおりです。

作業は、p.123 「無線LANで接続する」の手順に従ってください。

▶無線LANで接続する

ここでは、本機の無線LAN機能を使ってAPに接続するための方法について説明します。

APの設定を確認する

コンピュータ側で設定を行う際に、APに登録されている「SSID」や「WEPキー」、「WPA」などの設定内容を入力する必要があります。APに添付のマニュアルを参照して、「SSID」と「暗号化」の設定を確認しておいてください。

MACアドレスの確認と登録

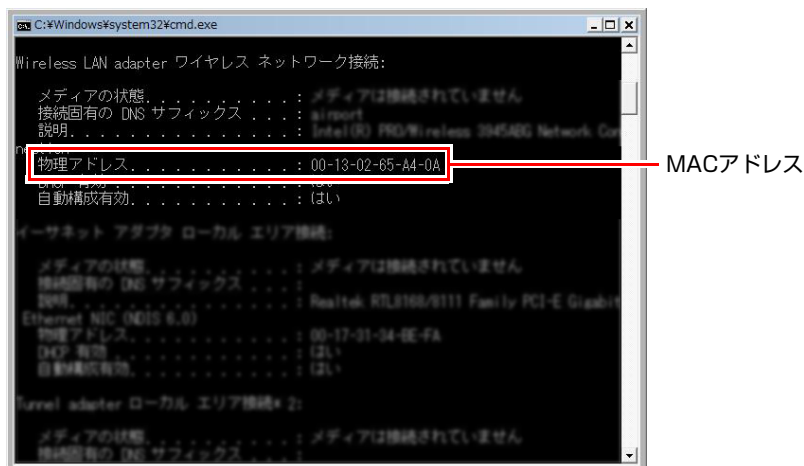
本機の無線LANのMACアドレスをAPに登録するために、MACアドレスを確認します。MACアドレスの確認方法は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」を選択します。**

2 **コマンドプロンプトが表示されたら、「C:¥・・・>」のあとに次のとおり入力して、［↵］を押します。**

ipconfig□/all （□は、スペースを意味します。）

3 **無線LANアダプタのMACアドレス（物理アドレス）が表示されるので、確認して書き写します。**

複数ネットワークアダプタがある場合は、各アダプタの物理アドレスが個別に一覧表示されます。

4 **書き写したMACアドレスをAPに登録します。**

APへの登録方法は、お使いになるAPに添付のマニュアルをご覧ください。

無線LANを有効にする

本機の無線LANがOFFに設定されている場合は、無線LANをONにしてください。

p.122 「無線LANのON/OFF切替」

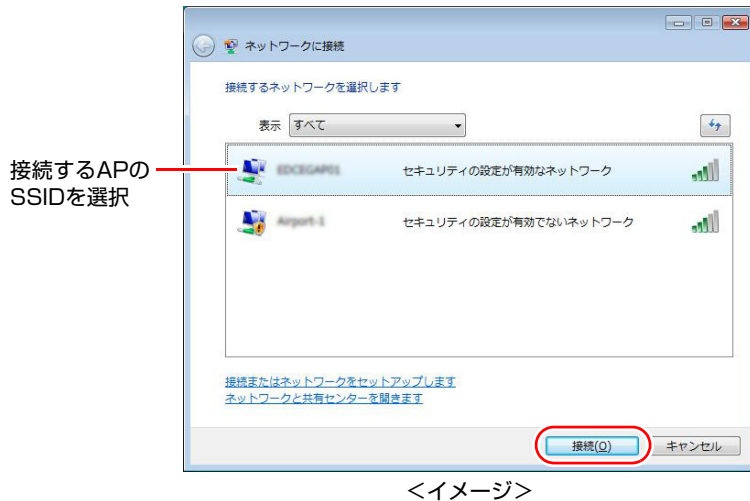
無線LANへの接続

無線LANに接続する方法は次のとおりです。ここでは、自動的に無線LANネットワークを検索し、プロファイルを作成して接続する方法を説明します。

1 **［スタート］ー「接続先」をクリックします。**

2 **「ネットワークに接続」画面が表示されたら、接続するAPを選択し、[接続]をクリックします。**

APがSSID（ネットワーク名）非通知機能を有効にしている場合、ここではAPが表示されません。p.126「手動でプロファイルを作成して接続する」で設定を行ってください。

<イメージ>

3 **「・・・のネットワークセキュリティキーまたはパスフレーズを・・・」と表示されたら、セキュリティキーまたはパスフレーズを入力して、[接続]をクリックします。**

セキュリティキーまたはパスフレーズ（WEPキーなどの暗号化キー）は、お使いになるAPに添付のマニュアルをご覧ください。

4 **「・・・に正しく接続しました」と表示されたら、「この接続を自動的に開始します」にチェックが付いた状態で［閉じる］をクリックします。**

設定した内容がプロファイルとして登録されます。これで、無線LANへの接続は完了です。

無線LANの使い方はp.127「無線LANを使用する」をご覧ください。

プロファイルとは

本機では、無線LANネットワークに接続するための設定（SSIDや暗号化の設定）を、プロファイルとして保存します。

会社、自宅や外出先などで、複数の無線LANネットワーク環境に接続したいときは、それぞれの接続設定をプロファイルとして登録しておくと便利です。

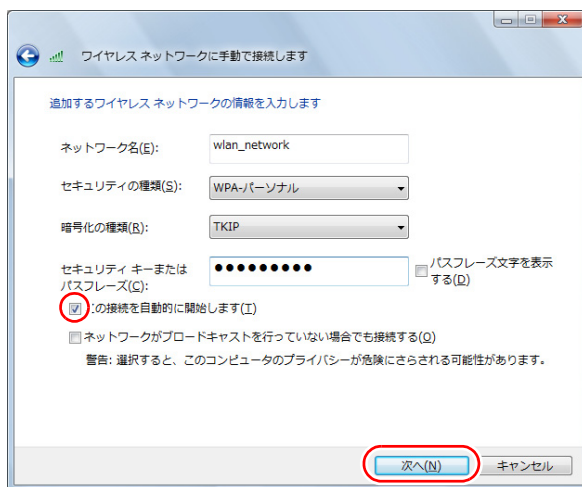
▶手動でプロファイルを作成して接続する

APでSSID（ネットワーク名）非通知機能を有効にしている場合は、手動でプロファイルを作成して接続します。
プロファイルの作成方法は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「ネットワークとインターネット」－「ネットワークと共有センター」－「ワイヤレスネットワークの管理」をクリックします。**

2 **「使用するワイヤレスネットワークを管理します」と表示されたら、「追加」をクリックします。**

3 **「どのような方法でネットワークを追加しますか？」と表示されたら、「ネットワークプロファイルを手動で作成します」をクリックします。**

4 **「追加するワイヤレスネットワークの情報を入力します」と表示されたら、接続するAPで設定されているセキュリティ情報を入力します。**
APのセキュリティ情報は、お使いになるAPに添付のマニュアルをご覧ください。

(1)「ネットワーク名（SSID）」を入力します。
(2)「セキュリティの種類」を選択します。
(3)「暗号化の種類」を選択します。
「セキュリティの種類」で選択した内容によっては、選択する必要はありません。
(4)「セキュリティキーまたはパスフレーズ」（WEP キーなどの暗号化キー）がAPで設定されている場合は、入力します。
(5)「この接続を自動的に開始します」にチェックを付けて、「次へ」をクリックします。

5 「正常に・・・を追加しました」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。

これで、プロファイルの作成は完了です。

▶無線LANを使用する

一度、無線LANの接続設定を行うと、次回Windowsを起動して無線LAN機能をONに設定すると、自動的に無線LANネットワークに接続します。

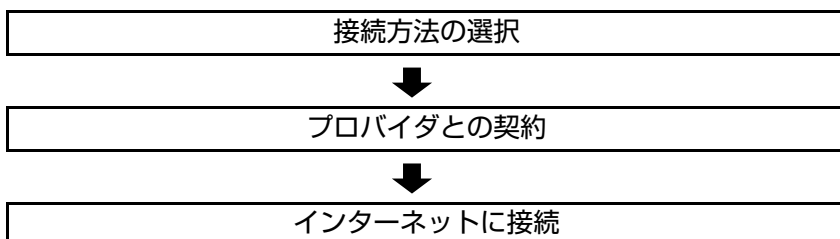
複数の無線LANネットワークを切り替える

複数のプロファイルを登録しておくと、無線LANの通信範囲内で接続可能な無線LANネットワークを検索して、自動的に接続先を切り替えます。
手動で無線LANネットワークを切り替えるには、［スタート］－「接続先」をクリックし、「ネットワークに接続」画面で接続したいネットワーク名（SSID）を選択してください。

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続の概要や、インターネットを利用するためのソフトウェアなどについて説明します。

接続するまでの流れ

インターネット接続までの流れは次のとおりです。

接続方法の選択とプロバイダとの契約

インターネットへ接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダ（インターネットサービスプロバイダ、ISP）と契約します。
接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダによって異なります。詳しい内容はプロバイダにお問い合わせください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと言い、光ファイバー、ADSL、CATVなどを利用した接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと言います。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	
ADSL		
CATV		
ISDN	ナローバンド	
PHS		
携帯		
アナログ		

インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

- 光ファイバー（FTTH）
  ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。
  ただし、接続料金が高く、非対応の地域があります。
- ADSL
  電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。
  利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまうので、事前に速さの確認をする必要があります。
- CATV
  ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。
- そのほかの接続方法（ナローバンド）
  アナログ電話回線やISDN回線などを使った低速な接続方法があります。

ダイヤルアップ接続

ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と言います。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。

▶インターネットに接続する

プロバイダと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。

再インストール後のインターネット接続

Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダからの説明書はなくさないように大切に保管してください。

▶インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気を付けてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、本機が障害を被る可能性があります。
- コンピュータウイルスに感染すると、本機が障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。
  ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。
  - ウイルスが添付されたメールを受信する
  - 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

  これらの危険から本機を守る方法は、p.133「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

▶インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
- 電子メールの利用：Windowsメール

ここでは、これらのソフトウェアの使い方について簡単に記載しています。
各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

Windowsメールの初期設定

Windowsメールをはじめて起動する場合は、初期設定を行います。
初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダから提供された説明書をご覧ください。

初期設定方法は次のとおりです。

1 **次のどちらかの方法でWindowsメールを起動します。**

- ［スタート］－「すべてのプログラム」－「Windowsメール」
- Fn ＋ F3 （✉）を押す

2 **「名前」と表示されたら、名前を入力して［次へ］をクリックします。**

3 **「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して［次へ］をクリックします。**

4 **「電子メールサーバーのセットアップ」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して［次へ］をクリックします。**

5 **「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているユーザー名とパスワードを入力して［次へ］をクリックします。**

6 **「設定完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。**

設定を変更する
一度行った設定は、次の場所から変更することができます。
「ツール」メニュー －「アカウント」－［追加］－「電子メールアカウント」

Internet Explorerで情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。

＜画面はイメージです＞

Internet Explorerの便利な追加機能

● JWord

「JWord」を使うと、アドレスバーを利用して、簡単に検索ができます。JWordの詳しい使い方は、デスクトップ上にある「JWord」アイコンからマニュアルを開いてご覧ください。

＜JWordアイコン＞

● gooスティック

Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されています。「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうるコンピュータウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティ機能が備えられています。ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピュータの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

▶Windows Update

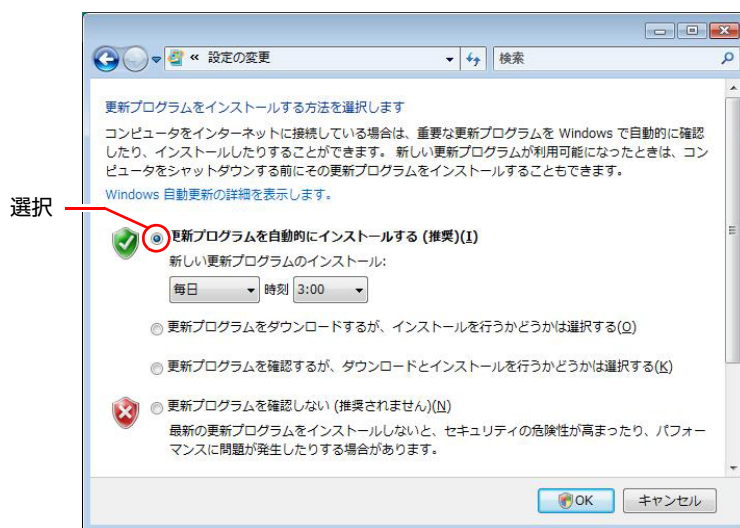
「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を確認し、Windowsの更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。
Windowsを最新の状態にするため、Windows Updateを行ってください。

自動更新の設定

本機を使用する際は、自動でWindows Updateが行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。
自動更新の設定がされていると、インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされ、設定時刻に自動でインストールされます。

Windowsのセットアップ時に「Windowsを自動的に保護するよう設定してください」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

自動更新の設定は、次の場所で行います。

［スタート］−「すべてのプログラム」−「Windows Update」−「設定の変更」

手動で更新プログラムをインストールする

重要度の高い更新プログラムは自動更新でインストールされますが、それ以外の更新プログラムは手動でインストールする必要があります。

更新プログラムがダウンロードされると、画面右下の通知領域に「Windows Update」アイコンが表示されます。

＜Windows Updateアイコン＞

アイコンをクリックして表示される「Windows Update」画面で更新プログラムを確認し、必要に応じてインストールを行ってください。

▶セキュリティソフトウェア

コンピュータウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。
コンピュータウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。
ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング対策機能を備えた「Norton Internet Security 90日版」が添付されています。購入時にNorton Internet Security 90日版はインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。詳しくは、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

更新サービスの有効期限

本機に添付のNorton Internet Security 90日版は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、セットアップ後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスの詳細は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアを使う

市販のウイルス対策ソフトウェア（セキュリティソフトウェア）を使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、Norton Internet Security 90日版はインストールしないでください。
インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

▶ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんされたり、破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。Norton Internet Security 90日版のセットアップを行うと、自動的にファイアウォール機能が有効になりますので、そのままお使いください。

Windowsファイアウォールの設定

本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。
本機の状態によって、Windowsファイアウォールを次のように設定してください。

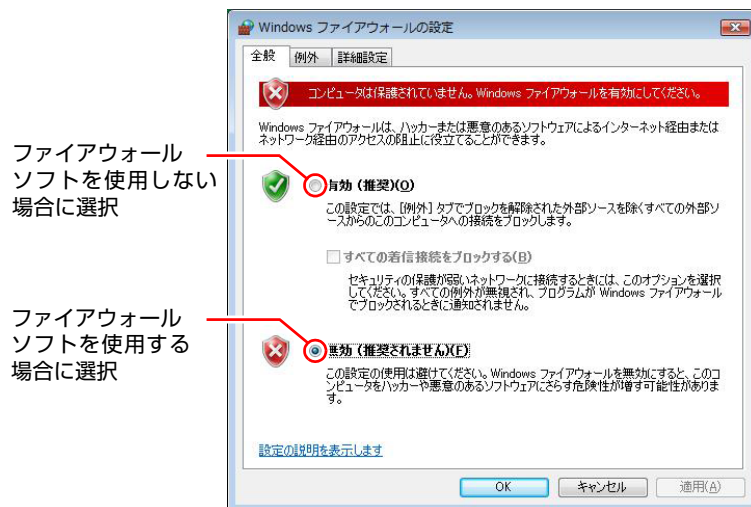
＜ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合＞

ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールを「無効」に設定してください。ソフトウェアによっては、Windowsファイアウォールが自動で「無効」に設定される場合があります。

＜ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用しない場合＞

Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「セキュリティ」－「Windows ファイアウォール」－「設定の変更」

Windows Defender

Windows Vistaには、スパイウェアやそのほかのマルウェア（悪意のあるソフトウェア）を検出したり、駆除したりするツール「Windows Defender」が備えられています。
「Norton Internet Security 90日版」などのスパイウェア対策機能を持つソフトウェアを使用している場合は、機能が重複するため、Windows Defenderが自動で「無効」に設定される場合があります。この場合は、そのまま使用してください。
スパイウェア対策機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Windows Defenderを使用してください。

Windows Defenderは次の場所から起動します。

［スタート］－「コントロールパネル」－「セキュリティ」－「Windows Defender」

▶フィッシング詐欺検出機能

フィッシング詐欺とは、金融機関などのメールやホームページを装い、ユーザーに暗証番号やクレジットカード番号を入力させて、個人情報を搾取する詐欺のことです。
本機には、「フィッシング詐欺検出機能」が搭載されています。セキュリティを守るため、機能を使用してください。

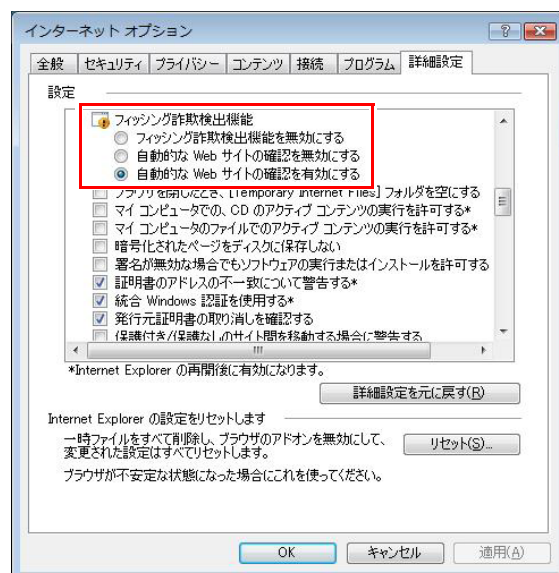
Norton Internet Security 90日版のフィッシング詐欺検出機能

本機に添付のセキュリティソフト「Norton Internet Security 90日版」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。機能を「有効」にしてお使いください。

Internet Explorerのフィッシング詐欺検出機能

ホームページ閲覧ソフト「Internet Explorer」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。「Norton Internet Security 90日版」などのフィッシング詐欺検出機能を「有効」にしている場合は、機能が重複するため、Internet Explorerの機能が自動で「無効」に設定される場合があります。そのまま使用してください。
フィッシング詐欺検出機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Internet Explorerの機能を「有効」に設定してください。

Internet Explorerのフィッシング詐欺検出機能の有効/無効の設定は、次の場所で行います。

Internet Explorerの「ツール」－「フィッシング詐欺検出機能」－「フィッシング詐欺検出機能の設定」－「詳細設定」タブ－「フィッシング詐欺検出機能」

電源設定を行う（省電力機能を使う）

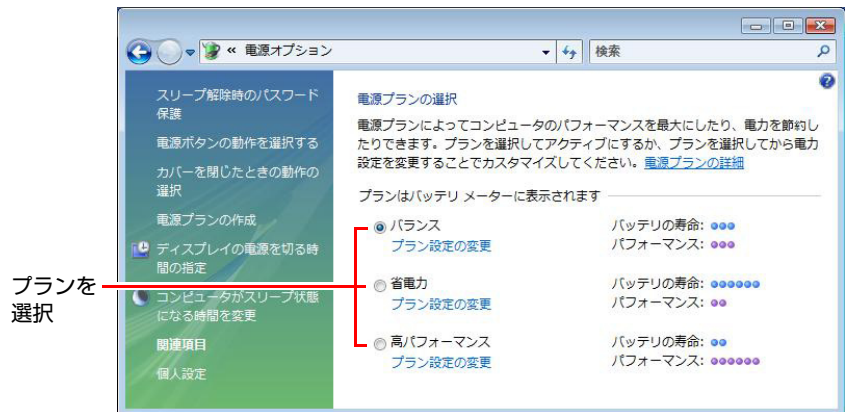
ここでは、本機の電源の設定について説明します。

▶電源プランの設定

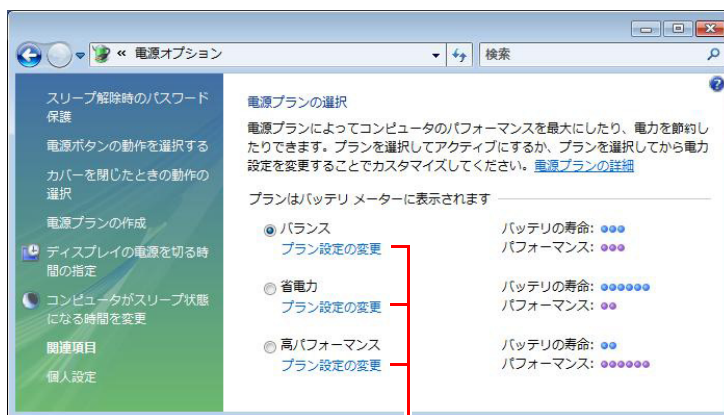
本機には、次の3つの電源プランが用意されています。電源プランの選択により電力消費を抑えたり、パフォーマンスを優先させたりすることができます。使い方にあわせた電源プランを選択して本機を使用してください。

- **バランス**
  パフォーマンスと電力消費のバランスを考えたプランです。
- **省電力**
  コンピュータの電力消費を抑えるプランです。パフォーマンスは低下します。
- **高パフォーマンス**
  電力消費は抑えずに、パフォーマンスを優先させるプランです。

電源プランの選択は、次の場所から行います。

［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」

購入時は「バランス」に設定されています。

電源プランの内容変更

電源プランの内容（省電力の設定など）は、変更することができます。変更は、各プランの「プラン設定の変更」から行います。

「プラン設定の変更」では、本機が省電力状態に移行するまでの時間の設定や、LCD画面の輝度の調整などを行うことができます。

p.142 「省電力状態に移行する方法」

▶本機を省電力状態にする

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。特にバッテリだけで使用している場合は、本機を省電力状態にしておくことで使用時間を延ばすことができます。ここでは、省電力状態に移行する方法や、省電力状態からの復帰方法について説明します。

省電力状態へ移行する際の注意

省電力状態に移行する際には、次のような制限事項があります。移行する前に、確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
  - 周辺機器を接続している
  - ソフトウェアを起動している

- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
  p.142 「省電力状態に移行する方法」
  - 光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
  - サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
  - メモリカードなど外部接続記憶装置へのデータ書き込み時：データ破壊の可能性
  - ネットワーク機能などを使っての通信時：通信が切断される可能性
  - 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
  - 省電力状態でPCカードや周辺機器などの抜き差しを行った場合
  - ネットワーク上のファイルなどを開いたまま、省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
  このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
  - 再起動する
  - 省電力状態に移行しないように設定する
    p.142 「省電力状態に移行する方法」

省電力状態の種類

省電力状態には、次の3つがあり、状況に応じて使い分けることができます。

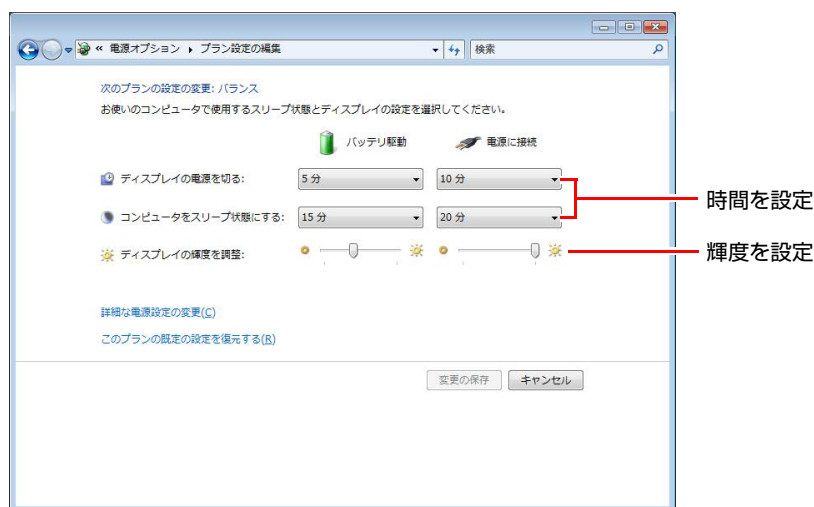
- **ディスプレイの電源を切る**
  省電力の効果はスリープ状態より低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。
- **スリープ状態**
  作業内容をメモリに保存し、コンピュータを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが点滅します。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。スリープ状態で18時間経過した場合、またはバッテリ切れした場合は、自動的にメモリの内容がHDDに書き込まれ、本機は「休止状態」になります。
- **休止状態**
  作業内容をHDDに保存し、コンピュータを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが消灯します。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

▶省電力状態に移行する方法

本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピュータを操作しない状態で、「電源プラン」で設定されている時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピュータがスリープ状態になります。
省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピュータをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所で変更することができます。

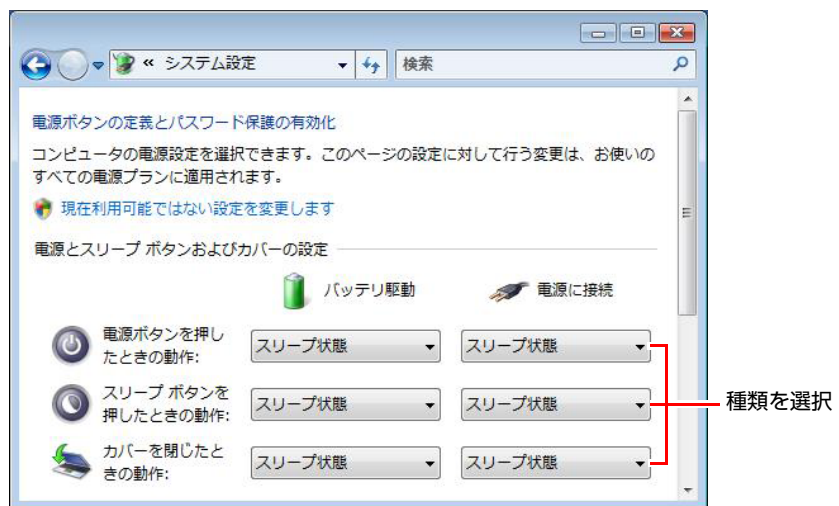
［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」

時間経過で移行させない
光ディスクメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間を全て「なし」に設定してください。

直ちに移行する

次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。

操作	省電力状態の種類
［スタート］－［⏻］をクリックする	スリープ状態（初期値）
電源スイッチ（⏻）を押す	
Fn ＋ F1 （☾ᶻᶻ）を押す	
LCDユニットを閉じる	
［スタート］－［▶］から項目を選択する	スリープ状態、休止状態、シャットダウン

各操作を行ったときに移行する省電力状態の種類は、次の場所で変更することができます。初期値はすべて「スリープ状態」に設定されています。

［スタート］－［コントロールパネル］－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」－「電源ボタンの動作を選択する」

バッテリ低下時に移行する

本機が「バッテリ低下」の状態になったとき、省電力状態に移行するように設定することもできます。

☞ p.62 「バッテリ低下時の設定変更」

電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプ（⏻）の点灯・点滅により確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常の状態	点灯（青色）
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯（青色）
スリープ状態	点滅（青色）
休止状態	消灯
電源切断時（シャットダウン時）	消灯

省電力状態からの復帰方法

本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯	タッチパッドやキーボードを操作する
スリープ状態	点滅	・電源スイッチを押す ・キーボードを操作する
休止状態	消灯	電源スイッチを押す

そのほかの機能

ここでは、そのほかの機能について説明します。

IEEE1394コネクタ

本機右側面にはIEEE1394コネクタ（4ピン）が1個搭載されています。IEEE1394コネクタにはIEEE1394対応の機器を接続します。

接続と取り外し

IEEE1394機器の接続、取り外しは電源が入った状態で行うことができます。ただし、通知領域にアイコン（「取り外し」アイコンなど）が表示される場合は、Windows上で終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

＜取り外しアイコン＞

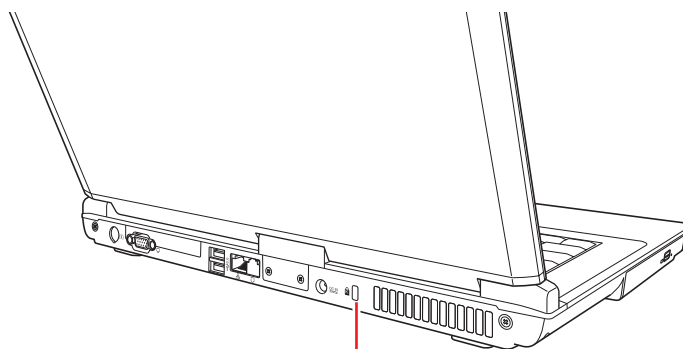
スピードステップ機能

＜インテルCoreプロセッサ搭載時＞

本機では、「スピードステップ」機能が自動的に機能しています。スピードステップ機能とは、使用時のCPUの使用率にあわせて、CPUの処理速度を自動で調整する機能です。

CPUの使用率が少ないときは、CPUの処理速度を抑え、消費電力を少なくします。また、CPUの使用率が高いときはCPU処理が高速になります。

▶セキュリティロックスロット

本機背面には、「セキュリティロックスロット」が装備されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。

当社では、専用の盗難抑止ワイヤーを取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは、次のとおりです。

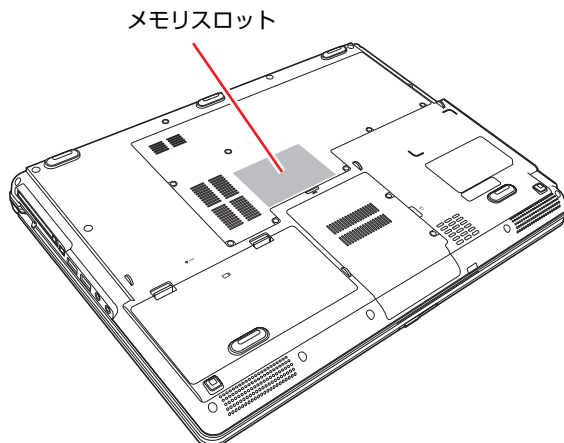
http://epsondirect.jp/

第3章
システムの拡張

アップグレードサービスやメモリの増設方法、本機に接続できる装置について説明します。

「拡張できる装置」 148
「メモリの装着」 149
「外付け可能な周辺機器」 156

拡張できる装置

本機内部では、メモリモジュール（SODIMM、以降メモリ）を増設・交換して、機能を拡張することができます。

メモリスロット

本機には、メモリスロットが底面に2本用意されています。最大2GBのメモリを搭載できます。

p.149 「メモリの装着」

本機は、メモリ以外の機能を拡張することはできません。

アップグレードサービス

当社ではコンピュータ本体をお預かりして装置の増設・交換を行うアップグレードサービスを有償で行っています。
本機では次の装置のアップグレードサービスを利用できます。

- メモリ　　　　　　：増設・交換
- 内蔵HDD　　　　　：交換
- 光ディスクドライブ：交換

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターの連絡先は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。

ご自身での装置の増設・交換（メモリを除く）は、故障の原因となりますので行わないでください。

メモリの装着

本機で使用可能なメモリの仕様と、取り付け・取り外し方法について説明します。

メモリの仕様

本機底面には、メモリスロットが2つあり、メモリを増設・交換することにより最大2GBまで拡張できます。
本機で使用可能なメモリの仕様は、次のとおりです。

- PC2-4200 SODIMM（DDR2-533 SDRAM使用）
- メモリ容量　256MB、512MB、1024MB
- Non ECC
- 200ピン
- CL＝4

最新メモリ情報

今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。
本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページで確認してください。
ホームページのアドレスは次のとおりです。

http://epsondirect.jp/

▶作業時の注意

メモリの増設、交換をする場合は、次の点に注意してください。

- メモリの増設・交換をするときは、電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリパックを取り外してください。感電や火傷の原因となります。
- 本機の分解・改造や、マニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。けが・感電・火災の原因となります。

- メモリの増設・交換は本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や、傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリを持つときは、メモリの端子部や素子に触れないでください。メモリの破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

メモリの増設・交換

メモリの増設・交換の手順は次のとおりです。

メモリの取り付け

メモリを取り付ける手順は次のとおりです。

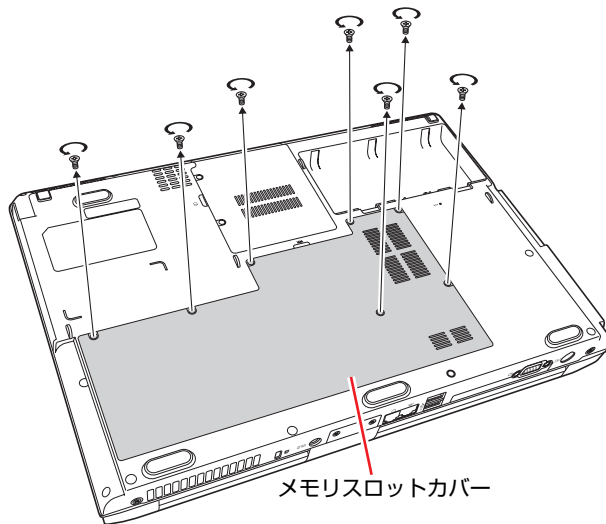
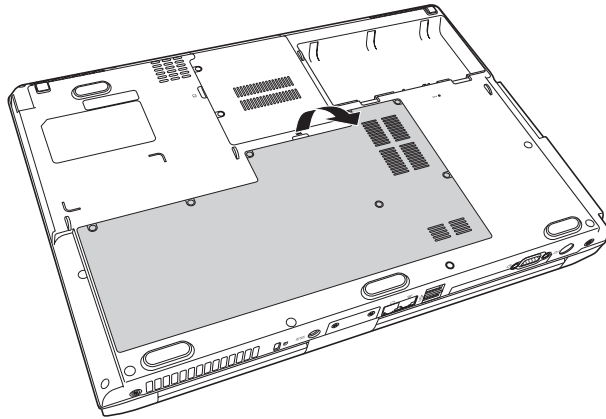
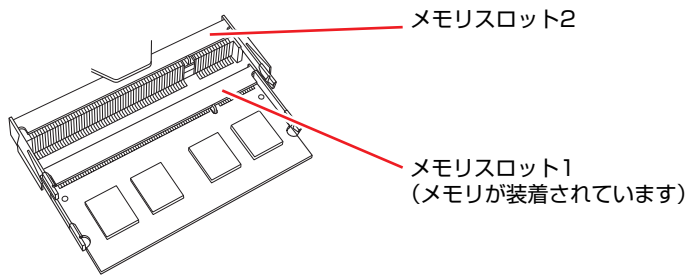
1 **コンピュータの電源が入っている場合は、電源を切ります。**

コンピュータ内部が冷えるまで、10分以上放置してください。

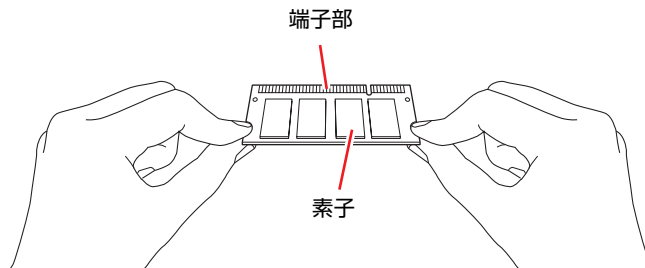
2 **コンピュータに接続しているケーブル類（ACアダプタなど）を、すべて外します。**

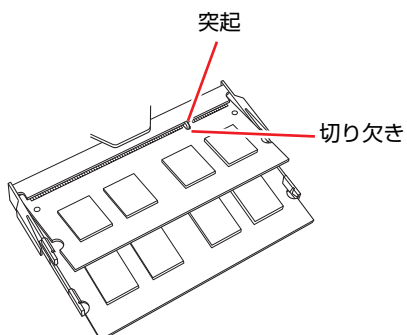
3 **本機の底面を上にして置き、バッテリを取り外します。**

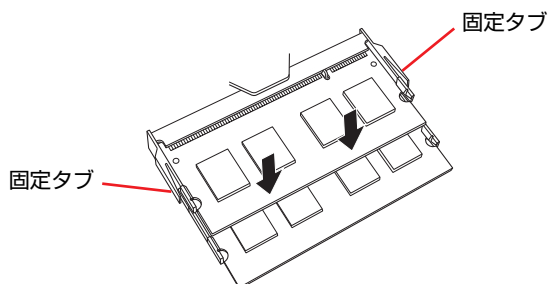
p.63 「バッテリの交換」

4 **メモリスロットカバーのネジ（7本）を外します。**

5 **メモリスロットカバーを矢印の方向に持ち上げて取り外します。**

6 **メモリスロット2の位置を確認します。**

メモリスロット1のメモリを交換する場合、メモリスロット2にメモリが装着されているときは、メモリスロット2のメモリを取り外してから作業を行ってください。

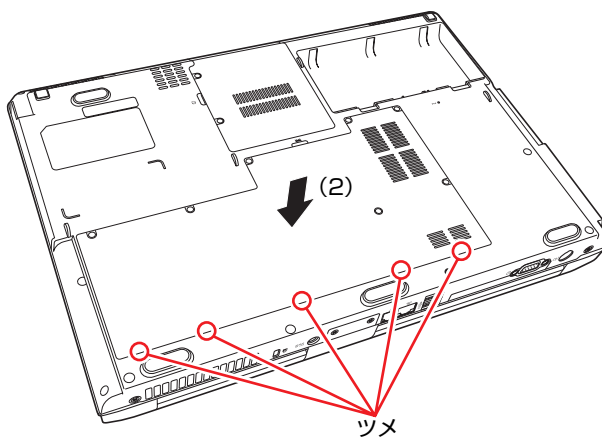
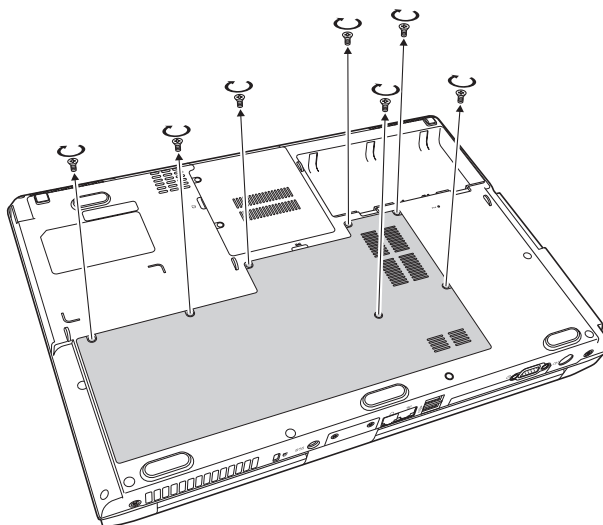
7 **増設するメモリを静電気防止袋から取り出します。**

メモリの端子部や素子に触れないように持ちます。

8　メモリを、メモリスロット2に差し込みます。

メモリの切り欠きをメモリスロットの突起にあわせ、メモリを約30度の角度でメモリスロットに差し込みます。

9　メモリを静かに倒します。

「カチッ」と音がしてメモリが両側の固定タブに固定されます。

10　メモリスロットのカバーを取り付けます。

(1) メモリスロットカバーの背面側5箇所のツメを本体に合わせます。
(2) メモリスロットカバーを「カチッ」と音がするまで押し込みます。

3

11 **ネジ（7本）で固定します。**

12 **バッテリを取り付けます。**

p.63 「バッテリの交換」

13 **本機の底面を下にして置きます。**

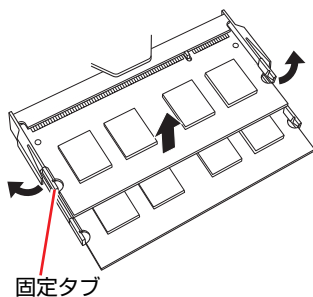
14 **コンピュータを使用できるように、ケーブル類を元に戻します。**

続けてp.155 「メモリの増設・交換後の作業」を行います。

メモリの取り外し

メモリの取り外しは、p.151 「メモリの取り付け」の手順7〜9を次の手順に読み替えて行ってください。ここでは、メモリスロット2のメモリを取り外す手順を説明します。

1 **メモリを両側で固定している固定タブを外側に広げます。**

メモリが起き上がります。

2 **起き上がったメモリの両端を持って静かに引き抜きます。**

取り外したメモリは静電防止袋に入れて保管してください。

メモリの増設・交換後の作業

メモリの増設・交換をしたら、メモリが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリの容量を確認します。
メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

1 シャットダウン状態からコンピュータの電源を入れたら、F2 を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。

p.159 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2 「Main」メニュー画面－「System Memory」で総メモリ容量を確認します。

3 F10 を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。

p.163 「BIOS Setupユーティリティの終了」

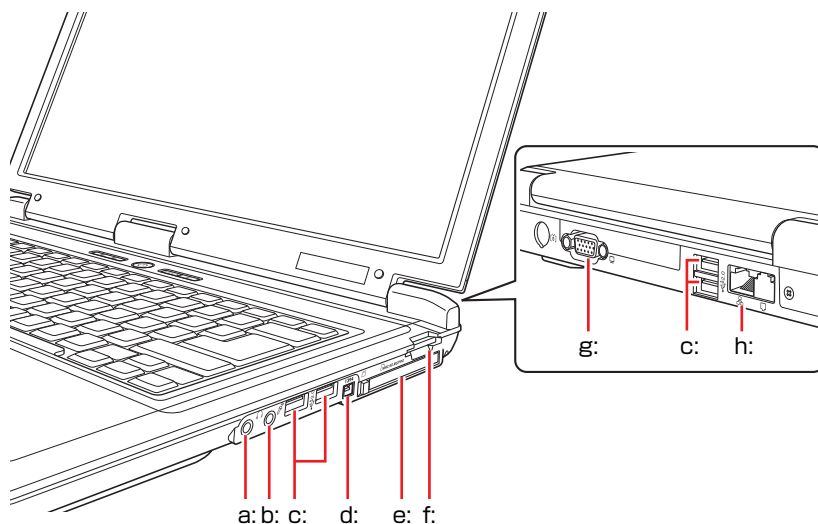
手順2で総メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、メモリを正しく取り付けなおしてください。

総メモリ容量の表示

本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。そのため、メインメモリからビデオメモリを引いた数値が表示されます。
ビデオメモリの容量は、メインメモリの搭載容量によって変わります。メインメモリの搭載容量に対するビデオメモリの容量は次のとおりです。

メインメモリ	ビデオメモリ
512MB	64MB
1024MB以上	128MB

外付け可能な周辺機器

本機のスロットやコネクタには、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

a: ヘッドフォン出力コネクタ
- スピーカ
- ヘッドフォン

b: マイク入力コネクタ
- マイク

c: USBコネクタ
- プリンタ
- スキャナ
- デジタルカメラ
- USB FDD（オプション）
- USBマウス（オプション）
- USB対応機器

d: IEEE1394コネクタ
- DV機器
- IEEE1394対応機器

e: PCカードスロット
- PCカード
（PCMCIA規格準拠、Type II）

f: メモリカードスロット
- メモリースティック
- マルチメディアカード
- SDメモリーカード

g: VGAコネクタ
- 外付けディスプレイ
- ビデオプロジェクタ

h: LANコネクタ
- ネットワーク

そのほかの接続可能な周辺機器

本機では、ケーブルを介さずに次の機器が接続できます。
- 無線LAN対応機器（無線LAN搭載時のみ）

第4章
BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

「BIOSの設定を始める前に」 158

「BIOS Setupユーティリティの操作」 159

「BIOS Setupユーティリティの設定項目」 170

BIOSの設定を始める前に

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。
BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成にあわせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。
BIOS Setupユーティリティで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

リチウム電池の寿命
BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタやバッテリからの電源供給が全くない場合、寿命は約5年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。
そのような場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す
  万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。
  p.175 「BIOS Setupユーティリティの設定値」
- 初期値や前回保存した設定値に戻す
  p.163 「設定値を元に戻す」

BIOS Setupユーティリティの操作

ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- Passwordを設定する
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

▶BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの F2 の位置を確認してください。手順2では、すばやく F2 を押す必要があります。

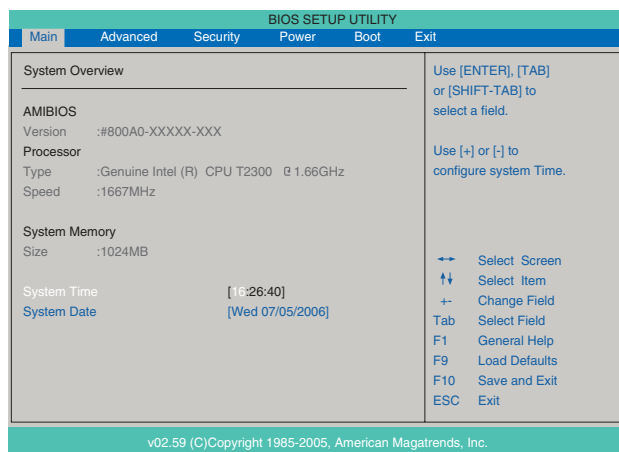
1 **本機の電源を入れます。**

すでにWindowsが起動している場合は再起動します。

2 **本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの F2 を押します。**

Windowsが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう一度実行してください。

3 **「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。**

＜BIOS Setupユーティリティ（イメージ）＞

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合には、本機の電源を入れたときに次のメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

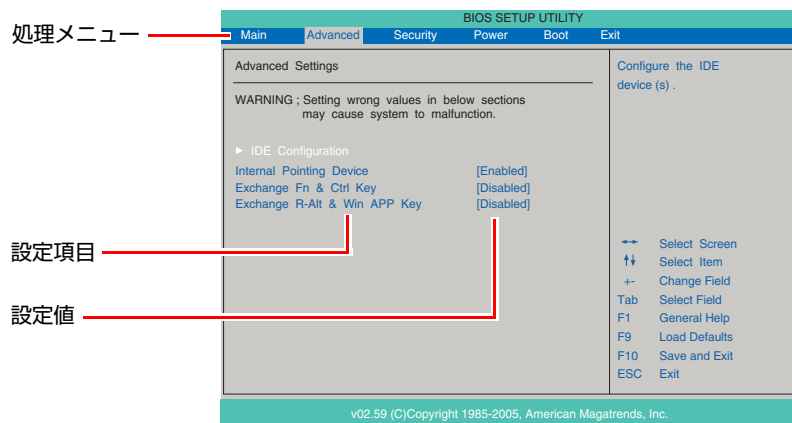
このメッセージが表示されたら F2 を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常はそのまま「Save Changes and Exit」を実行してBIOS Setupユーティリティを終了します。

p.163 「BIOS Setupユーティリティの終了」

BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOSセットアップユーティリティを起動すると、次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。

＜メニュー画面＞

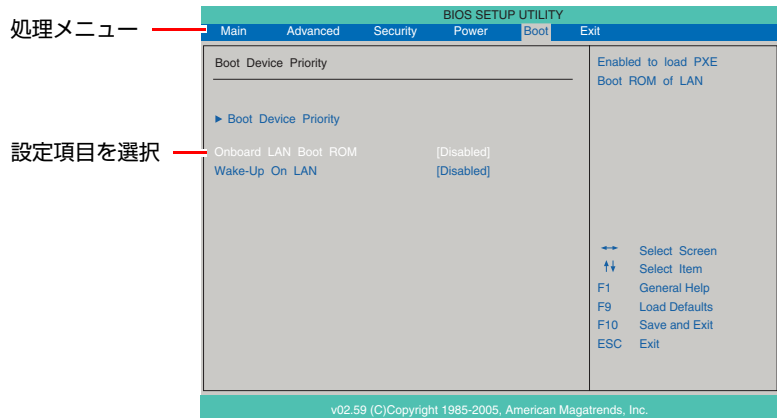
ここで説明に使用している画面はイメージです。実際の設定項目とは異なります。実際の各メニュー画面と設定項目の説明は p.170 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

操作方法

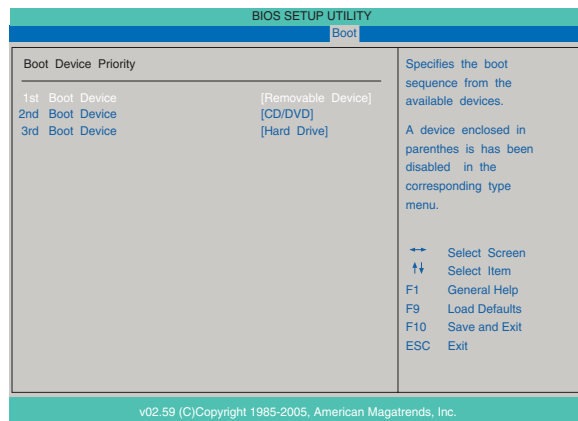
BIOS Setupユーティリティの操作方法は、次のとおりです。

1 **処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。**

[→][←]でメニュー間を移動します。

[↑][↓]で設定値を変更したい項目まで移動します。

<▶のある項目の場合>

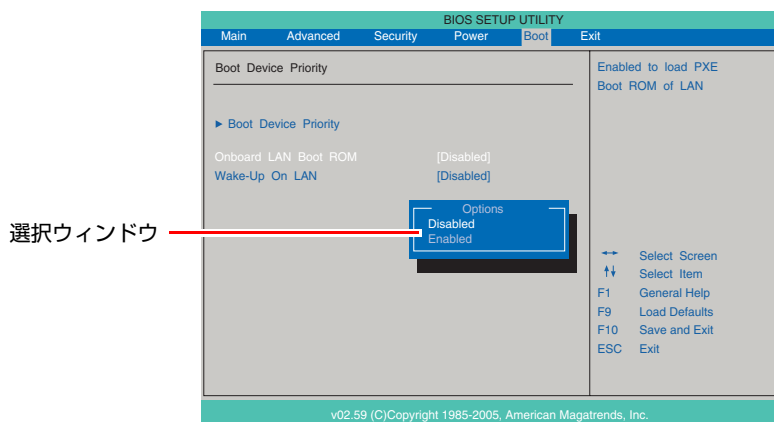
▶のある項目の場合、[↵]を押すとサブメニュー画面が表示されます。

[↑][↓]で設定値を変更したい項目まで移動します。

<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには[Esc]を押します。

4

2 **設定値を変更します。**

[↵]を押して選択ウィンドウを表示し、[↑][↓]で値を選択し、[↵]で決定します。

キー操作一覧

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
[↑], [↓]	設定を変更する項目を選択します。
[←], [→]	処理メニューを選択します。
[Fn]+[-]（[P せ]） [Fn]+[+]（[+ れ]）	項目の値を変更します。
[↵]	● メニュー画面中の▶の付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
[Esc]	● 変更した内容を破棄し、終了します。 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
[F7]	変更した設定値を前回保存した設定値に変更します。
[F9]	全設定項目の値を初期値に変更します。
[F10]	変更した設定値を保存して終了します。

▶BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Save Changes and Exit（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティを終了します。

1 F10 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、↵ を押します。

Discard Changes and Exit（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。

1 Esc を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes and Exit」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Discard changes and exit setup ?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択し、↵ を押します。

▶設定値を元に戻す

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Optimal Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を、BIOSの初期値に戻します。

1 F9 を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Load Optimal Defaults ?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択して ↵ を押します。

4

Load Optimal Defaults実行後の作業

次の場合は、Load Optimal Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。

<セキュリティチップのセキュリティ機能をお使いの場合>

「Security」メニュー画面−「TPM Security」を「Enabled」に設定します。メインボード上のセキュリティチップの機能を有効にします。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

p.163 「Save Changes and Exit（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

1 F7 を押す、または「Exit」メニュー画面−「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard Changes ?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択して ↵ を押します。

Passwordを設定する

パスワードを設定することで、本機を使用するユーザーを限定することができます。システム起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないと本機を使用することができません。

パスワードの設定は、「Security」メニュー画面にあるPasswordに関する設定項目で行います。

p.172 「Securityメニュー画面」

パスワードの種類

パスワードには、次の2種類があります。

- Supervisor Password（管理者パスワード）

  コンピュータの管理者用のパスワードです。管理者パスワードでBIOSにログインした場合、BIOSのすべての項目を変更することができます。

- User Password（ユーザーパスワード）

  そのほかのユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードにBIOSにログインした際の制限を設定することができます。

  設定は、p.172 「Securityメニュー画面」−「User Access Level」で行います。

アクセス制限の設定

管理者パスワードでBIOSにログインすると、アクセス制限の種類やHDDへのアクセス制限を設定することができます。

アクセス制限の種類

アクセス制限には次の2種類があります。

- Setup
  BIOSへのアクセスを制限します。BIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力が要求されます。
- Always
  BIOS、Windowsへのアクセスを制限します。BIOS Setupユーティリティ起動時とWindows起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力が要求されます。
  アクセス制限の選択は、p.172 「Securityメニュー画面」－「Password Check」で行います。

HDDへのアクセス制限

管理者パスワードを設定すると、HDDへのアクセス制限を設定することができます。HDDへのアクセス制限を行ったHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。HDDにアクセスするには、BIOS Setupユーティリティ起動時、Windows起動時や休止状態からの復帰時にパスワードの入力が必要です。

HDDへのアクセス制限の設定は、p.172 「Securityメニュー画面」－「Hard Disk Protection」で行います。

パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定した HDD は使用できなくなります。
登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

パスワード入力時の注意

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

パスワードの設定・変更

ユーザーパスワードは、管理者パスワードを設定すると、設定できるようになります。

管理者パスワードとユーザーパスワードの設定・変更方法は、次のとおりです。

1 「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password

2 パスワードを入力し、↵ を押します。

「＊」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、↵ を押します。

Confirm New Password

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match！」というメッセージが表示されます。［Ok］が選択された状態で ↵ を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。この場合、手順1からやりなおしてください。

4 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、［Ok］が選択された状態で ↵ を押します。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。

設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOSの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。万一、パスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

管理者パスワードの削除

管理者パスワードの削除方法は、次のとおりです。
管理者パスワードを削除すると、ユーザーパスワードも削除されます。
管理者パスワードを削除する場合は、BIOS Setupユーティリティ起動時に管理者パスワードを入力してください。

1 「Change Supervisor Password」を選択して ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password

2 何も入力せずに ↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。

3 「Ok」が選択された状態で ↵ を押します。

「Supervisor Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。これでパスワードが削除されました。

ユーザーパスワードの削除

ユーザーパスワードのみの削除方法は次のとおりです。

1 「Clear User Password」を選択して、↵ を押すと、次のメッセージが表示されます。

Clear User Password?	
［Ok］	［Cancel］

2 ［Ok］を選択して、↵ を押します。

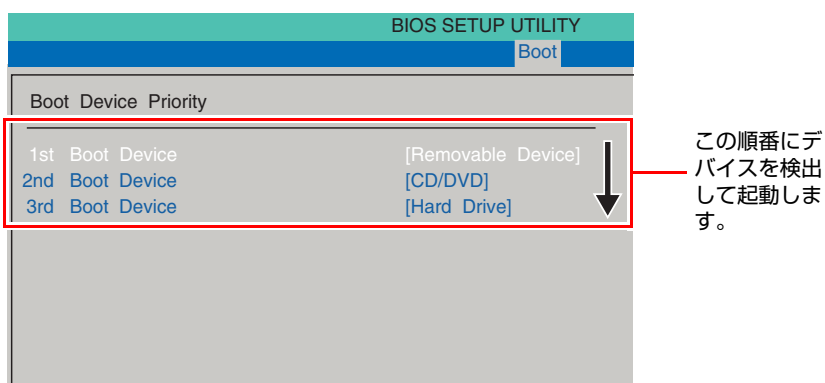
「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。
これで、ユーザーパスワードが削除されました。

4

▶起動（Boot）デバイスの順番を変更する

本機の電源を入れて起動しようとしたときに、リムーバブルディスク（USBフラッシュメモリやUSB HDDなど）を接続していたり、USB FDDにFDがセットされていると、Windowsが起動しないことがあります。
このような場合、「BIOS Setupユーティリティ」で設定されている起動（Boot）デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動（Boot）デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピュータは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム（WindowsやOS）から起動します。
起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で行います。

<イメージ>

「Boot Device Priority」に表示されるデバイスは次のとおりです。

- Removable Device（USB FDDやUSBフラッシュメモリ、USB HDDなど）
- CD/DVD（接続されている光ディスクドライブ）
- Hard Drive（接続されているHDD）
- Network（ネットワーク）
- Disabled（検出するデバイスを割り当てないときに設定します）

購入時は、Removable Deviceの順番がHDDより前に設定されているため、USB機器などのリムーバブルディスクを接続しているとHDD内のWindowsから起動できません。

起動（Boot）デバイスの順番の変更方法

起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここではリムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できるように、光ディスクドライブ、HDD、リムーバブルディスクの順番に設定する方法を説明します。

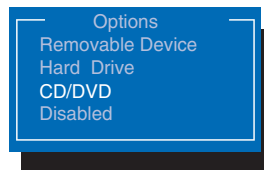
1 **「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択して［↵］を押します。**

2 **サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。**

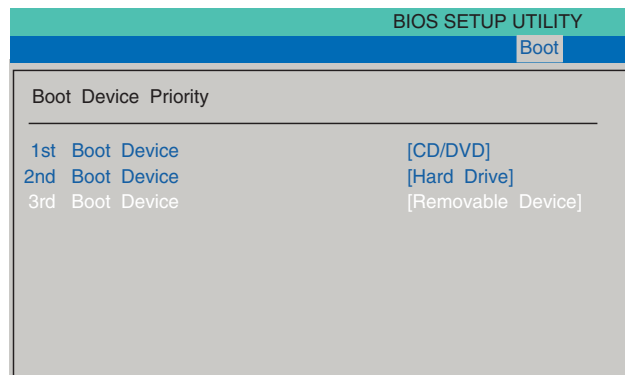
購入時は、リムーバブルディスク、光ディスクドライブ、HDDの順番に起動するように設定されています。

3 **光ディスクドライブの順番を1番目に設定します。**

(1) ［↑］［↓］で「1st Boot Device」（1番目）を選択し、［↵］を押します。
(2) 「選択」ウィンドウが表示されたら、［↑］［↓］で「CD/DVD」を選択し、［↵］を押します。

光ディスクドライブの順番が1番目になります。

<選択ウィンドウ画面>

4 **同様の方法で、HDDの順番を2番目に設定します。**

「2nd Boot Device」（2番目）を「Hard Drive」に設定します。自動的に「3rd Boot Device」（3番目）が「Removable Device」に設定されます。

起動デバイスの順番が変更になり、リムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できます。

5 **［F10］を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。**

p.163「BIOS Setupユーティリティの終了」

これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
  日付、時間などの設定を行います。
- Advancedメニュー画面
  IDE装置の仕様（転送モードやパラメータ）やタッチパッドの設定を行います。
- Securityメニュー画面
  パスワードに関する設定や、メインボード上のデバイスに関する設定を行います。
- Bootメニュー画面
  システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
- Exitメニュー画面
  BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間などの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

AMI BIOS	*Version	本機に搭載されているBIOSのバージョンを表示します。
Processor	*Type	本機に搭載されているCPUのタイプを自動的に表示します。
	*Speed	本機に搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
System Memory	*Size	メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。
System Time		時刻を設定します。（時：分：秒）の順で表示されています。
System Date		日付を設定します。（曜日月/日/年）の順で表示されています。

▶Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、IDE装置の仕様（転送モードやパラメータ）やタッチパッドの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

IDE Configuration IDE装置の設定を表示します。	Primary IDE Master/ Primary IDE Slave/ Third IDE Master/ Third IDE Slave	接続しているIDE装置について、以下の項目をサブメニューに表示します。 表示される項目はIDE装置によって異なります。
	*Device	IDE装置の機器の名称を表示します。
	*Vendor	IDE装置の型番を表示します。
	*Size	HDDの容量を表示します。
	*LBA Mode	LBA（Logical Block Addressing）をサポートしているかどうかを表示します。
	*Block Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	*PIO Mode	IDE 装置の転送モードを表示します。
	*Async DMA	IDE 装置のDMA転送モードとチャンネルを表示します。
	*Ultra DMA	Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	*S.M.A.R.T.	S.M.A.R.T.（Self Monitoring Analysis and Reporting Technology）をサポートしているかどうかを表示します。
Internal Pointing Device		本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 Enabled：タッチパッドを使用します。 Disabled：タッチパッドを使用しません。
Exchange Fn & L-Ctrl key		キーボードの左下側にある Fn と、その隣にある Ctrl の機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Disabled：Fn と Ctrl の機能を入れ替えません。 Enabled：Fn と Ctrl の機能を入れ替えます。
Exchange R-Alt & Win App key		キーボードの右下側にある Alt と、その隣にある （アプリケーションキー）の機能を入れ替えるかどうかを設定します。 Disabled：Alt と の機能を入れ替えません。 Enabled：Alt と の機能を入れ替えます。

Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、パスワードに関する設定や、メインボード上のデバイスに関する設定を行います。パスワードの設定方法は、p.164 「Passwordを設定する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

<u>　　</u>は初期値
＊は項目表示のみ

*Supervisor Password/User Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）とUser Password（ユーザーパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 <u>Not Installed</u>：パスワードが設定されていません。 Installed　：パスワードが設定されています。
Change Supervisor Password	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定します。BIOS SetupユーティリティやWindows起動時にパスワード入力を要求します。 【↵】を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
User Access Level	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示され、設定可能になります。「User Password」（ユーザーパスワード）を入力したユーザーがBIOS Setupユーティリティにアクセスすることを4段階で制限します。 No Access ：BIOS Setupユーティリティを起動することができません。 View Only ：BIOS Setupユーティリティを閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited ：BIOS Setupユーティリティを閲覧できるほかに、一部の設定項目を変更できます。 <u>Full Access</u>：管理者と同一の権利を許可します。BIOSセットアップユーティリティのすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。
Change User Password	「User Password」（ユーザーパスワード）を設定します。「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。BIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。 【↵】を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Clear User Password	ユーザーパスワードを削除します。 「User Password」（ユーザーパスワード）を設定すると表示されます。 【↵】を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。
Password Check	「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示され、設定可能になります。パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 <u>Setup</u> ：BIOS Setupユーティリティ起動時にパスワード入力を要求します。 Always：BIOS SetupユーティリティやWindows起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。

項目		説明
Boot Sector Virus Protection		「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。HDDのブートセクタ（システム領域）への書き込みを禁止するかどうかを設定します。 Disabled : 書き込みを許可します。 Enabled : 書き込みを禁止します。
TPM Security		セキュリティチップ（TPM）を使用するかどうかを設定します。 Disabled : セキュリティチップを使用しません。 Enabled : セキュリティチップを使用します。
TPM Security Clear		「TPM Security」を「Enabled」に設定すると表示されます。セキュリティチップ（TPM）の設定を初期化（消去）します。 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用することができなくなります。セキュリティチップの初期化は、十分に注意し、お客様の責任において行ってください。 ↵を押すと初期化確認ウィンドウが表示されます。
I/O Interface Security データの盗難を防ぐために、インタフェースの有効、無効を設定します。 「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。	AUDIO	サウンド機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED：サウンド機能の使用を可能にします。 LOCKED　：サウンド機能の使用を不可にします。
	LAN	ネットワーク（有線LAN）機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED：LAN 機能の使用を可能にします。 LOCKED　：LAN 機能の使用を不可にします。
	Wireless LAN	無線LAN機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED：無線LAN機能の使用を可能にします。 LOCKED　：無線LAN機能の使用を不可にします。
	Optical Disk Drive	光ディスクドライブ機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED：光ディスクドライブ機能の使用を可能にします。 LOCKED　：光ディスクドライブ機能の使用を不可にします。
	PC Card/SD/MS MMC/IEEE 1394	PC カード/メモリカード/IEEE1394機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED：PC カード/メモリカード/IEEE1394機能の使用を可能にします。 LOCKED　：PC カード/メモリカード/IEEE1394 機能の使用を不可にします。
	USB	USB 機能の使用を可能にするかどうかを設定します。 UNLOCKED：USB機能の使用を可能にします。 LOCKED　：USB機能の使用を不可にします。
Hard Disk Protection		「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると設定可能になります。HDDへのアクセス制限の設定をします。アクセス制限を行ったHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。 HDDにアクセスするには、BIOS Setupユーティリティ起動時、システム起動時や休止状態からの復帰時にパスワードの入力が必要です。 Disabled ：HDDへのアクセスを制限しません。 Enabled ：HDDへのアクセスを制限します。

▶Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
起動の順番の変更方法については、p.168 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
＊は項目表示のみ

Boot Device Priority Windowsを起動するドライブの順番を設定します。	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「Removable Device」です。
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「CD/DVD」です。
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値は、「Hard Drive」です。
	4th Boot Device	ネットワークから起動する場合に使用します。「Boot」メニュー画面－「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定してから「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してBIOSを終了します。再度BIOSを起動すると表示されます。初期設定は「Realtek Boot Agent」です。
Onboard LAN Boot ROM		リモートブートを行う場合は「Enabled」に設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled ：有効にします。
Wake-Up On LAN （LANからの起動設定）		電源切断時やスタンバイ、休止時において、ネットワークからの信号により起動するかどうかを設定します。この機能を使用するときは、必ずACアダプタを接続してください。また、電源切断状態からの復帰は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled ：設定しません。 Enabled ：設定します。

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。
設定項目は、次のとおりです。

Save Changes and Exit	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes and Exit	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Optimal Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

BIOS Setupユーティリティの設定値

BIOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定	変更内容
Internal Pointing Device	Disabled　Enabled	Disabled　Enabled
Exchange Fn & L-Ctrl key	Disabled　Enabled	Disabled　Enabled
Exchange R-Alt & Win App key	Disabled　Enabled	Disabled　Enabled

Security メニュー画面

項目		購入時の設定	変更内容
*User Access Level		No Access　View Only Limited　Full Access	No Access　View Only Limited　Full Access
*Password Check		Setup　Always	Setup　Always
*Boot Sector Virus Protection		Disabled　Enabled	Disabled　Enabled
TPM Security		Disabled　Enabled	Disabled　Enabled
*I/O Interface Security	AUDIO	UNLOCKED　LOCKED	UNLOCKED　LOCKED
	LAN	UNLOCKED　LOCKED	UNLOCKED　LOCKED
	Wireless LAN	UNLOCKED　LOCKED	UNLOCKED　LOCKED
	Optical Disk Drive	UNLOCKED　LOCKED	UNLOCKED　LOCKED
	PC Card/SD/MS MMC/IEEE 1394	UNLOCKED　LOCKED	UNLOCKED　LOCKED
	USB	UNLOCKED　LOCKED	UNLOCKED　LOCKED
*Hard Disk Protection		Disabled　Enabled	Disabled　Enabled

*「Supervisor Password」（管理者パスワード）を設定すると表示されます。

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定	変更内容
Boot Device Priority	1st Boot Device		
	2nd Boot Device		
	3rd Boot Device		
	4th Boot Device		
Onboard LAN Boot ROM		Disabled　Enabled	Disabled　Enabled
Wake-Up On LAN		Disabled　Enabled	Disabled　Enabled

第5章
ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

「再インストールする前に必ずお読みください」...... 178
「ソフトウェアの再インストールを行う」...... 179

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。
HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。
再インストールは「リカバリ」とも言います。

再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復しても問題が解決できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

Windowsを修復する

なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合は、再インストールを行う前に「Windows回復環境」でWindowsの修復を行ってみてください。再インストールしなくても、問題が解決する場合があります。

p.221 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSへのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

ソフトウェアの再インストールを行う

ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

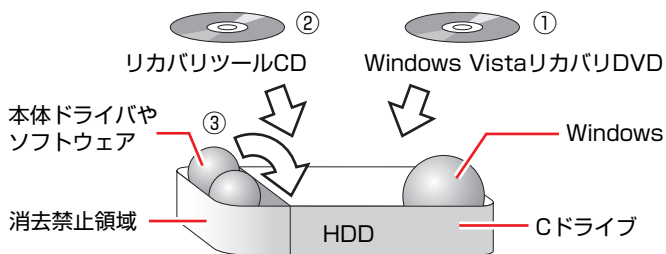
必要なメディア

再インストールには、次のメディアが必要です。

- **Windows VistaリカバリDVD**
  Windows Vistaが収録されているDVD-ROMです。
- **リカバリツールCD**
  本体ドライバやソフトウェアを、HDDの「消去禁止領域」からインストールするためのプログラムが収録されているCD-ROMです。
- **そのほか必要なメディア**
  お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

本体ドライバやソフトウェアはHDDの消去禁止領域に収録されています。
専用のメディアは添付されていません。
p.26 「添付されているソフトウェア」

再インストールの概要

ソフトウェアの再インストールの概要は、次のとおりです。

① Windows VistaリカバリDVDから、Windowsをインストールします。

② リカバリツールCDから、リカバリツールをインストールします。
HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストールは、リカバリツールを使用して行います。

③ リカバリツールを使用して、本体ドライバやソフトウェアをインストールします。

▶インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。
★印が付いたソフトウェアは必ずインストールを行ってください。
購入時のインストール状態は、p.26 「添付されているソフトウェア」で確認してください。

Windows ★
p.182 「Windowsのインストール」

⬇

リカバリツール ★
p.186 「リカバリツールのインストール」

⬇

本体ドライバ ★
p.186 「本体ドライバのインストール」

⬇

Adobe Reader ★
p.188 「Adobe Readerのインストール」

⬇

セキュリティソフトウェア ★
『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）

⬇

マニュアルびゅーわ ★
p.189 「マニュアルびゅーわのインストール」

⬇

Nero 7 Essentials ★
（書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ）
p.190 「Nero 7 Essentialsのインストール」

⬇

Win DVD ★
（DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ）
p.190 「WinDVDのインストール」

⬇

JWord Plugin
p.191 「JWord Pluginのインストール」

⬇

goo スティック
p.191 「gooスティックのインストール」

そのほかのインストール
p.191 「そのほかのインストール」

再インストール後の作業
p.192 「再インストール後の作業」

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点を確認してください。

インストール全般

インストール作業は、ACアダプタを接続して行ってください。

管理者（Administrator）のアカウントでログオン

インストール作業は、管理者（Administrator）のアカウントでログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
光ディスクドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ　：USB FDD（オプション）
Cドライブ　：HDD
Dドライブ　：光ディスクドライブ

各種設定やデータのバックアップ

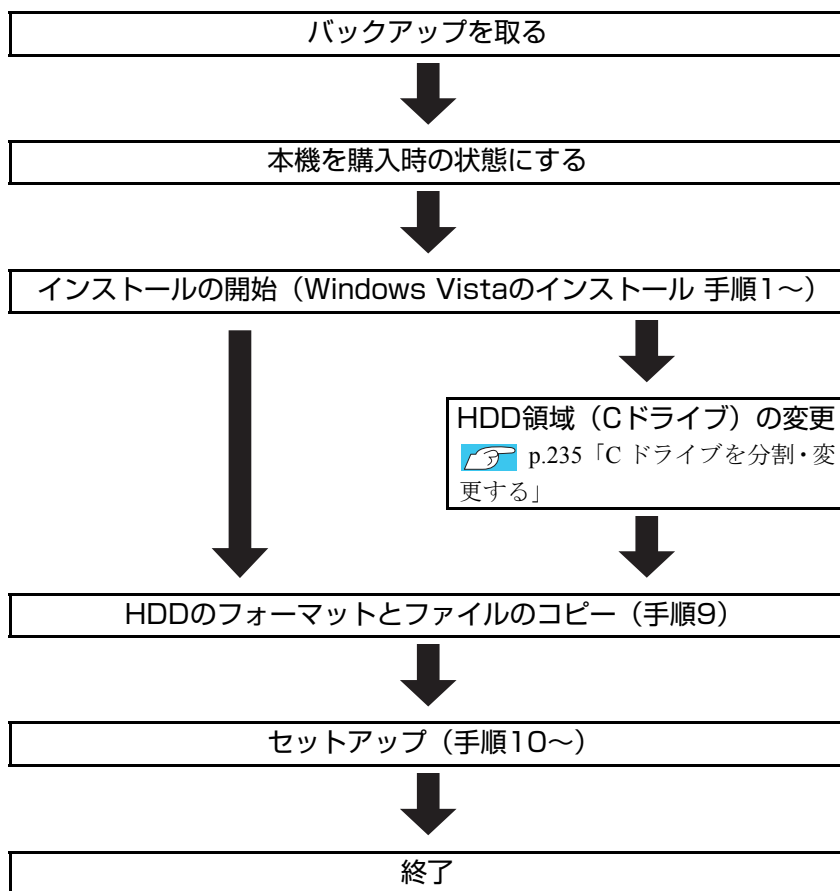
再インストールを行うと、設定した事項が初期値に戻ってしまったり、データが消去されたりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。

p.183 「バックアップを取る」

5

Windowsのインストール

インストールの流れ

Windowsのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、p.183 「Windows Vistaをインストールする」以降の手順に従って行ってください。

HDD領域（Cドライブ）を変更するには

Windowsのインストール中にCドライブ（Windowsがインストールされている領域）のサイズを変更したり、分割したりすることができます。
HDD領域の変更や、分割の詳しい説明は、p.232 「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」をご覧ください。

Windows Vistaをインストールする

バックアップを取る

次の設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消去されます。
必要に応じてバックアップを行ってください。

- **ネットワークの設定**
  接続に関する設定を書き写しておいてください。
- **Internet Explorerの「お気に入り」、Windowsメールの「連絡先」「メールデータ」**
  p.227「データのバックアップ」
  このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- **セキュリティチップユーティリティの設定**
  セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。
  『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）－「Windowsを再インストールする前に」
- **重要なデータ**
  ほかのメディアなどにコピーしておいてください。
  HDD領域の変更を行わない場合でも、Cドライブ以外のドライブ（HDD領域）のデータをバックアップすることをおすすめします。
  詳しいバックアップの方法はp.227「データのバックアップ」をご覧ください。

コンピュータを購入時の状態にする

マウスなどの周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

Windows Vistaのインストール

Windows Vistaのインストール手順は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を入れ、Windowsが起動したら、「Windows VistaリカバリDVD」を光ディスクドライブにセットします。**

「自動再生」画面が表示されたら、［×］をクリックし、画面を閉じてください。
ここからはインストールを行いません。

2 **「スタート」－［▶］－「再起動」をクリックして、コンピュータを再起動します。**

5

3 **「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。**

一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindows Vistaが起動してしまいます。Windows Vistaが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。

4 **「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ]をクリックします。**

ここでHDD内のWindowsのチェックが行われます。Windowsの修復を促す画面が表示された場合は、画面の指示に従って修復を行ってください。

5 **「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で[次へ]をクリックします。**

6 **「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「Windowsの再インストール」をクリックします。**

7 **「Windowsの再インストールを行います。」と表示されたら、[再インストール]をクリックします。**

8 **「ライセンス条項をお読みください。」と表示されたら、内容を確認し、「条項に同意します」にチェックを付けて、[次へ]をクリックします。**

9 **「Windowsのインストール場所を選択してください。」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。**

＜領域変更を行わない場合（通常）＞

(1) 「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。
(2) 「ディスク0パーティション2」（C ドライブ）が選択された状態で「フォーマット」をクリックします。
(3) 「このパーティションをフォーマットすると…」と表示されたら、[OK]をクリックします。
フォーマットが開始されます。
(4) フォーマットが終了すると、[次へ]がクリックできる状態になります。
「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で[次へ]をクリックします。
Windows Vistaのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分～40分かかります。手順10の画面が表示されるまでキーボードやタッチパッドは操作しないでください。

＜領域変更を行う場合＞

p.235 「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。

10 **「ユーザー名と画像の選択」と表示されたら、ユーザー名、パスワード（任意）を入力し、画像一覧からお好みの画像をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。**

p.42 「ユーザー名と画像の選択」

11 **「コンピュータ名を入力して、デスクトップの背景を選択してください。」と表示されたら、コンピュータ名を入力し、背景一覧からお好みの背景をクリックして選択し、[次へ] をクリックします。**

p.42 「コンピュータ名を入力してデスクトップの背景を選択してください」

12 **「Windowsを自動的に保護するよう設定してください」と表示されたら、保護の設定をクリックして選択します。**

「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

13 **「時刻と日付の設定の確認」と表示されたら、「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定し、[次へ]をクリックします。**

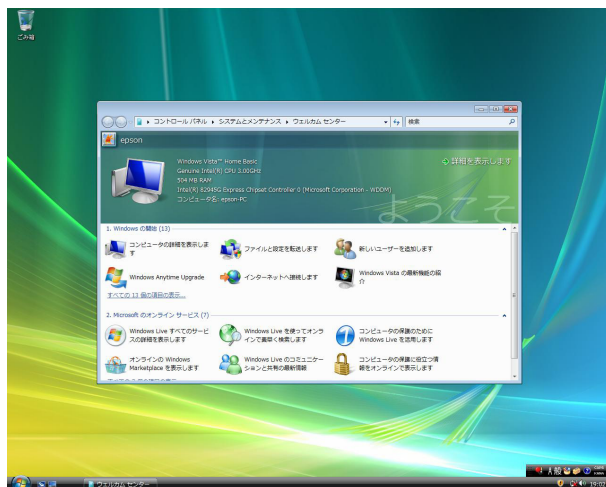
14 **ネットワークに接続している場合、「お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください」と表示されます。場所をクリックして選択します。**

15 **「ありがとうございます」と表示されたら、[開始] をクリックします。**

設定が行われます。設定には約5分かかります。

16 **手順 10 でパスワードを設定した場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力して、[Enter] を押します。**

17 **Windows Vistaのデスクトップ（下記の画面）が表示されたら、「Windows Vista リカバリDVD」を取り出します。**

デスクトップの背景は、手順11で選択した背景が表示されます。

これでWindows Vistaのインストールは完了です。

18 **手順９で領域変更を行った場合は、「未割り当ての領域」に領域（パーティション）を作成します。**

領域（パーティション）の作成は、ドライバやソフトウェアのインストールが終了してから行ってもかまいません。

p.236「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

リカバリツールのインストール

リカバリツールは、HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストールの際に使用します。
リカバリツールのインストールは、次の手順で行います。

1 **「リカバリツールCD」を光ディスクドライブにセットします。**

2 **「自動再生」画面が表示されたら、「setup.exeの実行」をダブルクリックします。**

「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] ー「コンピュータ」ー「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**

4 **以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**

インストールが完了すると、デスクトップ上に「リカバリツール」アイコンが表示されます。

5 **「リカバリツールCD」を光ディスクドライブから取り出します。**

本体ドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載されているデバイスのドライバ類を、一括してインストールします。
本体ドライバのインストールでインストールするドライバ類は次のとおりです。

- ビデオドライバ
- サウンドドライバ
- タッチパッドドライバ
- メモリカードドライバ
- インスタントキードライバ
- インスタントキーユーティリティ
- ネットワークドライバ
- インフォメーションメニュー
- 無線LANドライバ（無線LAN搭載時のみ）

上記以外のデバイスは、Windows標準ドライバで動作します。
Windows標準ドライバとは、Windowsをインストールすると自動的にインストールされるドライバです。

インストール

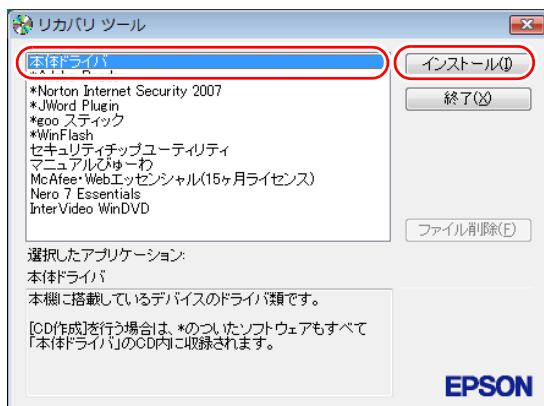
インストール手順は次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**

3 **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**

4 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「本体ドライバ」を選択して［インストール］をクリックします。**

手順5の画面が表示されるまでには、数分かかります。

<イメージ>

5 **「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から［インストール］をクリックします。**

6 **「インストール確認」画面が表示されます。内容をよくお読みになり［OK］をクリックします。**

各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには、約10分かかります。

7 **「これらの変更を・・・コンピュータを再起動する必要があります。」と表示された場合は、［後で再起動する］をクリックします。**

8 **「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。**

9 **「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバのインストール状態を確認して［PC再起動］をクリックします。**

ドライバによっては、Windowsの再起動後に自動的にインストールされます。Windowsが再起動したら、本体ドライバのインストールは完了です。

5

リカバリツールの［ファイル削除］の表示について

リカバリツールからインストールを行う際、ソフトウェアによっては一時的にHDDにインストール用データをコピーします。「リカバリツール」画面で［ファイル削除］が黒字で表示されるときは、コピーされた不要なインストール用データがHDDに残っています。［ファイル削除］をクリックしてデータを削除すると、HDDの容量を節約することができます。

▶Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

Adobe Readerのインストール手順は、次のとおりです。

1 **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

3 **「リカバリツール」画面が表示されたら、［インストール］をクリックします。**

4 **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Adobe Reader」を選択して［インストール］をクリックします。**

「このファイルを実行しますか？」と表示された場合は、［実行］をクリックします。

5 **「Adobe Reader…セットアップ」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。**

6 **「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、［インストール］をクリックします。**

インストールにはしばらく時間がかかります。

7 **「セットアップ完了」と表示されたら、［完了］をクリックします。**

8 **「使用許諾契約書」と表示されたら、「・・・言語を選択してください。」が「日本語」になっていることを確認します。**

9 **「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。**

同意する場合は、［同意する］をクリックします。［同意しない］を選択すると、「Adobe Reader」は使用できません。

10 **「Adobe Reader操作ガイド」画面が表示されます。**

内容を確認してください。

これで、「Adobe Reader」のインストールは完了です。

セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。
市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

マニュアルびゅーわのインストール

本機に添付されているマニュアルやお知らせを見るためのソフトウェアです。
「マニュアルびゅーわ」のインストール手順は次のとおりです。

1. **デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。**
2. **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**
3. **「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。**
4. **本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「マニュアルびゅーわ」を選択して［インストール］をクリックします。**
5. **「マニュアルびゅーわセットアップへようこそ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
6. **「インストール準備の完了」と表示されたら、[インストール] をクリックします。**
7. **「InstallShield Wizardの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。**
   これでマニュアルびゅーわのインストールは完了です。

▶Nero 7 Essentialsのインストール

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>
光ディスクドライブで書き込みを行うためのソフトウェアです。Nero 7 Essentialsをインストールすると、InCDもインストールされます。
Nero 7 Essentialsのインストール手順は次のとおりです。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Nero 7 Essentials」を選択して［インストール］をクリックします。

5 「Neroマルチインストーラ」画面が表示されたら、[Nero 7 Essentials] をクリックします。

6 「・・・インストールウィザードへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶WinDVDのインストール

<DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時>
DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。
WinDVDのインストール手順は次のとおりです。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。

4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「InterVideo WinDVD」を選択して［インストール］をクリックします。

5 「WinDVDをインストールする前に・・・」と表示されたら、[OK] をクリックします。

6 「WinDVD セットアップへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶JWord Pluginのインストール

Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。
JWord Pluginのインストール手順は次のとおりです。

1. デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
3. 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
4. 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「JWord Plugin」を選択して［インストール］をクリックします。
5. 「JWordプラグイン…へようこそ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶gooスティックのインストール

Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。
gooスティックのインストール手順は次のとおりです。

1. デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
3. 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
4. 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「gooスティック」を選択して［インストール］をクリックします。
5. 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
   これで、gooスティックのインストールは完了です。

▶そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

セキュリティチップユーティリティのインストール

セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）を使用していた場合は、セキュリティチップユーティリティをインストールします。詳しくは、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）をご覧ください。

5

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、ソフトウェアなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類に添付のマニュアルをご覧ください。

インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合：USB機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合　　：プリンタに添付のドライバ

そのほかのソフトウェアのインストール

そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法はソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域はそのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。

p.237「HDD領域（パーティション）の作成手順」

ネットワークの設定

ネットワーク（有線LAN）や無線LAN（無線LAN搭載時のみ）を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。

p.115「ネットワーク（有線LAN）を使う」
p.117「無線LANを使う（オプション）」

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

p.227「データのバックアップ」

- **Internet Explorer、Windowsメールの設定の復元**
- **重要なデータ**

  バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

第6章
こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

「トラブルが発生したら」 194
「困ったときに」 195
「システム診断ツールを使う」 218
「トラブル時に役立つ機能」 219
「警告メッセージ/警告音」 224

トラブルが発生したら

本機をご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法を確認してください。

● 困ったときに

トラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。

 p.195「困ったときに」

● とらぶる解決ナビ

当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。

サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』（別冊）には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。
困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。

不具合が解消しない場合は
対処を行っても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

不具合一覧

コンピュータ本体（起動時）.................. p.196

- 起動 p.196
- そのほか p.202

コンピュータ本体 p.203

- 省電力機能 p.203
- バッテリパック p.204
- セキュリティチップ（TPM） p.204
- そのほか p.205

メモリ p.206

- メモリ p.206

記憶装置 p.207

- HDD p.207
- 光ディスクドライブ p.208
- PCカード p.210
- メモリカード p.211

入力装置 p.211

- キーボード p.211
- タッチパッド p.212

表示装置 p.213

- LCDユニット p.213

サウンド p.214

- 内蔵スピーカ p.214

ソフトウェア p.214

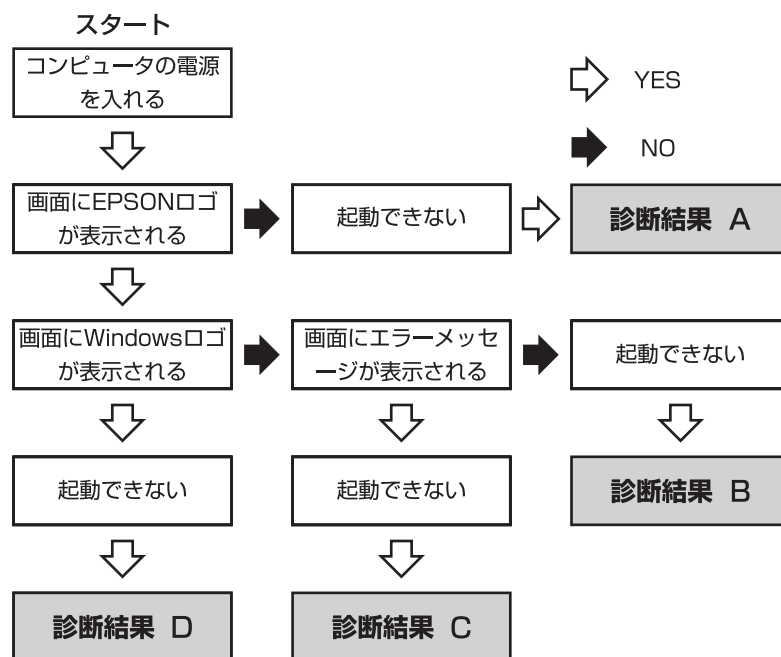
- ソフトウェア p.214
- インストール p.217

ネットワーク、インターネット p.217

▶コンピュータ本体の不具合（起動時）

コンピュータ本体の不具合に対する対処方法を説明します。

起動時の不具合

シャットダウン状態からコンピュータが起動できない場合は、次の診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってみてください。

診断結果　A

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 外付けディスプレイの電源を入れる

外付けディスプレイを接続している場合は、外付けディスプレイの電源を入れ、画面が表示されるか確認してください。

(2) コンピュータへの電源供給を確認する

コンピュータへの電源供給に問題がある可能性があります。本機の電源を切ってから、コンピュータとACアダプタ、電源コードを接続しなおし、再度電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
バッテリパックのみで使用している場合は、完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続してみてください。

p.37「ACアダプタを接続する」

(3) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(4) 電源保護回路を解除する

過電流によってコンピュータが不安定になっている可能性があります。周辺機器/増設機器類（マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

診断結果　B

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.219 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。

p.219 「システムの復元」

(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認してください。

前回起動時の構成で起動する手順は次のとおりです。

1. シャットダウン状態からコンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され消えた直後に F8 を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
   キーを押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。
3. 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、↑ または ↓ を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、↵ を押します。

6

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

p.163 「Load Optimal Defaults（初期値に戻す）」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.177 「ソフトウェアの再インストール」

診断結果　C

まず、p.224 「警告メッセージ/警告音」をご覧になり、メッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、下記をご覧になり、対処を行ってください。

●「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

(1) カスタマーサービスセンターへ連絡する

HDDに問題がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターへご連絡ください。

●「DISK BOOT FAILURE」、「Invalid system disk」、「Missing Operating System」、「Operating System Not Found」、「Reboot and Select proper Boot device…」などのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す

接続しているUSB FDDにFDがセットされていたり、USB 接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB 機器からOS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB 機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDDの優先順位をFDDやUSB機器よりも前に設定しておくことで、FDD やUSB 機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

p.168 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

(2) しばらく放置する

急激な温度変化があった場合は、HDDの表面が結露している可能性があります。乾くまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れてみてください。

(3) HDDの認識と接続を確認する

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. **BIOS Setupユーティリティを起動します。**

p.159 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2. **「Advanced」メニュー画面の「IDE Configuration」で「Third IDE Master」の表示を確認します。**

「Hard Disk」と表示される場合、HDDは正常な状態です。続けて、下記（4）（5）の作業を行ってみてください。

「Not Detected」、「None」などと表示される場合は、HDDが正常に認識されていません。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」へご連絡ください。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

p.163 「Load Optimal Defaults（初期値に戻す）」

(5) Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.177 「ソフトウェアの再インストール」

6

● そのほかのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FDやUSBフラッシュメモリを取り外す

接続しているUSB FDDにFDがセットされていたり、USB接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB機器からOSを読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDDの優先順位をFDDやUSB機器よりも前に設定しておくことで、FDDやUSB機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

p.168 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

(2) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後にプリンタやスキャナ、メモリなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(3) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

p.163 「Load Optimal Defaults（初期値に戻す）」

(4) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.177 「ソフトウェアの再インストール」

診断結果　D

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

p.219 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。
常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

1. [スタート] －「検索ボックス」に「msconfig」と入力して、[Enter]を押します。
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目のチェックを外し、[OK] をクリックします。
4. 「再起動が必要な場合があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。

   常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

p.219 「システムの復元」

(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認してください。

1. シャットダウン状態からコンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に F8 を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
   キーを押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。
3. 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、↑ または ↓ を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、↵ を押します。

(4) Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

p.177 「ソフトウェアの再インストール」

起動時の不具合（そのほか）

現象

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

Enter Password:

Hard Drive Locked, enter password:

確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」の「Security」メニュー画面でパスワードを設定してあります。正しいパスワードを入力してください。
  p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- パスワードを正しく入力しているか確認してください。NumLkの状態により一部のキーが数値キーとして働きます。
  p.69 「キーボードを使う」

- パスワードを忘れてしまった場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

現象

Windowsが起動せず、「システム回復オプション」画面が表示された。

確認と対処

- Windowsに不具合が起きると、HDD内に設定されている「Windows回復環境（Windows RE）」が自動的に起動します。「システム回復オプション」画面はWindows REの画面です。Windows REの機能を使用して、不具合を修復してください。Windows REの概要は、p.221 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」をご覧ください。

▶コンピュータ本体の不具合

省電力機能に関する不具合

現象

正しく省電力状態に移行できない。または省電力状態から復帰できない。

確認と対処

- 使用しているソフトウェアや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。ソフトウェアの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

- バッテリ残量が少なくなり、本機が省電力状態になった場合は、AC アダプタを接続してから復帰させてみてください。

- 省電力状態から復帰できない場合は、Ctrl+Alt+Delete を押して本機を再起動してください。ただし、省電力状態に移行する前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

- 省電力状態で PC カードやメモリカード、USB 機器などを抜き差しすると、正しく復帰できません。Ctrl+Alt+Delete を押して、本機を再起動してください。ただし、省電力状態に移行する前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

- 周辺機器の状態が変わると、省電力状態から復帰できないことがあります。周辺機器を省電力状態に入る前と同じ状態にしてみてください。

6

バッテリパック使用時の不具合

現象

充電されない。

確認と対処

- バッテリパックが正しく装着されているか確認してください。

- 充電時にバッテリ充電ランプが点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、電源コンセントに電源が供給されているか確認してください。ほかの電気製品を電源コンセントに接続してください。

現象

すぐにバッテリが終わってしまう。バッテリでの使用可能時間が短い。

確認と対処

- バッテリが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリと交換してください。なお、使用済みのバッテリは、所定の方法でリサイクルしてください。
  p.63 「バッテリの交換」
  p.65 「使用済みバッテリの取り扱い」

セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）の不具合

現象

セキュリティチップの情報を初期化して、購入時の状態に戻したい。

確認と対処

- セキュリティチップの情報の初期化は、「BIOSセットアップユーティリティ」の次の項目で行います。
  「Security」メニュー画面ー「TPM Security Clear」で［↵］を押します。表示されたセキュリティチップ設定の初期化ウィンドウで「Ok」を選択し、「Exit」メニュー画面ー「Save Changes and Exit」を選択してBIOSを終了します。
  p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用することができなくなります。また、Windows VistaのHDD暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windowsが起動できなくなり、暗号化していたHDD内のデータも使用できなくなります（BitLockerは、Windows Vista UltimateおよびWindows Vista Enterpriseの機能です）。
  セキュリティチップの初期化を行う場合は、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）を参照し、お客様の責任において十分に注意して行ってください。

そのほかの不具合

現象

ハングアップしてしまい、何も反応しない。

確認と対処

- 応答のないソフトウェアをタスクマネージャで終了させます。
  ソフトウェアを終了させることができない場合には、5秒以上電源スイッチを押して電源を切ってください。
  p.55 「ハングアップしたときは」

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

- 本機内部のリチウム電池の残量が少なくなり、BIOSのデータを保持できなくなっている可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

現象

BitLockerでドライブを暗号化した状態でBIOSのアップデートやBootの順番の変更を行ったところ、BitLockerのパスワード入力やパスワードを保存してあるUSBフラッシュの挿入を求められた。
（BitLockerは、Windows Vista UltimateおよびWindows Vista Enterpriseの機能です。）

確認と対処

- パスワードを入力するか、パスワードを保存してあるUSBフラッシュを挿入してください。BIOSのアップデートやBootの順番の変更を行うときは、BitLockerのドライブ暗号化を解除した状態で行ってください。

現象

終了処理をしても電源が切れない。

確認と対処

- Windows Vistaでは、[スタート] ー [⏻] を押すと、本機は「スリープ状態」になります。電源を切りたい場合は、[スタート] ー [▶] ー「シャットダウン」で電源を切ってください。

- 正しい処理を行っても電源が切れない場合は、5 秒以上電源スイッチを長押ししてみてください。

▶メモリの不具合

メモリの不具合に対する対処方法を説明します。

メモリの不具合

現象

メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処

- Windows上ではメモリ容量が正しく表示されないことがあります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行し、「Main」メニュー画面ー「System Memory」でメモリ容量を確認してください。
  p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。装着している総メモリ容量から、ビデオメモリで使用するメモリ容量を差し引いて表示されます。
  ビデオ容量はメインメモリの容量によって自動的に調整され、64MBまたは128MBになります。

▶記憶装置の不具合

記憶装置の不具合に対する対処方法を説明します。

HDDの不具合

現象

HDD容量がWindows上で、マニュアルに記載されている容量と異なって表示される。

確認と対処

- 本機に搭載されているHDD容量をWindows上で確認すると、マニュアルに記載されているHDD容量より少なく表示されます。
これは、Windows上では容量を計算や表示する場合に「2進法」（0と1の2つの数字を用いる表記法）を使用しているのに対して、マニュアルではHDDなどの仕様を表記する際に用いられている「10進法」（0〜9の数字を用いる表記法）を使用していることによる違いです。
2進法で表記した1KB（キロバイト）は「1024Byte」になるのに対し、10進法で表記した場合には「1000Byte」となります。そのため、WindowsなどのOS上で表示されるHDD容量は、マニュアルに記載されている容量よりも少なく表示されます。

現象

HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処

- BIOSの「Boot」メニュー画面で起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。
p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」

現象

Windowsの再インストールをしたら、HDDの空き容量が大幅に減ってしまった。

確認と対処

- p.183 「Windows Vistaのインストール」手順9で、Cドライブのフォーマットを行わずにWindowsのインストールをしてしまうと、以前のWindowsのデータがWindows.oldフォルダに保存されるため、HDDの空き容量が大幅に減ってしまいます。Windows.oldフォルダが不要な場合は、削除してください。
Windows.oldフォルダは［スタート］－「コンピュータ」－「Cドライブ」にあります。
通常は、手順どおりにCドライブをフォーマットしてからWindowsのインストールをしてください。

光ディスクドライブの不具合

現象

オーディオCDやDVD VIDEO再生時に、音声が出力されない。

確認と対処

- スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。音量を調節してください。

p.111 「音量の調節」

現象

セットしたメディアにアクセスできない。

確認と対処

- メディアが正しくセットされているか確認してください。
- メディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- メディアの表面にキズなどがないか確認してください。
- 別のメディアにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。
- セットしたメディアが、書き込み済みの場合、光ディスクドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

セットしたメディアが取り出せない。

確認と対処

- コンピュータの電源が入っているか、確認してください。

現象

書き込み機能のある光ディスクドライブで、メディアに書き込みができない。またはエラーが発生する。

確認と対処

- メディアへの書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。購入時には、Nero 7 Essentialsがインストールされています。

● メディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合については、『Neroユーザーガイド』をご覧ください。
「マニュアルびゅーわ」－『Neroユーザーガイド』

● お使いの光ディスクドライブ対応のメディアを使用しているかどうか確認してください。
「マニュアルびゅーわ」－『光ディスクドライブPDFマニュアル』

● メディアへの書き込みをドラッグアンドドロップで行うには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。フォーマット方法の詳細は、「マニュアルびゅーわ」に収録されている『InCDユーザーマニュアル』を参照してください。
p.45 「インフォメーションメニューを使う」
「マニュアルびゅーわ」－『InCDユーザーマニュアル』

● InCD でデータの書き込みをドラッグアンドドロップで行えるメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。対応メディアは「マニュアルびゅーわ」に収録されている『InCDユーザーマニュアル』を参照してください。
p.45 「インフォメーションメニューを使う」
「マニュアルびゅーわ」－『InCDユーザーマニュアル』

● InCDでフォーマットしたメディアは、Nero 7 Essentialsでの書き込みができません。Nero 7 Essentialsで「ディスクの消去」を行ってください。
p.84 「Nero 7 Essentialsの使い方」

● Windowsが省電力状態になると、書き込み可能なメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力状態に移行しないようにしてください。
p.142 「省電力状態に移行する方法」

● メディアが正しくセットされているかどうか、確認してください。

● メディアの表面に汚れやキズなどがないか、確認してください。

● メディアに書き込み可能な残量があるか確認してください。

● ヘッドレンズの汚れによって書き込みができない場合があります。

● 光ディスクドライブとの相性によって、セットしたメディアに書き込めない場合があります。

現象

DVD VIDEOの再生ができない。

確認と対処

- DVD VIDEOを再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。購入時にはWinDVDがインストールされています。

- DVD VIDEOの再生に関する不具合は、WinDVDのヘルプを参照してください。

- 外付けディスプレイを接続して、クローンモードでの表示をしていると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEOの再生が中断されます。このような場合は、クローンモードでの表示を無効にしてください。
  p.106 「モードを切り替えるには」

PCカードの不具合

現象

PCカードを装着しても、使用できない。

確認と対処

- 本機で使用可能なPCカードかどうか確認してください。
  p.88 「PCカードを使う」

- PCカードスロットにカードが正しく装着され、認識されているか確認してください。
  p.88 「PCカードを使う」

- PC カードを使用するために必要なドライバやソフトウェアがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

- 外部機器を追加するためにPCカードを装着した場合、外部機器とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

メモリカードの不具合

現象

メモリカードを装着しても使用できない。

確認と対処

- 本機で使用可能なメモリカードかどうか、メモリカードがスロットの仕様に対応しているか確認してください。
  p.93 「本機で使用できるメモリカード」

- メモリカードスロットにカードが正しく装着され、認識されているか確認してください。
  p.94 「メモリカードのセットと取り外し」

入力装置の不具合

入力装置の不具合に対する対処方法を説明します。

キーボードの不具合

現象

どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

- タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。

- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

- ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。このような場合には、タスクマネージャでソフトウェアを終了してください。
  p.55 「ソフトウェアの強制終了」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。日本語入力モードに切り替えてください。
  p.70 「文字を入力するには」

現象

Fn と Ctrl、Alt と ▤（アプリケーションキー）などの機能キーが動作しない。

確認と対処

● Fn と Ctrl、または Alt と ▤（アプリケーションキー）の機能が入れ替わっている可能性があります。

<Fn と Ctrl が機能しない場合>

BIOSの設定で、「Advanced」メニュー画面の「Exchange Fn & L-Ctrl key」が「Enabled」になっていないか確認してください。

<Alt と ▤（アプリケーションキー）が機能しない場合>

BIOSの設定で、「Advanced」メニュー画面の「Exchange R-Alt & Win App key」が「Enabled」になっていないか確認してください。

p.73 「入力キーの機能の入れ替え」
p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」

タッチパッドの不具合

現象

ポインタの動きが悪い。

確認と対処

● 手がぬれていたり、湿気を帯びていたりしていると、動きが悪くなります。

● LCDユニットを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。一度電源を切って入れなおしてください。

● タッチパッドユーティリティを起動し、ポインタの動作の設定を変更してみてください。

現象

ポインタが動かない。

確認と対処

● タッチパッドがOFFになっていないか確認してください。Fn + F9（▭/×）を押してみてください。

p.72 「Fnキーと組み合わせて使うキー」

▶表示装置の不具合

表示装置の不具合に対する対処方法を説明します。

LCDユニットの不具合

現象

LCD画面に何も表示されない。

確認と対処

● 外付けディスプレイを接続している場合は、外付けディスプレイの電源を入れ、画面が表示されるか確認してください。

● 画面の明るさを調節してください。[Fn]+[F5]/[Fn]+[F6]で調節できます。
p.98 「LCDユニットの調整」

● バックライトが消灯していないか確認してください。[Fn]+[F7]を押してみてください。
p.98 「バックライトの消灯」

● 省電力状態になっている可能性があります。キーボードを操作してください。
p.144 「省電力状態からの復帰方法」

● バッテリ使用時に、バッテリ残量が低下してそのまま放置すると、スリープ状態に移行します（購入時の設定）。ACアダプタを接続してから復帰してください。

● コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

● 警告音（ビープ音）が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。警告音（ビープ音）の回数をメモして、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
p.224 「警告メッセージ/警告音」

現象

画面がちらつく。

確認と対処

- LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、BIOS Setupユーティリティ画面でも同様の現象が発生するか確認して、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
  p.159 「BIOS Setupユーティリティの操作」

▶サウンドの不具合

サウンドの不具合に対する対処方法を説明します。

内蔵スピーカの不具合

現象

システムは正常に動作しているのに音が鳴らない。

確認と対処

- 内蔵スピーカの音声出力音量が小さくなっている、またはミュートになっている可能性があります。ボリュームを調節してください。
  p.111 「音量の調節」

▶ソフトウェアの不具合

ソフトウェアの不具合に対する対処方法を説明します。

ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、Windowsの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。

- ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、またはそのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

●HDD に対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、Windows が停止（ハングアップ）する場合があります。

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

●ソフトウェアの起動に必要とされるシステムリソース（メモリ容量やHDDの使用可能な容量など）が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

●ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

●実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。オプションのUSB FDDから起動しようとしている場合は、ドライブやディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

●ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合（違法コピーなど）、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。

●ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

「マニュアルびゅーわ」がグレーになって使用できない。

確認と対処

●「マニュアルびゅーわ」のインストールを行ってください。
p.189 「マニュアルびゅーわのインストール」

現象

Internet Explorerを使用時、情報バーに警告が表示される。

確認と対処

●購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

WindowsメールでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。

確認と対処

- メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピュータを保護するための設定が購入時にされています。
  HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。
  添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。
  Windowsメールの［ツール］－「オプション」－「セキュリティ」タブ－「ウイルスの可能性がある添付ファイルを保存したり開いたりしない」

現象

インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。

確認と対処

- ファイアウォールが有効に設定されていると、市販のネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。
  p.47 「セキュリティ対策を行う」
  詳細についてはソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

ソフトウェアやプログラムが停止し、「データ実行防止」画面が表示される。

確認と対処

- ソフトウェアやプログラムがウイルスに感染している可能性があります。セキュリティソフトウェアでウイルスの検索・駆除を行ってください。

- 安全なソフトウェアを実行して「データ実行防止」画面が表示される場合は、ソフトウェアの製造元へお問い合わせください。

- 問題が解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

インストール時の不具合

現象

インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書のインストール手順は購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

- 本書のインストール手順は、HDDのフォーマット後に行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象

Windows VistaリカバリDVDを入れて再起動をし、どれかキーを押してもWindowsの再インストールが開始されない。

確認と対処

- 光ディスクドライブの起動の順番をHDDよりも後ろに設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行して、起動順位を変更してください。
  p.168「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

▶ネットワーク、インターネットの不具合

ネットワーク（有線LAN、無線LAN）、インターネットの不具合に対する対処方法は、「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」をご覧ください。

システム診断ツールを使う

ここでは「システム診断ツール」について説明します。
システム診断ツールとは、本機の調子が悪いときに、不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを診断するためのツールです。本機に添付の「リカバリツールCD」に収録されています。

システム診断を実行する

システム診断の実行方法は、次のとおりです。

1 リカバリツールCDを光ディスクドライブにセットします。

「自動再生」画面が表示された場合は、[×]をクリックして画面を閉じてください。

2 [スタート] － [▶] － [再起動] をクリックして、本機を再起動します。

Windowsが起動できないときは、Ctrl+Alt+Deleteを押して、コンピュータを再起動します。

3 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。

システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。

4 診断が終了したら、診断結果を確認します。

「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』(別冊)をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

5 光ディスクドライブからリカバリツールCDを取り出し、電源を切ります。

これでシステム診断は完了です。

トラブル時に役立つ機能

ここではトラブルが発生した場合に役立つWindowsが持つ機能について説明します。

セーフモードでの起動

コンピュータが起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。**

2 **EPSONと表示され、消えた直後に［F8］を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。**
［F8］を押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。

3 **「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、［↑］または［↓］を押して、「セーフモード」を選択し、［↵］を押します。**
セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

システムの復元

コンピュータの動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってコンピュータを以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。
復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDDのデータをほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

1 **[スタート] －「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。**

3 **「システムの復元」画面が表示されたら、「推奨される復元」を選択し、[次へ] をクリックします。**
復元ポイントを自分で指定したい場合は、「別の復元ポイントを選択する」を選択して［次へ］をクリックし、ポイントを選択して［次へ］をクリックします。

4 「復元ポイントの確認」と表示されたら、内容を確認し、[完了]をクリックします。

5 「システムの復元を開始すると…」と表示されたら、[はい]をクリックします。

コンピュータが再起動します。

6 再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。…」と表示されたら、[閉じる]をクリックします。

これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

1 [スタート]－「すべてのプログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムの復元」を選択します。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行]をクリックします。

3 「システムの復元」画面が表示されたら、「システムの保護」をクリックします。

4 「システムのプロパティ」画面が表示されたら、復元ポイントを作るドライブ(ローカルディスク)にチェックを付けて[作成]をクリックします。

5 「復元ポイントの作成」と表示されたら、説明を入力し、[作成]をクリックします。

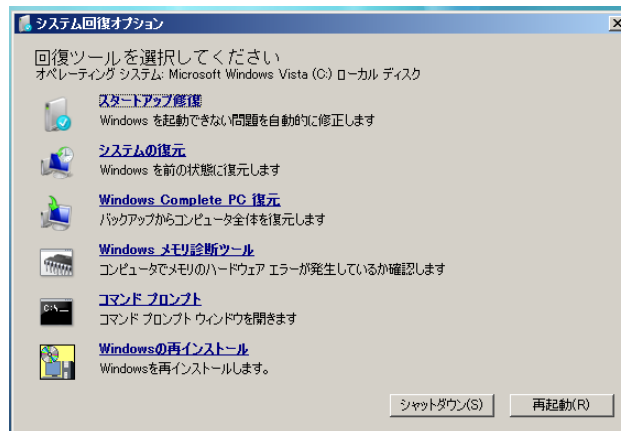
6 「復元ポイントは正常に作成されました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。

以上で復元ポイントの作成は完了です。

▶Windows回復環境（Windows RE）を使う

本機のHDD内の「消去禁止領域」には、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。Windowsに不具合が起きると、HDD内のWindows REが自動的に起動し、不具合に対する対処を行うことができます。

Windows REの項目

Windows REには、次の項目があります。

- **スタートアップ修復**
  Windowsを起動できない問題を自動的に修正します。Windowsが起動できないときは、まずスタートアップ修復を行ってみてください。
- **システムの復元**
  コンピュータの状態を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻します。
- **Windows Complete PC復元**
  バックアップしてあったデータを使用してコンピュータ全体を復元します。Windows Vista Home Premium、Windows Vista Home Basicには、Windows Complete PC復元のためのバックアップ機能はありません。
- **Windowsメモリ診断ツール**
  メモリにハードウェアエラーが発生しているかどうかを確認します。
- **コマンドプロンプト**
  コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

6

「システム回復オプション」画面が表示されたら

Windowsに不具合が起きると、HDD内のWindows REが自動的に起動し、「システム回復オプション」画面が表示されます。
「システム回復オプション」画面が表示されたら、次の手順でWindows REの項目を表示させ、対処を行います。

1 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。

2 「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で [次へ] をクリックします。

3 Windows REの項目が表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

HDD内のWindows REを手動で起動する

HDD内のWindows REは、手動で起動することもできます。
手動で起動する方法は、次のとおりです。

1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。

2 「EPSON」と表示され、消えた直後に [F8] を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
[F8] を押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。

3 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「コンピュータの修復」を選択し、[↵] を押します。

4 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。

5 「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で [次へ] をクリックします。

6 Windows REの項目が表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

DVDのWindows REを使用する

Windows REは本機に添付の「Windows VistaリカバリDVD」にも収録されています。HDD内に設定されているWindows REを誤って消去してしまった場合などに使用してください。
DVDに収録されているWindows REの起動方法は、次のとおりです。

1 **コンピュータの電源を入れ、Windowsが起動したら、「Windows VistaリカバリDVD」を光ディスクドライブにセットします。**
「自動再生」画面が表示されたら をクリックし、画面を閉じてください。

2 **[スタート] − [▶] −「再起動」をクリックして、コンピュータを再起動します。**

3 **「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。**
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindows Vistaが起動してしまいます。Windows Vistaが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。

4 **「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。**

5 **「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で [次へ] をクリックします。**

6 **Windows REの項目が表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。**

警告メッセージ/警告音

本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に以下の警告メッセージが表示されたり、警告音（ビープ音）が鳴ったりした場合は、以下の各対処を行ってください。処置を行ってもなおらない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になりテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ

メッセージ	説明と対処方法
Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key	● ブートデバイスにシステムがない場合は、「BIOS Setupユーティリティ」－「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で、システムの入ったデバイスを割り付けてください。 ● ブートデバイスにメディアが挿入されていない場合は、システムの入ったメディアをブートデバイスに挿入してください。
CMOS Battery Low	バックアップ用電池の容量が不足して、CMOS RAMの内容を保持できません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
CMOS Checksum Bad	CMOSの設定が正しく行われていません。BIOS Setupユーティリティを起動して、「Exit」メニュー画面－「Load Optimal Defaults」を選択してください。
CMOS Date/Time Not Set	日付と時間の設定が正しく行われていません。BIOS Setupユーティリティを起動し、日付と時刻の設定をなおしてから「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してください。

警告音（ビープ音）

警告音の回数	警告の内容	説明と対処方法
1	Memory refresh timer error	メモリリフレッシュが正しく行われていません。メモリ交換を行った場合は、もう一度取り付けなおしてください。
3	Main memory read/ write test error	メモリの読み込み、書き込みが正しく行われていません。メモリ交換を行った場合は、もう一度取り付けなおしてください。
6	Keyboard controller BAT test error	キーボードが正しく機能していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
7	General exception error	メモリ、キーボード以外のシステムが正しく動作していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
8	Display memory error	ビデオメモリが正しく動作していません。テクニカルセンターまでご連絡ください。

付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

「お手入れ」.......... 226
「データのバックアップ」.......... 227
「バックアップCDの作成」.......... 228
「電子マニュアルのダウンロード」.......... 230
「セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化」.......... 231
「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」.......... 232
「リチウム電池の交換」.......... 240
「コンピュータを廃棄するときは」.......... 241
「機能仕様一覧」.......... 243

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体

コンピュータ本体の外装の汚れは、柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD画面

LCD画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

データのバックアップ

Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（通常Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

▶バックアップ方法

自分で作成して保存したファイルやInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法やバックアップしたデータを復元する方法は、本機の「インフォメーションメニュー」にある「PCお役立ち情報」で詳しく紹介しています。

「PCお役立ち情報」から見る

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「正しく、安全に使おう！」項目の「Windowsシステム」

＜画面の内容は予告なく変更される場合があります＞

バックアップCDの作成

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストール用データは、CDメディアにバックアップすることができます。
HDDが故障したり、誤って消去禁止領域を削除したりすると、インストール用データは消えてしまいます。万一に備え、インストール用データをCDメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

▶バックアップCDの作成方法

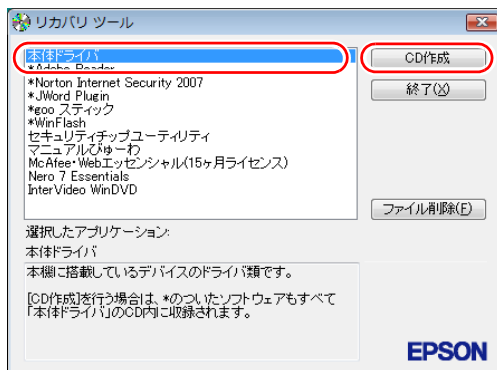
バックアップCDはリカバリツールを使用して作成します。
バックアップCDの作成方法は次のとおりです。

1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。

2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[CD作成] をクリックします。

4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧からCDにバックアップしたい項目を選択して [CD作成] をクリックします。

バックアップするデータが一時的にHDDにコピーされます。選択した項目によっては、手順5の画面が表示されるまでに数分かかります。

<イメージ>

項目名の前に「＊」のついたソフトウェアは、すべて本体ドライバのCD内に収録されます。個々にCDを作成する必要はありません。それ以外の項目は、1項目につきCDメディアが1枚必要です。

5 画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってCDに書き込みを行ってください。

▶バックアップCDからインストールを行うには

作成したバックアップCDから本体ドライバやソフトウェアをインストールする方法は次のとおりです。
ここでは、本体ドライバのバックアップCDからインストールする手順を例に説明します。

1　作成した本体ドライバのバックアップCDを光ディスクドライブにセットします。

2　「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。
クリックする記載内容は、「Setup.exeの実行」など、作成したバックアップCDによって異なります。
「自動再生」画面が表示されない場合は、［スタート］－「コンピュータ」－「EPSON_CD」をダブルクリックします。

3　「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［許可］をクリックします。
ソフトウェアによっては、［続行］をクリックします。

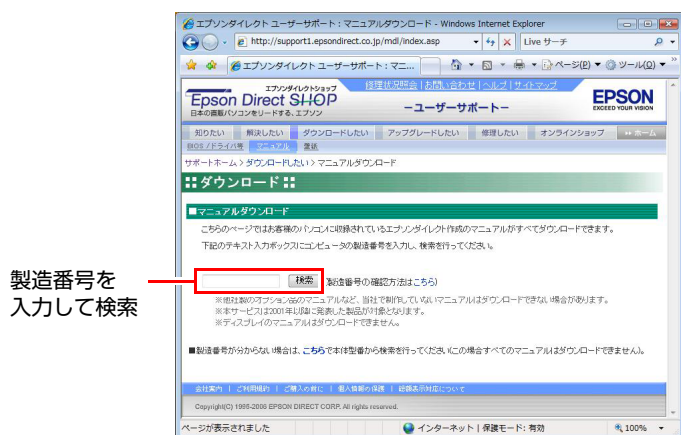
4　「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「インストール」をクリックします。
本体ドライバ以外のソフトウェアをインストールする場合は、ソフトウェア名をクリックします。

ここで表示される画面は、作成したバックアップCDによって異なります。
以降の手順は、p.179 「ソフトウェアの再インストールを行う」のそれぞれの項目をご覧ください。

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページからは、お使いのコンピュータや周辺機器の電子マニュアル（PDF・HTMLなど）をダウンロードすることができます。
紙マニュアルをなくしてしまった場合や、「マニュアルびゅーわ」のデータを削除してしまった場合などにご利用ください。

電子マニュアルのダウンロードは、次の場所から行います。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロードしたい」－「マニュアル」

＜画面の内容は予告なく変更される場合があります＞

ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」で見ることはできません。マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。

▶ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロードしたい」からは、次のデータもダウンロードすることができます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- ドライバ
- ユーティリティ
- お問い合わせ情報
- 壁紙

セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化

本機では、セキュリティチップ（TPM）のセキュリティ機能を使用することにより、本機に保存されているデータや電子メールに対し、高度な暗号化をすることができます。
セキュリティ機能を使用する際は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。
セキュリティ機能の使用方法は、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）をご覧ください。

セキュリティ機能を使用するには、いくつかのパスワードの設定を行ってください。パスワードを忘れると、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

セキュリティ機能を使い始めるまでの準備

セキュリティ機能を使用するための準備の前に、必ず、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。
セキュリティ機能を使用するには、BIOSの設定を変更後、「セキュリティチップユーティリティ」のインストールが必要です。

● BIOSの設定

セキュリティ機能を使用するには、次の項目の設定を変更します。
「Security」メニュー画面 －「TPM Security」

セキュリティ機能	TPM Security
使用しない場合	Disabled（無効）
使用する場合	Enabled（有効）

購入時は、「Disabled」に設定されています。

p.160 「BIOS Setupユーティリティの操作」

● セキュリティチップユーティリティのインストール

購入時、本機にセキュリティチップの設定を行うための「セキュリティチップユーティリティ」はインストールされていません。セキュリティ機能を使用するには、セキュリティチップユーティリティのインストールを行います。
インストール方法は、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

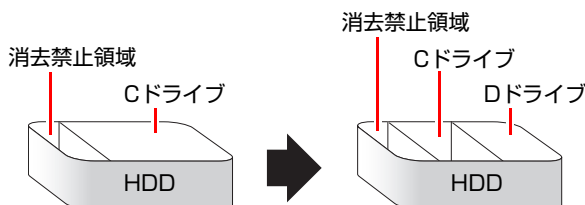
HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用する方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する（概要）

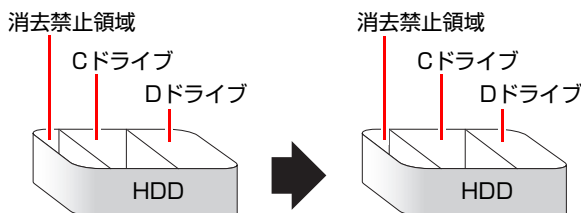
HDD領域（ドライブ）の分割

HDD領域は、いくつかに分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。
HDDを分割した1つ1つを「HDD領域」または「パーティション」とも言います。
また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

＜1台のHDDを分割する＞
例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。

消去禁止領域
「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアなどを再インストールするためのデータや、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。絶対に削除しないでください。

HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

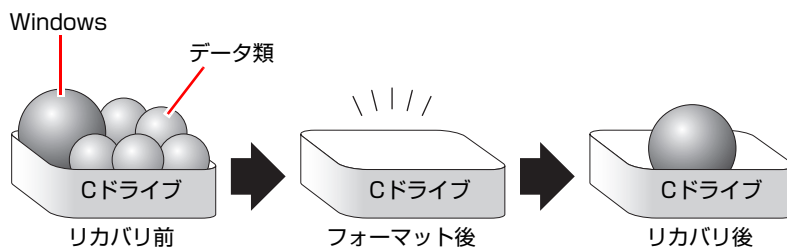
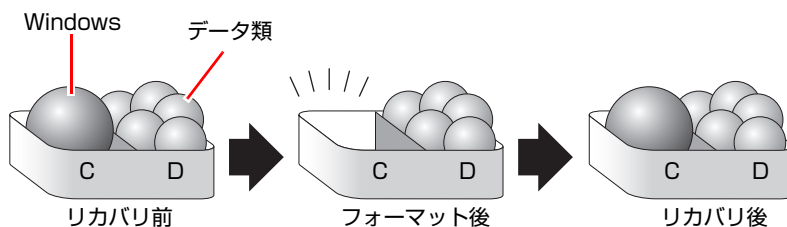
＜ドライブのサイズを変更する＞
例：Cドライブのサイズを大きくします。

この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

▶Cドライブを分割・変更する

Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

● メリット
HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリ時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

＜HDD領域が1つの場合＞

リカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

＜HDD領域を分割した場合＞

たとえば、WindowsやソフトウェアはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。
この状態でリカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。

HDD 領域を分割した HDD のリカバリをする場合は、万一に備えて C ドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

● デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ

Cドライブの分割・変更は、リカバリ（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。

Cドライブ以外のドライブの変更方法は、p.236 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。

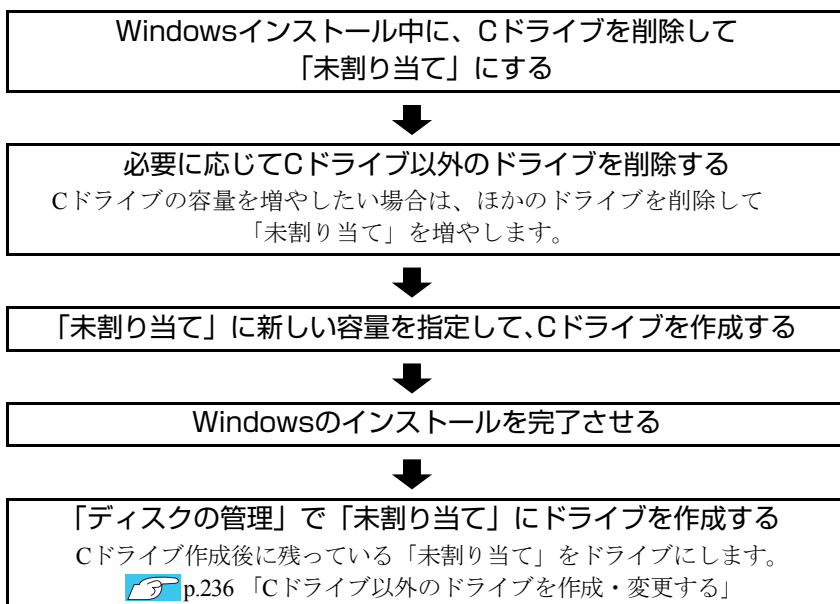
Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。

Windowsインストール中に、Cドライブを削除して
「未割り当て」にする

必要に応じてCドライブ以外のドライブを削除する
Cドライブの容量を増やしたい場合は、ほかのドライブを削除して
「未割り当て」を増やします。

「未割り当て」に新しい容量を指定して、Cドライブを作成する

Windowsのインストールを完了させる

「ディスクの管理」で「未割り当て」にドライブを作成する
Cドライブ作成後に残っている「未割り当て」をドライブにします。
p.236 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合は、Windowsの再インストールが必要です。
p.183 「Windows Vistaのインストール」の手順9を次の手順に読み替えて、Windowsのインストールを行ってください。

<p.183 「Windows Vistaのインストール」の手順9の読み替え>

1 **「ドライブオプション（詳細)」をクリックします。**

2 **「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で「削除」をクリックします。**

3 **「このパーティションを削除すると…」と表示されたら、[OK] をクリックします。**

削除したパーティション（Cドライブ）が「未割り当て領域」となります。

4 **次のとおり作業を続けます。**

<Cドライブを分割したい場合>

(1) 「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。

<Cドライブの容量を増やしたい場合>

(1) そのほかのパーティションもCドライブと同様に削除し、「ディスク0未割り当て領域」を増やします。
(2) 「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。

5 **Cドライブのサイズを決めます。サイズを入力し、「適用」をクリックします。**

Cドライブには、最低でも40GB（40000MB）を割り当てることをおすすめします。

6 **「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で、[次へ] をクリックします。**

Windows Vistaのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分～40分かかります。
続いてp.183 「Windows Vistaのインストール」手順10に進みます。
手順10の画面が表示されるまでキーボードやタッチパッドは操作しないでください。

▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

ここでは、Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）を作成・変更する方法について説明します。
次のような場合にご覧ください。

- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成された「未割り当て」をドライブにして使用する場合

Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、p.233「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

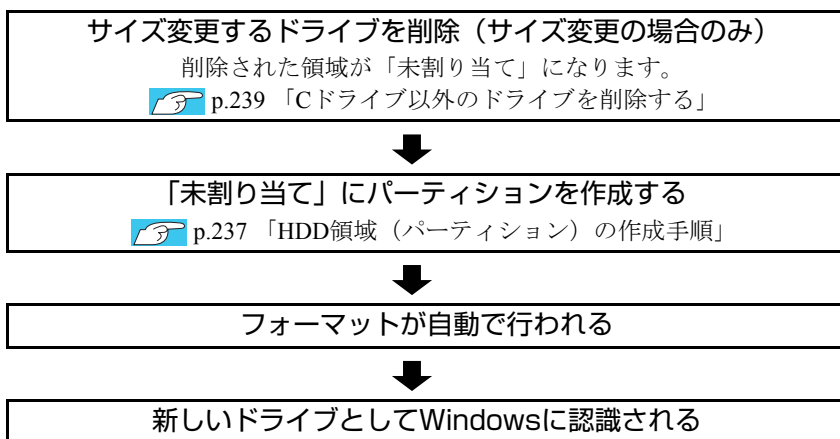
ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成・変更は、Windowsの「ディスクの管理」で行います。
ドライブの作成の流れは次のとおりです。

サイズ変更するドライブを削除（サイズ変更の場合のみ）
削除された領域が「未割り当て」になります。
p.239「Cドライブ以外のドライブを削除する」

「未割り当て」にパーティションを作成する
p.237「HDD領域（パーティション）の作成手順」

フォーマットが自動で行われる

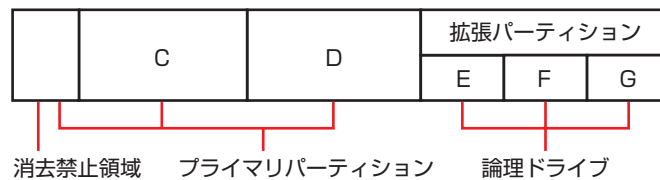
新しいドライブとしてWindowsに認識される

HDD内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。

ドライブの作成方法は、p.237「HDD領域（パーティション）の作成手順」をご覧ください。
ドライブの削除方法は、p.239「Cドライブ以外のドライブを削除する」をご覧ください。

パーティションとは

Windowsの「ディスクの管理」では、HDD領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。

- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。消去禁止領域もパーティションの1つです。
- パーティションを作成すると、自動的に3つ目まではプライマリパーティションとなり、4つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

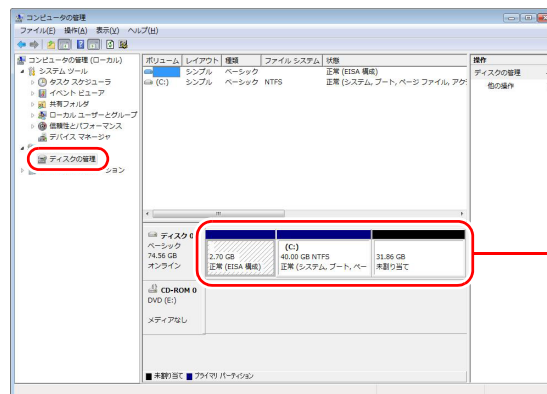
＜パーティションの組み合わせの例＞

HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域（パーティション）を作成する手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

3 **「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。**

HDD領域の状態が表示されます。

4 **パーティションを作成したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。**

5 **「新しいシンプルボリュームウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。**

6 **「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。**

7 **「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。**

8 **「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**

9 **「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されます。[完了] をクリックします。**

フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、HDD領域（パーティション）の作成は完了です。

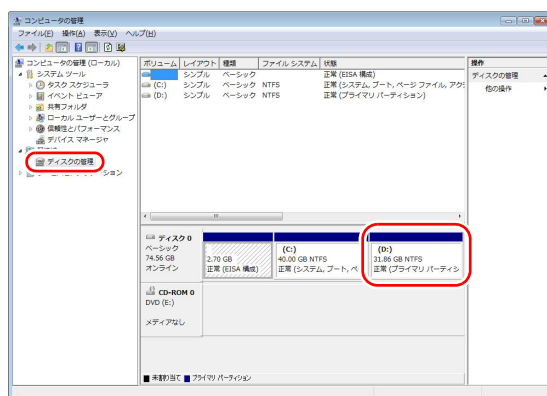
▶Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除してから、作成しなおします。
ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。
ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

1 **［スタート］－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」をダブルクリックします。**

2 **「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、［続行］をクリックします。**

3 **「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。**

HDD領域の状態が表示されます。

<イメージ>

4 **削除したいドライブ（パーティション）の領域を右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。**

5 **「・・・続行しますか？」と表示されたら［はい］をクリックします。**

パーティションを削除すると、「未割り当て」になります。「未割り当て」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

p.237 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

BIOS Setupユーティリティで設定した情報は、本機内部のリチウム電池によって保持されています。
リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況によって異なりますが、ACアダプタやバッテリからの電源供給が全くない場合､本機のリチウム電池の寿命は約5年です。
日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧になり、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

コンピュータを廃棄するときは

本機を廃棄するときは『サポート・サービスのご案内』(別冊) の「コンピュータの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前にHDDのデータを消去してください。
リカバリツールCDに収録されている「システム診断ツール」では、HDD内のデータをすべて消去することができます。
消去を開始すると、HDDのデータはもとには戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。

制限

データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

データの消去

HDD内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

1 本機の電源を入れ、リカバリツールCDを光ディスクドライブにセットします。

「自動再生」画面が表示された場合は、[×] をクリックして画面を閉じてください。

2 [スタート] − [▶] − [再起動] をクリックして、本機を再起動します。

3 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。

システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。

4 Ctrl + C を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。

5 選択項目画面が表示されたら、↓ で「HD Erase」を選択して ↵ を押します。

6 選択項目画面が表示されたら、↓ で「Full Erase」を選択して ↵ を押します。

7 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して ↵ を押します。

「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。消去を中止する場合は、Esc を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。

8　キーボードで「Yes」と入力します。

消去が始まります。
消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間はHDDの容量によって異なります（40GBのHDDの場合で約30分）。

9　「Erase of HDD :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、リカバリツールCDを光ディスクドライブから取り出して、コンピュータの電源を切ります。

これでデータの消去は完了です。

機能仕様一覧

CPU		インテルCore 2 Duoプロセッサ、Core Duoプロセッサ、Core Soloプロセッサ、Celeron Mプロセッサ
BIOS		AMI BIOS
チップセット		ATI Radeon® Xpress 1100（RC415ME+SB600）
セキュリティチップ	対応規格	TPM 1.2
	コントローラ	Infineon SLB9635TT12
メモリ	メインメモリ	PC2-4200 SODIMM（DDR2-533 SDRAM）を使用して最大2048MBまで搭載可能
	ビデオメモリ	メインメモリ512MB搭載時：メインメモリより最大128MBを使用 メインメモリ1GB搭載時：メインメモリより最大319MBを使用 メインメモリ2GB搭載時：メインメモリより最大831MBを使用
ビデオ	コントローラ	チップセット内蔵
画面表示	液晶タイプ	15.4型WXGA カラー液晶 1280×800ピクセル True Color （32ビット）＊1
		15.4型WXGA+ カラー液晶 1440×900ピクセル True Color （32ビット）＊1
	外部ディスプレイ接続	1600 × 1200ピクセル、True Color （32ビット）
サウンドコントローラ		ハイ・デフィニション・オーディオ対応Realtek製
キーボード		日本語対応87キー（Windowsキー付き）、インスタントキー 2個
ポインティングデバイス		タッチパッド
記憶装置	HDD	1台内蔵（2.5型S-ATA HDD）
	光ディスクドライブ	1台内蔵（種類は購入時の選択による）
インタフェース	USB	4（USB2.0対応）
	IEEE1394	1（4ピン）
	LAN	1（RJ-45 100Base-TX/10Base-T自動認識）
	サウンド	ステレオスピーカ、マイク入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1、モノラルマイク内蔵
	VGA	1（アナログRGB　ミニD-SUB　15 ピン）
PCカードスロット		1　TypeII　PC Card Standard準拠　（CardBus 対応）
メモリカードスロット		1　メモリースティック（Pro対応）、マルチメディアカード、SDメモリーカード対応
カレンダ時計		内蔵 （内蔵電池によりバックアップ）
電源	ACアダプタ	入力AC100V～240V±10%＊2、1.5A （50/60Hz）、出力19V、3.42A、65W　重量約320g（含電源コード）
	リチウムイオンバッテリパック	容量 4400mAh　Li-ion 11.1V　動作時間 約2.9時間（Core 2 Duo搭載時）、約3.3時間（Core Duo搭載時）、約3.5時間（Core Solo搭載時）、約2.8時間（Celeron M搭載時）JEITA＊3測定方法Ver1.0
温湿度条件		温度：10～35℃　湿度：20～80%（ただし、結露しないこと）
外形寸法		本体： 約365（幅）× 264（奥行）×41（高さ）mm（突起部を除く）
質量		本体： 約2.7kg
消費電力		76.5W（最大）/ 1.7W（スリープ状態）/ 1.3W（電源オフ時）

＊1 グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現しています。
＊2 標準添付されている電源コードはAC100V用（日本仕様）です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。
＊3 システム構成や使用環境により異なります。

無線LAN*[1]（オプション）

無線LAN*[1]	準拠規格	ARIB STD-66（小電力データ通信システム規格） 2.4GHz　無線LAN標準プロトコル
	データ転送速度（規格値）*[2]	802.11b：11Mbps 802.11g：54Mbps
	伝送方式	OFDM方式（IEEE802.11g） DS-SS方式（IEEE802.11b）
	伝送距離（理論値）	11Mbps：40m（IEEE802.11b） 54Mbps：25m（IEEE802.11g） 屋内におけるアクセスポイントとの通信時*[3]
	セキュリティ	128/64bit WEP、WPA、WPA2対応
	使用無線チャンネル	IEEE802.11b　：1～14ch IEEE802.11g　：1～13ch

*[1] 本製品には電波法の規定により工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。
認証製品名：AR5BXB63
認証番号：003NY06131 0000, 003GZ06036 0000

*[2] 無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

*[3] 実際の通信距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、ソフトウェア、OSなどの使用条件によって短くなります。

索　引

数字

1つのディスプレイモード 105

A

ACアダプタ
　接続する 37
　使う 58
ACアダプタコネクタ 32
Adobe Reader 27
　インストール 188
AP（無線LANアクセスポイント） 117

B

BIOS 157
BIOS Setupユーティリティ 159
　Passwordの設定 164
　起動 159
　起動（Boot）デバイスの順番を変更する 168
　終了 163
　設定項目 170
　設定値 175
　設定値を元に戻す 163
　操作 160

C

Caps Lockランプ 30
CDメディア
　読み込み・再生 82
COAラベル 25
Cドライブ 75
　分割・変更する 233
Cドライブ以外のドライブ
　削除する 239
　作成・変更する 236

D

DVD VIDEO再生ソフト 82
DVDメディア
　読み込み・再生 82

F

Fnキー 69, 72

G

gooスティック 27, 132
　インストール 191

H

HDDアクセス制限 165
HDD設定変更サービス 75
HDDのデータ消去 241
HDD領域
　分割・変更・作成 232
HDD（ハードディスクドライブ）
　使う 75
　不具合 207

I

IEEE1394コネクタ 32, 145, 156
InCD 85
Internet Explorer 130
　情報バー 132
　追加機能 132

J

Java2 Runtime Environment 26
JWord 132
JWord Plugin 26
　インストール 191

L

LANケーブル......115
LANコネクタ......32, 156
　接続......36
LCD画面......29
　お手入れ......226
LCDユニット......29, 97
　不具合......213
LCDラッチ......29

M

MACアドレスフィルタリング......120
MS-IME......70

N

Nero 7 Essentials......27
　インストール......190
　使い方......84
Norton Internet Security 90日版......27, 44, 135
　ファイアウォール機能......136
NumLockランプ......30, 71

P

Passwordの設定......172
PCお役立ち情報......46
PCカード......88
　スロット......156
　不具合......210
PCカードイジェクトボタン......32
PCカードスロット......32

S

S-ATA（Serial ATA）......75
SODIMM（メモリ）......149
　不具合......206
SSID......120
Supervisor Password（管理者パスワード）......164

T

TPM（セキュリティチップ）......231
　不具合......204

U

USB......86
USB2.0コネクタ......32, 156
USB機器......86
　接続と取り外し......86
　使う......86
USBマウス......68
User Password（ユーザーパスワード）......164

V

VGAコネクタ......32, 156

W

Wakeup On LAN......116
WEPキー......120
Windows Defender......137
Windows Media Player......113
Windows RE......76, 221
Windows Update......133
Windows Vista
　インストール......182, 183
　セットアップ......39, 42
Windows VistaリカバリDVD......179
Windows回復環境......47, 76, 221
Windowsの修復......47
Windowsメール......130
　初期設定......131
WinDVD......27, 82
　インストール......190
WPA/WPA2......120

あ

アイコン......20
アクセスランプ......31
アップグレードサービス......148
アルファベットの入力......71
暗号化......120

い

インスタントキー......30, 74
インスタントキードライバ......26
インスタントキーユーティリティ......26
インストール
　Adobe Reader......188
　gooスティック......191
　JWord Plugin......191
　Nero 7 Essentials......190
　Windows Vista......182, 183
　WinDVD......190
　セキュリティソフトウェア......44, 189
　セキュリティチップユーティリティ......191, 231
　本体ドライバ......186
　マニュアルびゅーわ......189
　リカバリツール......186
インストール時の不具合......217
インターネット
　接続......128
　不具合......217
インターネットエクスプローラ(Internet Explorer)......130
インフォメーションメニュー......26, 45

う

ウイルス対策機能......135

え

液晶ディスプレイ......97

お

オーディオ機器の接続......112
お手入れ......226
お問い合わせ情報シール......25
オペレーティングシステム(OS)......19
音量の調節......111

か

解像度の変更......103
書き込み
　光ディスクメディア......83
拡張デスクトップモード......105
各部の名称と働き......29
カスタマイズ......22
カテゴリの表示......48
かな入力......70
画面サイズ切り替えキー......30, 100
画面サイズの切り替え......100
画面表示......97
管理者......50
管理者パスワード......164
管理者(Administrator)......181

き

キーボード......31, 69
　不具合......211
記憶装置
　不具合......207
起動時の不具合......196
起動順位の変更......168
機能キー......69
機能仕様一覧......243
休止状態......141
強制取り出し
　光ディスクメディア......81
記録メディア......9

く

クラシック表示 ... 48
クリックボタン ... 31
クローンモード ... 105

け

警告音 ... 224
警告メッセージ ... 224
検索
　JWord ... 132

こ

コピーコントロールCD ... 77
コントロールパネルの表示 ... 48
コンピュータウイルス ... 130, 135
コンピュータの廃棄 ... 241
コンピュータ本体の不具合 ... 203
　起動時 ... 196

さ

再インストール ... 178
　必要なメディア ... 179
再起動 ... 54
再生
　音声 ... 113
サウンド
　不具合 ... 214
サウンド機能 ... 111
サウンドドライバ ... 26
サウンドユーティリティ ... 114
サポート情報検索 ... 47
サポート・サービスのご案内 ... 25

し

システム診断ツール ... 27
　HDDのデータ消去 ... 241
　システム診断の実行 ... 218
システムの拡張 ... 147
システムの復元 ... 219
シャットダウン ... 51
終了 ... 52
　電源を切る ... 53
仕様 ... 243
消去禁止領域 ... 76, 232
省電力機能 ... 48, 139
　不具合 ... 203
省電力状態
　移行しない設定 ... 142
　移行方法 ... 142
　復帰方法 ... 144
情報バー ... 132
使用・保管時の注意 ... 8
初期設定ツール ... 44

す

数値キー ... 69
数値の入力 ... 71
スクロール ... 67
スタートボタン ... 20
スタートメニュー ... 20
ステータス表示ランプ ... 30
ステレオスピーカ ... 33
スピードステップ機能 ... 145
スリープ状態 ... 51, 141

せ

制御キー ... 69
セーフモード ... 103, 219
セキュリティ機能 ... 231
セキュリティソフトウェア ... 135
　インストール ... 44, 189
セキュリティチップユーティリティ ... 27

インストール 191, 231
設定 183
セキュリティチップ（TPM） 231
不具合 204
セキュリティロックスロット 32, 146
接続と取り外し
USB機器 86
設定値を元に戻す 163
セットアップ
Windows 39
Windows Vista 42
セットアップ完了後の作業 44
セットと取り外し
PCカード 89
メモリカード 94

そ

外付けディスプレイ 104
解像度と表示色 110
キーボードで操作する場合 106
接続 104
表示の終了 104
ユーティリティから操作する場合 107
ソフトウェア
強制終了 55
不具合 214

た

タスクバー 20
タッチパッド 31, 66
不具合 212
タッチパッドドライバ 26
タブ 20
ダブルクリック 67

ち

直接入力モード 70

つ

通知領域 20
通風孔 32

て

ディスクの管理 192
ディスプレイ（LCD） 97
不具合 213
データの暗号化 231
デスクトップ画面 20
電源スイッチ 30
電源設定 139
電源の入れ方 41
電源プラン 139
電源ランプ 31
電源を切る 52
強制終了 55
シャットダウン 53
添付されているソフトウェア 26

と

ドラッグアンドドロップ 67
トラブルが解決しなかったら 47
「取り外し」アイコン 87, 90, 95

な

内蔵ステレオスピーカ 33, 111
内蔵スピーカ
不具合 214
内蔵マイク 29, 112

に

日本語入力システム 70
日本語入力モード 70
入力装置
　　不具合 211

ね

ネットワーク
　　不具合 217
ネットワークドライバ 26
ネットワーク（有線LAN） 115

の

ノーマル表示 101

は

パーティション 237
ハードディスクドライブ（HDD） 76
　　不具合 207
　　領域の分割・変更・作成 232
廃棄（コンピュータ） 241
パスワード 164
パスワードの設定 166
バックアップ 183, 227
バックアップCD
　　インストール 229
　　作成 228
バックライト 98
バッテリ残量低下
　　通知 61
バッテリ充電ランプ 31
バッテリ低下
　　設定 62
バッテリパック 33
　　交換 63
　　装着する 35
　　使う 58
　　不具合 204
ハングアップ 55

ひ

光ディスクドライブ 29
　　アクセスランプ 29
　　イジェクトホール 29
　　イジェクトボタン 29
　　使う 77
　　不具合 208
光ディスクメディア
　　書き込み 83
　　読み込み・再生 82
ビデオドライバ 26
ビデオプロジェクタ 104
表示色の変更 103
表示装置
　　不具合 213
標準ユーザー 50

ふ

ファイアウォール 136
ファイル削除
　　リカバリツール 188
フィッシング詐欺検出機能 138
フィッシング対策機能 135
フォルダメニュー 49
復元ポイントを手動で作成する 220
プロファイル 126

へ

ヘッドフォン出力コネクタ 32, 112, 156

ほ

ボタン....20
本機の終了方法....51
本体ドライバのインストール....186

ま

マイク入力コネクタ....32, 112, 156
マウスの接続....68
マニュアルダウンロード....230
マニュアルびゅーわ....27, 46
　　インストール....189

む

無線LAN....117
無線LANアクセスポイント....117
無線LANキー....30
無線LAN状態ランプ....31, 122
無線LANドライバ....26

め

メディアの強制取り出し....81
メモリカード....93
　　不具合....211
メモリカードスロット....32, 156
メモリカードドライバ....26
メモリ（SODIMM）....149
　　不具合....206

も

文字キー....69
文字を入力するには....70

ゆ

ユーザーアカウント....49
ユーザーアカウント制御画面....50
ユーザーサポートページ....47
ユーザーパスワード....164

ら

ライセンス認証....43
ライティングソフト....83

り

リカバリ....178
リカバリDVD....26, 179
リカバリツール....26
　　インストール....186
　　バックアップCDの作成....228
　　ファイル削除....188
リカバリツールCD....26, 179
リセットホール....33, 56
リチウム電池の交換....240
リモートブート....116
領域の作成....192

ろ

ローマ字入力....70

わ

ワイド表示....101

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。
本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。
本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがありますが、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人　電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。
有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。
＊ LCD ユニットを最大輝度で常時使用した場合の寿命は、10000 時間です。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

PCリサイクルマークについて

PCリサイクルマーク付きの当社製品は、当社が無償で回収、再資源化いたします。
詳細は下記ホームページをご参照ください。
http://www.epson.jp/ecology/

著作権保護法

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Internet Explorer 、Windows Media、ActiveX、BitLockerは米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Intel、インテル、Intel ロゴ、Celeron、Intel Core、Core Inside、Intel SpeedStep は、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

PS/2はInternational Business Machines の登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton Internet SecurityおよびLiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。